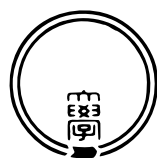


令和7年度

シラバス
＜履修ガイド＞

幼児保育学科



松本短期大学

目 次

I. 大学・学科暦	2
II. 履修科目	4
III. カリキュラムマップ	8
IV. 講義概要〈シラバス〉	
1. 1年生	13
2. 2年生	91
V. 教員担当科目一覧	157

I. 令和7年度（2025年）大学・学科暦

4月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	⑳	30			
	4/1 学年開始 4/2 入学式 4/3・4・7 前期オリエンテーション 4/8 前期授業開始						

7月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	㉑	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		
	7/12 オープンキャンパス 7/29～8/1・8/4 前期定期試験						

5月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	③
	④	⑤	⑥	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
	5/13 応急手当講座2年生(A) 5/20 応急手当講座2年生(B) 5/26～6/6 教育実習(2年生)						

8月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	⑪	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						
8/2 オープンキャンパス(午前) 8/5～9/15 夏季休業 8/19 前期定期試験成績発表 8/22 前期定期試験追再試 8/25～9/5 保育実習Ⅱ・Ⅲ(2年生)							

6月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					
	6/14 オープンキャンパス						

9月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	⑮	16	17	18	19	20
	21	22	㉓	24	25	26	27
	28	29	30				
	9/6 オープンキャンパス 9/16 後期オリエンテーション 9/17 後期授業開始						

○ は休日

10月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	⑬	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	
	10/18 短大入試 10/25 おとぎ祭						

1月	日	月	火	水	木	金	土
					①	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	⑫	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
	1/5 授業再開 1/15 卒業研究発表会(2年生) 1/19~23 後期定期試験 1/26~2/6 保育実習 I (保育園) (1年生)						

11月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	③	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	⑫
	23	⑭	25	26	27	28	29
	30						
11/3 オレンジリボン 11/4~17 教育実習(1年生) 11/15 短大入試							

2月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	⑪	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	⑬	24	25	26	27	28
	2/7 短大入試 2/10 後期定期試験成績発表 2/13 後期定期試験追再試 2/16~3/2 保育実習 I (施設) (1年生)						

12月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			
	12/13 短大入試 12/27~1/4 冬季休業						

3月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	⑳	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
	3/9 短大入試 3/12 卒業式前登校日 3/13 卒業式 3/20 春のオープンキャンパス 3/31 学年終了						

II. 令和7年度 履修科目

1年生

幼児保育学科の授業カリキュラムは、以下に示した学則の別表第1にしたがって行われる。表の網掛け部分が1年生に組まれている授業科目である。

別表第1

幼児保育学科教育課程

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考		
			開設単位	必修	選択				
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	生命倫理	講義	2		2	30	合計10単位以上	
		健康と運動Ⅰ	講義	1	1		15		
		健康と運動Ⅱ	実技	1	1		30		
	ひとの可能性を考える	こころの科学	講義	2		2	30		
	ひとの権利を考える	暮らしの中の憲法	講義	2		2	30		教免必修
	ひとの生活を考える	キャリア形成Ⅱ	講義	1	1		15		
		地域交流実践	演習	1		1	30		
	学修の基礎力を培う	英語表現	演習	2	2		30		教免必修
		情報処理演習	演習	2		2	30		
		暮らしの中の数学	講義	2		2	30		
キャリア形成Ⅰ		講義	1	1		15			
小計				17	6	11	285		
専門教育科目	保育原理	講義	2	2		30	保育士必修		
	教育原理	講義	2	2		30			
	子ども家庭福祉	講義	2		2	30			
	社会福祉	講義	2		2	30			
	子ども家庭支援論	講義	2		2	30			
	社会的養護Ⅰ	講義	2		2	30			
	保育者論	講義	2	2		30			
	保育・教育の心理学	講義	2	2		30			
	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	30			
	子どもの理解と援助	演習	2	2		30			
	子どもの保健	講義	2		2	30			
	子どもの食と栄養	演習	2		2	30			
	教育課程の編成と評価	講義	2	2		30			
	保育内容総論	演習	1	1		15			
	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	演習	2	2		30			
	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	演習	2	2		30			
	保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	演習	1	1		15			
	子どもと音楽表現	演習	1	1		15			
	子どもと造形表現	演習	1	1		15			
	子どもと健康	演習	1	1		15			
子どもと環境	演習	1	1		15				
子どもと人間関係	演習	1	1		15				
子どもと身体表現	演習	1	1		15				

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考
			開設単位	必修	選択		
専門教育科目	乳児保育Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修
	乳児保育Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子どもの健康と安全	演習	1		1	15	保育士必修
	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	演習	2	2		30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子育て支援	演習	1		1	30	保育士必修
	いのちと環境	演習	2		2	30	保育士選択
	保育・教育相談	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	子どもの音楽Ⅰ	演習	2	2		30	
	子どもの音楽Ⅱ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと運動遊び	演習	2	2		30	
	子どもと絵本	演習	1		1	15	保育士選択
	ことばと表現	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅠ	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅡ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと造形表現論	講義	2		2	30	保育士選択
	幼児教育の方法	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	幼児保育特講	演習	2		2	30	保育士選択
	教育実習指導	演習	1		1	30	教免必修
	教育実習	実習	4		4	180	教免必修
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	60	保育士必修
	保育実習Ⅰ	実習	4		4	180	保育士必修
保育実習指導Ⅱ	演習	1		1	15	} 保育士：Ⅱ又はⅢ 選択必修	
保育実習Ⅱ	実習	2		2	90		
保育実習指導Ⅲ	演習	1		1	15		
保育実習Ⅲ	実習	2		2	90		
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	2		30	
			84	32	52	1,680	
研究演習	基礎ゼミナール	演習	2	2		60	
	応用ゼミナール	演習	2	2		60	
小計			4	4		120	
合計			105	42	63	2,085	

※幼児保育学科の卒業最低単位数 選択必修を含む必修42単位 選択20単位 計62単位

内、教養基礎科目 必修6単位、選択科目の中から2科目以上4単位 計10単位

専門教育科目・研究演習 必修36単位、選択16単位、計52単位

※保育士：必修及び選択必修を除く、保育士選択科目から2単位以上を選択

※選択科目の履修単位数の上限：1年後期4単位 2年後期3単位（ただし教免必修、保育士必修、保育士選択を除く）

2年生

幼児保育学科の授業カリキュラムは、以下に示した学則の別表第1にしたがって行われる。表の網掛け部分が2年生に組まれている授業科目である。

別表第1

幼児保育学科教育課程

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考		
			開設単位	必修	選択				
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	生命倫理	講義	2		2	30	教免必修	
		健康と運動Ⅰ	講義	1	1		15		
		健康と運動Ⅱ	実技	1	1		30		
	ひとの可能性を考える	こころの科学	講義	2		2	30		
	ひとの権利を考える	暮らしの中の憲法	講義	2		2	30		
		キャリア形成Ⅱ	講義	1	1		15		
	ひとの生活を考える	地域交流実践	演習	1		1	30		
		学修の基礎力を培う	英語表現	演習	2	2			30
	情報処理演習		演習	2		2	30		
	暮らしの中の数学		講義	2		2	30		
	キャリア形成Ⅰ		講義	1	1		15		
	小計			17	6	11	285		
	専門教育科目	保育原理	講義	2	2		30		保育士必修
		教育原理	講義	2	2		30		
		子ども家庭福祉	講義	2		2	30		
社会福祉		講義	2		2	30			
子ども家庭支援論		講義	2		2	30			
社会的養護Ⅰ		講義	2		2	30			
保育者論		講義	2	2		30			
保育・教育の心理学		講義	2	2		30			
子ども家庭支援の心理学		講義	2		2	30			
子どもの理解と援助		演習	2	2		30			
子どもの保健		講義	2		2	30			
子どもの食と栄養		演習	2		2	30			
教育課程の編成と評価		講義	2	2		30			
保育内容総論		演習	1	1		15			
保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)		演習	2	2		30			
保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)		演習	2	2		30			
保育内容の指導法Ⅲ(言葉)		演習	1	1		15			
子どもと音楽表現		演習	1	1		15			
子どもと造形表現		演習	1	1		15			
子どもと健康		演習	1	1		15			
子どもと環境	演習	1	1		15				
子どもと人間関係	演習	1	1		15				
子どもと身体表現	演習	1	1		15				

授業科目の区分等	授業科目	授業形態	単位数			時間数	備考
			開設単位	必修	選択		
専門教育科目	乳児保育Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修
	乳児保育Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子どもの健康と安全	演習	1		1	15	保育士必修
	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	演習	2	2		30	
	社会的養護Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子育て支援	演習	1		1	30	保育士必修
	いのちと環境	演習	2		2	30	保育士選択
	保育・教育相談	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	子どもの音楽Ⅰ	演習	2	2		30	
	子どもの音楽Ⅱ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと運動遊び	演習	2	2		30	
	子どもと絵本	演習	1		1	15	保育士選択
	ことばと表現	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅠ	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅡ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと造形表現論	講義	2		2	30	保育士選択
	幼児教育の方法	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	幼児保育特講	演習	2		2	30	保育士選択
	教育実習指導	演習	1		1	30	教免必修
	教育実習	実習	4		4	180	教免必修
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	60	保育士必修
	保育実習Ⅰ	実習	4		4	180	保育士必修
保育実習指導Ⅱ	演習	1		1	15	保育士：Ⅱ又はⅢ 選択必修	
保育実習Ⅱ	実習	2		2	90		
保育実習指導Ⅲ	演習	1		1	15		
保育実習Ⅲ	実習	2		2	90		
保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	2		30		
			84	32	52	1,680	
研究演習	基礎ゼミナール	演習	2	2		60	
	応用ゼミナール	演習	2	2		60	
小計			4	4		120	
合計			105	42	63	2,085	

※幼児保育学科の卒業最低単位数 選択必修を含む必修42単位 選択20単位 計62単位

内、教養基礎科目 必修6単位、選択科目の中から2科目以上4単位 計10単位

専門教育科目・研究演習 必修36単位、選択16単位、計52単位

※保育士：必修及び選択必修を除く、保育士選択科目から2単位以上を選択

※選択科目の履修単位数の上限：1年後期4単位 2年後期3単位（ただし、教免必修、保育士必修、保育士選択を除く）

Ⅲ. カリキュラムマップ

	豊かな人間性	基本的知識と技術	他者との信頼関係	子ども家庭福祉	地域連携支援
卒業認定・学位授与の方針(DP)	(1)基礎的教養を身につけ、誠意と思いやりのある豊かな人間性を備え、福祉、保育、教育に携わる社会的責任と倫理観について理解している。	(2)ケアスペシャリストとして必要な保育及び幼児教育に関する基本的知識と技術を修得している。	(3)ケアスペシャリストとしての自覚を持ち、他者との信頼関係構築の重要性を理解できている。	(4)社会福祉の視点に立って、その最善の利益を保証できる思考力と実践力を修得している。	(5)保護者ニーズを的確に捉え、地域・関連機関と連携することの必要性を理解している。
学習成果	1) 社会における保育者、教育者の役割を理解し、福祉、保育、教育の総合的な知識をもとに行動することができる。 2) 他者の置かれた立場を尊重しながら、自らの考えを伝えることができる。	3) 子どもの心身の発達に関する正しい知識のもと、子どもの発達に合わせた適切な関わりや援助を行うことができる。 4) 保育、教育内容とその指導法についての知識を習得し、遊びなどの具体的な活動を計画し、実施することができる。	5) 相手の立場になって考え、円滑な人間関係の形成につながるコミュニケーションを取ることができる。	6) 保育、幼児教育、社会福祉に関する基本的な理論や知識を身につける。 7) 子どもの最善の利益を最優先に考え、保育・教育の計画を立案、実施する技術を身につける。	8) 多様な社会において、様々な立場の保護者に寄り添い、尊重し、共に子どもの成長を喜び合うことができる。 9) 保育及び幼児教育の現状を的確に把握し、子ども、保護者に必要な関わりを選択することができる、あるいは、必要な機関へ繋ぐ知識を身につける。 10) 地域の人々との交流を通して地域の文化・歴史を把握し、地域に貢献する意義を理解することができる。

卒業 2 年次 履修	後期	<input type="checkbox"/> こころの科学 <input type="checkbox"/> 生命倫理 <input type="checkbox"/> 健康と運動Ⅰ <input type="checkbox"/> 生涯スポーツⅡ	子どもの食と栄養 保育・教育相談 子どもと造形表現論	子どもと絵本 保育・教職実践演習(幼稚園) 応用ゼミナール	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	子育て支援
	前期	<input type="checkbox"/> 健康と運動Ⅱ <input type="checkbox"/> 地域交流実践	保育内容の指導法Ⅲ(言葉) いのちと環境 子どもと造形表現 子どもの音楽Ⅱ 子どもの保健 子どもの健康と安全 乳児保育Ⅱ 幼児保育特講	教育実習指導 保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ 応用ゼミナール		子ども家庭支援論 子ども家庭支援の心理学 <input type="checkbox"/> 地域交流実践

卒業 1 年次 履修	後期	<input type="checkbox"/> 暮らしの中の数学 <input type="checkbox"/> キャリア形成Ⅱ <input type="checkbox"/> 生涯スポーツⅠ	保育者論 保育内容 総論 保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係) 子どもと人間関係 乳児保育Ⅰ 子どもの理解と援助 幼児教育の方法 基礎ゼミナール	教育実習指導 保育実習指導Ⅰ	子ども家庭福祉 社会的養護Ⅱ	
	前期	<input type="checkbox"/> 暮らしの中の憲法 <input type="checkbox"/> キャリア形成Ⅰ <input type="checkbox"/> 英語表現 <input type="checkbox"/> 情報処理演習	保育原理 教育原理 保育・教育の心理学 教育課程の編成と評価 子どもと音楽表現 子どもと健康 子どもと環境 子どもと身体表現 ことばと表現 子どもの音楽Ⅰ 子どもと運動遊び 基礎ゼミナール		社会福祉 社会的養護Ⅰ	

○ひとの命と健康を考える □ひとの可能性を考える ◇ひとの生活を考える ◎ひとの権利を考える △学修の基礎力を培う

入学受入れの方針(AP)	(1) 子どもの育ちと生活に興味・関心がある。 (2) 誠実に人と向き合える。 (3) 人の話をよく聴き、自分の考えを伝えることができる。 (4) 学びや体験の機会に意欲的に取り組むことができる。 (5) 入学後の学修に必要な基礎学力がある。
--------------	---

幼児保育学科ディプロマ・ポリシーと学習成果の関係

ディプロマ・ポリシー	学習成果
1. 基礎的教養を身につけ、誠意と思いやりのある豊かな人間性を備え、福祉、保育、教育に携わる社会的責任と倫理観について理解している。	1) 社会における保育者、教育者の役割を理解し、福祉、保育、教育の総合的な知識をもとに行動することができる。 2) 他者の置かれた立場を尊重しながら、自らの考えを伝えることができる。
2. ケアスペシャリストとして必要な保育及び幼児教育に関する基本的知識と技術を修得している。	3) 子どもの心身の発達に関する正しい知識のもと、子どもの発達に合わせた適切な関わりや援助を行うことができる。 4) 保育、教育内容とその指導法についての知識を習得し、遊びなどの具体的な活動を計画し、実施することができる。
3. ケアスペシャリストとしての自覚を持ち、他者との信頼関係構築の重要性を理解できている。	5) 相手の立場になって考え、円滑な人間関係の形成につながるコミュニケーションを取ることができる。
4. 社会福祉の視点に立って、その最善の利益を保証できる思考力と実践力を修得している。	6) 保育、幼児教育、社会福祉に関する基本的な理論や知識を身につける。 7) 子どもの最善の利益を最優先に考え、保育・教育の計画を立案、実施する技術を身につける。
5. 保護者ニーズを的確に捉え、地域・関連機関と連携することの必要性を理解している。	8) 多様な社会において、様々な立場の保護者に寄り添い、尊重し、共に子どもの成長を喜び合うことができる。 9) 保育及び幼児教育の現状を的確に把握し、子ども、保護者に必要な関わりを選択することができる、あるいは、必要な期間へ繋ぐ知識を身につける。 10) 地域の人々との交流を通して地域の文化・歴史を把握し、地域に貢献する意義を理解することができる。

障がいのある学生への支援（合理的配慮）

本学では、障がいのある学生等が、他の学生と同じ環境で学生生活を送ることができるように、施設設備、講義保障、学校生活等についての相談に応じ、話し合い、合理的配慮のもと支援をすすめていきます。必要に応じて、他の学生や外部からの支援者の協力を得ながら、自立支援と資格取得に向けての学ぶ権利を保障することをめざします。

IV. 講義概要〈シラバス〉

1. 幼 児 保 育 学 科
<1年生開講科目>

令和7年度 幼児保育学科1年生

授業科目の区分		No.	科目名	担当教員	開設時期	
					前期	後期
教養基礎科目	ひとの権利を考える	1	暮らしの中の憲法	金枝	○	
	ひとの生活を考える	2	キャリア形成Ⅱ	齋藤(博)		○
	学修の基礎力を培う	3	英語表現	齋藤(博)	○	
		4	情報処理演習	高下	○	
		5	暮らしの中の数学	伊東		○
		6	キャリア形成Ⅰ	齋藤(博)	○	
専門教育科目	7	保育原理	生田	○		
	8	教育原理	黒田	○		
	9	子ども家庭福祉	田岡		○	
	10	社会福祉	田岡	○		
	11	社会的養護Ⅰ	田岡	○		
	12	保育者論	黒田		○	
	13	保育・教育の心理学	田中	○		
	14	子どもの理解と援助	田中		○	
	15	教育課程の編成と評価	黒田	○		
	16	保育内容 総論	生田		○	
	17	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	山田、中島、米窪		○	
	18	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	山藤		○	
	19	子どもと音楽表現	山田	○		
	20	子どもと健康	中島	○		
	21	子どもと環境	高橋	○		
	22	子どもと人間関係	山藤		○	
	23	子どもと身体表現	山田	○		
	24	乳児保育Ⅰ	高橋		○	
	25	社会的養護Ⅱ	田岡		○	
	26	子どもの音楽Ⅰ	山田、齋藤(博)、山口、飯田、鎌倉、野田、小池	○		
	27	子どもと運動遊び	古屋、中島	○		
	28	ことばと表現	山藤	○		
	29	生涯スポーツⅠ	古屋		○	
	30	幼児教育の方法	黒田		○	
	31	教育実習指導	高橋、齋藤(博)		○	
	32	教育実習	山田、生田、永石、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)		○	
	33	保育実習指導Ⅰ	生田、高橋、田岡		○	
	34	保育実習Ⅰ	山田、生田、永石、田中、古屋、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)		○	
	研究演習	35	基礎ゼミナール	山田、永石、田中、古屋、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○

※下線は主担当

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
1	暮らしの中の憲法	金枝 真佐尋	2	30	講義	1年前期	選択 (免必)
科目概要(講義目的)		私達が生きてゆくうえで憲法はどのような役割を果たしているかを理解する。					
到達目標		1) 基本的人権の重要性を説明できる 2) 憲法がどのような場面でどのような意義を持つのか、具体的に考えられる					
学習方法		講義を通して理解を深める。刑事事件の模擬裁判(経験学習)で適正な手続のあり方を理解する。					
課題のフィードバック		自己学習の疑問点は、授業内で解説する。授業中の疑問点は、授業後に質疑応答の機会を設ける。					
教員からのメッセージ		身近な生活の中で憲法の理念に沿って考えることができるようになることが重要です。					
テキスト		初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門 第6版」(有斐閣アルマ)(2020年)					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	100%	基本事項50%・応用事項50%で構成した筆記試験。
	事前・事後学習課題	0%	—
	授業内小テスト	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	憲法は何故大事か 憲法は権力をしぼる	事前	憲法の前文を読んで感想・疑問をメモしておく。	60分
		概要	ガイダンス、講義の進め方 立憲主義とは何か(憲法って意外と大切)	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジюмеのどの項目の内容かを配布レジюмеを見ながら検討する。	120分	
2	子どもの人権も憲法で保障されている	事前	教科書p3～p12を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分	
		概要	子どもの人権と児童虐待の防止について	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジюмеのどの項目の内容かを配布レジюмеを見ながら検討する。	120分	
3	個人の人権はどうして大切なのか	事前	教科書p25～p44を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分	
		概要	プライバシー権とは何か自己決定する権利について	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジюмеのどの項目の内容かを配布レジюмеを見ながら検討する。	120分	
4	平等とはどういうことか 人の命に差があるか	事前	教科書p45～p68を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分	
		概要	男女の法の下での平等、尊属殺人と重罰について	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジюмеのどの項目の内容かを配布レジюмеを見ながら検討する。	120分	
5	宗教と個人の自由・表現の自由でポルノが問題になるとは	事前	教科書p69～p88を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分	
		概要	信教の自由の意味、表現の自由とポルノについて	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジюмеのどの項目の内容かを配布レジюмеを見ながら検討する。	120分	
6	教科書を自由に作れるか	事前	教科書p122～p130を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分	
		概要	教科書と出版の自由、検定問題について	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジюмеのどの項目の内容かを配布レジюмеを見ながら検討する。	120分	

授 業 計 画 等	7	健康で文化的な生活何でも自由に営業できるか	事前	教科書 p99～p119 を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分
			概要	生存権とは何か営業規制と営業の自由について	担当 金枝
			事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	120分
	8	国は人の命を奪えるか	事前	教科書 p131～p140 を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分
			概要	死刑制度と憲法について	担当 金枝
			事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	120分
	9	平和に生きるために	事前	教科書 p153～p162 を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分
			概要	憲法第9条と平和主義について	担当 金枝
			事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	120分
	10	法律が憲法に反したらどうするか	事前	教科書 p207～p215 を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分
			概要	司法審査制と憲法について	担当 金枝
			事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	120分
	11	国民主権と天皇制の関係	事前	教科書 p142～p152 を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分
			概要	憲法上天皇とはどのような役割か	担当 金枝
			事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	120分
	12	なぜ2院制か 国会とは何をするとこ	事前	教科書 p164～p182 を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分
概要			衆議院と参議院について	担当 金枝	
事後			授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	120分	
13	内閣と総理大臣と議会の関係	事前	教科書 p184～p194 を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分	
		概要	議院内閣制とは何か 大統領制とはどのように違うか	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	120分	
14	地方のことは地方で決める 憲法は簡単に変えられるか	事前	教科書 p217～p257 を読んで、感想・疑問をメモしておく。	120分	
		概要	地方自治の本旨とは何か 憲法改正条項について	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	120分	
15	裁判はどのように行われるか	事前	第14回のレジュメのうち「司法」の範囲を読んで、感想・疑問をメモしておく。模擬裁判担当者は、模擬裁判のシナリオの読み合わせをしておく。	120分	
		概要	裁判の流を学び、模擬裁判を体験する	担当 金枝	
		事後	授業終盤の講義のまとめが、配布レジュメのどの項目の内容かを配布レジュメを見ながら検討する。	180分	
16	定期試験	筆記試験	担当 金枝		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
1	1) 2)	なし		教科書の該当項目について、よく読んでおいてください	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：授業終了後 場所：講師控室（1号館2階）		弁護士としての経験を踏まえ、憲法における人権の基本的な考え方について、子どもと関わる職務に必要な人権感覚を身に付けるような講義を展開する。			
その他（特記事項）等		なし			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
2	キャリア形成Ⅱ	齋藤 博紀	1	15	講義	1年後期	必修
科目概要（講義目的）		社会の現状を把握しながら、自らのキャリアについて具体的な目標を定め、それを達成するための基礎的スキルを習得する。					
到達目標		1) 社会状況を踏まえながら、自身のキャリアデザインをすることができる。 2) 社会に出ていくための基礎スキルを理解し、実行できる。					
学習方法		配布資料をもとに講義および事前・事後学習を行う。					
課題のフィードバック		事前学習および事後学習における課題については、随時コメントを行う。 最終課題については、コメントを付して返却する。					
教員からのメッセージ		次年度の就職活動に向けて、積極的に学んでいきましょう。					
テキスト		なし 随時資料を配布する。					
参考書		「保育者になるための初年次教育・キャリア教育」浅井拓久也編著（萌文書林、2021）					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	自己の現状を分析し、今後の目標とその手立てについて明確化することができているか。
	事前・事後学習課題	50%	課題に対する記述内容の具体性
	授業内小テスト	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション	事前	シラバスを読み、講義内容を確認する。			20分
概要			授業の進め方と到達目標を確認する。	担当	齋藤		
事後			授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。			100分	
2		キャリアをデザインするとは	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。			120分
			概要	キャリアデザインの必要性とその考え方を理解し、求められる能力について考える。	担当	齋藤	
			事後	授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。			120分
3		社会状況について	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。			120分
			概要	雇用状況や労働環境についての理解を深め、就職についてのイメージを持つ。	担当	齋藤	
			事後	授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。			120分
4	言語表現力について	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。			120分	
		概要	自分の思いや考えを表現する方法を学ぶ。	担当	齋藤		
		事後	配布資料を読み返し、内容の理解に努めること。資料の内容を踏まえ、テーマに対する自分の考えを800字以内でまとめることを奨励する。			120分	
5	ルールとマナーについて	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。			120分	
		概要	社会人としての基本的なマナーと就職活動等における注意点について学ぶ。	担当	齋藤		
		事後	授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。			120分	
6	自己表現について	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。			120分	
		概要	自身の性格や特徴を見つめ直し、自分や他者にアピールする方法を学ぶ。	担当	齋藤		
		事後	授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。			120分	

授 業 計 画 等	7	基礎学力について	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。	120分	
			概要	自身の能力や知識について考える。	担当	齋藤
			事後	配布したプリントを読み返し、内容の理解に努めること。	120分	
8	行動計画とまとめ	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。	120分		
		概要	学んできたことを振り返り、これからの自分について考え、行動計画を立てる。	担当	齋藤	
		事後	授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	120分		
9	定期試験	筆記試験	担当	齋藤		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし		なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 齋藤博紀研究室		該当せず				
その他（特記事項等）						
なし						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
3	英語表現	齋藤 博紀	2	30	演習	1年前期	必修
科目概要（講義目的）		保育を学ぶ学生のための教材を用い、英語力を高める。					
到達目標		英語の基礎力を養い、保育現場で使われるさまざまな英語表現を修得する。					
学習方法		英語によるアクティビティおよび音楽・映像・絵本といった媒体を活用した演習を行う。英作文の課題演習および授業の内容をまとめたレポートを作成する。					
課題のフィードバック		事前・事後学習課題および成果発表については、授業の際に随時コメントする。最終課題については、コメントを付して返却する。					
教員からのメッセージ		保育現場でどのように英語活動を展開していくか、一緒に考えていきましょう。					
テキスト		なし 必要に応じて随時プリントを配布する。					
参考書		授業中随時紹介する。					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	記述式問題
	事前・事後学習課題	30%	英作文の取り組み状況、得られた知識と自己の振り返り等の記載内容
	成果発表	20%	絵本の制作、読み聞かせ
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション	事前	シラバスを読み、演習内容を確認する。			20分
概要			授業の進め方と到達目標を確認する。	担当	齋藤		
事後			授業内容をプリントにまとめること。			100分	
2		自己紹介	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。			120分
			概要	自己紹介や挨拶に関する表現を学ぶ。	担当	齋藤	
			事後	授業内容をプリントにまとめること。			120分
3		保育における英語活動の実際	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。			120分
			概要	幼児の英語活動の概要と実態について学ぶ。	担当	齋藤	
			事後	授業内容をプリントにまとめること。			120分
4	チャンツ	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。			120分	
		概要	チャンツの事例を挙げ、その意義について学ぶ。	担当	齋藤		
		事後	授業で扱ったチャンツの習得に努めること。			120分	
5	英語の歌	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。			120分	
		概要	英語の歌の事例を挙げ、その意義について学ぶ。	担当	齋藤		
		事後	授業で扱った歌の習得に努めること。			120分	
6	アクティビティ①	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。			120分	
		概要	聞くことを目的としたアクティビティを実践し、その指導法を学ぶ。	担当	齋藤		
		事後	授業内容をプリントにまとめること。			120分	

授 業 計 画 等	7	アクティビティ②	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分
			概要	話すことを目的としたアクティビティを実践し、 その指導法を学ぶ。	担当 齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめること。	120分
	8	アクティビティ③	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分
			概要	自分の気持ちに関する表現を学ぶ。	担当 齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめること。	120分
	9	アクティビティ④	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分
			概要	保育園で身の回りにあるものに関する表現を学ぶ。	担当 齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめること。	120分
	10	異文化理解	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分
			概要	幼児の英語活動と異文化理解の関係性を学ぶ。	担当 齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめること。	120分
	11	メディアの活用①	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分
			概要	英語活動における映像の活用方法について学ぶ。	担当 齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめること。	120分
12	メディアの活用②	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分	
		概要	字幕映画を通して会話表現を学ぶ。	担当 齋藤	
		事後	授業内容をプリントにまとめること。	120分	
13	子ども向け絵本の制作①	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分	
		概要	子ども向けの英語の絵本について構想する。	担当 齋藤	
		事後	構想と授業で受けた助言をもとに、絵本の制作を行う。	120分	
14	子ども向け絵本の制作②	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分	
		概要	子ども向けの英語の絵本を制作する。	担当 齋藤	
		事後	絵本の読み聞かせの練習を行う。	120分	
15	子ども向け絵本の制作③	事前	指定した英作文の演習に取り組むこと。 定型文やボキャブラリー習得のための継続的な学習を推奨する。	120分	
		概要	制作した英語の絵本を読み聞かせを行う。	担当 齋藤	
		事後	これまでの授業内容、配布資料をもとに振り返りを行う。	120分	
16	定期試験	筆記試験	担当 齋藤		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2号館 3階 齋藤(博)研究室		該当せず			
その他(特記事項等)		なし			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
4	情報処理演習	高下 梓	2	30	演習	1年前期	選択 (免必)
科目概要(講義目的)		パソコンにおける基本的なアプリケーションの操作を学び、幼児保育施設で通用するスキルを習得する。					
到達目標		1. インターネット利用のマナーと倫理を理解できる。 2. Word・Excel・PowerPointの基本操作を行うことができる。					
学習方法		テキストや資料、スライドを用います。パソコンを操作して実体験を重ねます。課題はアプリケーションごとに、授業回の成果物を提出します。					
課題のフィードバック		事後学修課題(アプリケーション操作の習得度確認)は、提出に先立ち見本例・評価の観点に関わる資料を配布し、自己評価が行えるようにする。					
教員からのメッセージ		パソコンの基本知識・スキルを身につけて、学習や就職に活かしましょう。					
テキスト		「これからの保育のためのICTリテラシー&メディア入門」渡邊裕編(みらい:2022年)					
参考書		なし					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		60%	授業で扱った基礎事項により構成された選択問題(一部、自由記述)			
	事前・事後学習課題		40%	授業で扱ったアプリケーション操作の習得度を確認するための課題(10点×4回)			
	授業内小テスト		0%	—			
	他()		0%	—			
	他()		0%	—			
	他()		0%	—			
合計		100%	—				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション インターネットの利用マナー	事前	授業に使用するパソコンの設定や、必要に応じたアクセサリーの準備を行い、受講の準備を行う。テキスト p.16～27を読む。			180分
			概要	パソコンの基本操作と、インターネット利用のマナーや情報管理の留意点を学ぶ。		担当	高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。			60分
	2	パソコンの基本操作、タイピングの確認	事前	テキスト p.34～37を読む。			60分
			概要	パソコンの操作に必要な基本操作、キーボードの配置や機能を確認し、タイピングを練習する。		担当	高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。タイピングの練習を行う。			180分
	3	メールの基本操作	事前	大学アカウントでOutlook(メール)が使用できることを確認する。テキスト p.28～31を読む。			60分
			概要	電子メールの基本操作を学び、実践する。		担当	高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。タイピングの練習を行う。			180分
	4	Teamsの基本操作	事前	大学アカウントでMicrosoft Teamsが使用できることを確認する。			60分
			概要	Microsoft Teamsの基本操作を学び、実践する。		担当	高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。タイピングの練習を行う。			180分
	5	インターネット検索	事前	事前配布資料をもとに、調べたいテーマを考える。			60分
			概要	インターネットを用いて知りたい情報を得る方法を学ぶ。論文検索の方法を学ぶ。		担当	高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。タイピングの練習を行う。			180分
	6	Wordの基本操作	事前	テキスト p.40～46を読む。タイピングの練習を行う。			90分
			概要	Microsoft Wordのおもな機能を確認し、基本的な操作を行う。		担当	高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。タイピングの練習を行う。			180分

授 業 計 画 等	7	Wordによる文書作成	事前	テキスト p.48～59を読む。タイピングの練習を行う。	90分
			概要	Microsoft Wordを用いて、様々な機能を使いながら文書作成を行う。	担当 高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。タイピングの練習を行う。	180分
	8	Wordによる図表入り資料の作成と印刷操作の確認	事前	テキスト p.47, 66～77を読む。タイピングの練習を行う。	90分
			概要	文献情報をインターネットで調べ、Microsoft Wordの機能を用いて課題を作成する。	担当 高下
			事後	事後学修課題に取り組み、作成物を提出する	120分
	9	Excelの基本操作	事前	テキスト p.92～99を読む。タイピングの練習を行う。	90分
			概要	Microsoft Wordを用いて、様々な機能を使いながら文書作成を行う。	担当 高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。タイピングの練習を行う。	60分
	10	Excelによる図表の作成	事前	テキスト p.106～111, 130～135を読む。タイピングの練習を行う。	90分
			概要	Microsoft Excelを用いて、様々な機能を使いながら図表の作成を行う。	担当 高下
			事後	本時に学んだ内容を復習し、図表作成の課題を提出する。	120分
	11	PowerPointの基本操作	事前	テキスト p.144～145, 152～157を読む。タイピングの練習を行う。	90分
			概要	Microsoft PowerPointのおもな機能を確認し、基本的な操作を行う。	担当 高下
			事後	本時に学んだ内容を復習する。タイピングの練習を行う。	120分
	12	PowerPointによる資料作成	事前	テキスト p.175～181を読む。グループメンバーで調べたいテーマを考える。	90分
概要			Microsoft PowerPointのおもな機能を確認し、基本的最終回の発表グループと発表テーマ・分担を決め、調べ学習を行う。	担当 高下	
事後			グループメンバーで決めた分担に沿って調べ学習に取り組む。	120分	
13	PowerPointによるプレゼンテーション	事前	グループメンバーで決めた分担に沿って調べ学習に取り組む。	90分	
		概要	調べ学習の内容について、Microsoft PowerPointの様々な機能を使ってプレゼンテーション資料を作成する。	担当 高下	
		事後	本時に学んだ内容を復習し、PowerPointの課題を提出する。	180分	
14	PowerPointによるプレゼンテーションの作成・データ統合とリハーサル	事前	グループで分担した調べ学習を行い、PowerPointの資料にまとめる。	120分	
		概要	プレゼンテーション資料を完成させる。複数の発表データの統合方法を学ぶ。リハーサルを行って最終確認する。	担当 高下	
		事後	発表用のPowerPointデータを提出し、グループメンバーで最終確認をする。	180分	
15	プレゼンテーションの発表	事前	発表にあたり、自分の担当部分の最終確認をする。	60分	
		概要	Microsoft PowerPointで作成したプレゼンテーション資料を発表し、様々な作成例を学び合う。	担当 高下	
		事後	期末試験に向けて全回の授業の内容を復習する。	240分	
16	定期試験	筆記試験	担当 高下		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：金曜昼休み 場所：3号館1階：高下研究室		該当せず			
その他（特記事項等）					
対面以外の連絡を希望する場合は、Outlook（メール）で行ってください。Teamsは不可です。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
5	暮らしの中の数学	伊東 和広	2	30	講義	1年後期	選択

科目概要（講義目的）	数学の様々な分野への応用を理解し、生活の中でそれを活用できるようにする。
到達目標	身の回りにある数学に気付き、数学的手法や思考法を活用していくことができる。そういう姿勢及び力を養うことができる。
学習方法	・公務員試験問題やSPI問題なども扱いながら講義を行う。 ・講義時間内の問題への取り組みも予定。
課題のフィードバック	課題回収後、授業中及び資料の配布により課題解説する。
教員からのメッセージ	数学には「根性」も必要です。その先に数学のおもしろさが見えてきます。一緒に頑張りましょう。
テキスト	なし レジュメを作成する
参考書	公務員試験・SPI問題集

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	45%	筆記試験
	レポート	35%	内容
	講義時間内の問題への取り組み	20%	内容
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計	100%	—	

授業計画等	回	項目	内容			
	1	数の世界と計算	事前	・講義に向けての準備		60分
			概要	・物の大きさを実感する ・計算法則を理解し計算の基礎を身につける	担当	伊東
			事後	・課題等を通して復習		180分
	2	算数で基礎固め	事前	・講義に向けての準備		60分
			概要	・割合、金額、速さ、濃度などの計算ができる	担当	伊東
			事後	・課題等を通して復習		180分
	3	ものの集まり	事前	・講義に向けての準備		60分
			概要	・集合の考え方がわかる ・包除原理を使った計算ができる	担当	伊東
			事後	・課題等を通して復習		180分
	4	数量を扱う	事前	・講義に向けての準備		60分
			概要	・数量を文字式で表す ・方程式の解法の確認	担当	伊東
			事後	・課題等を通して復習		180分
	5	方程式の利用	事前	・講義に向けての準備		60分
			概要	・方程式を用いた数量の処理ができる	担当	伊東
			事後	・課題等を通して復習		180分
	6	スマートに数える	事前	・講義に向けての準備		60分
			概要	・樹形図を用いて数えられる ・順列、組合せの計算ができる	担当	伊東
			事後	・課題等を通して復習		180分

授 業 計 画 等	7	身近な確率	事前	・講義に向けての準備	60分
			概要	・確率の考え方がわかる ・確率の計算ができる	担当 伊東
			事後	・課題等を通して復習	180分
	8	確率で予想する	事前	・講義に向けての準備	60分
			概要	・いろいろな確率の計算ができる ・確率を利用する	担当 伊東
			事後	・課題等を通して復習	180分
	9	平均点の嘘	事前	・講義に向けての準備	60分
			概要	・平均点などの統計的数量の計算ができる ・数値に惑わされない統計の見方ができる	担当 伊東
			事後	・課題等を通して復習	180分
	10	データをグラフで表現する	事前	・講義に向けての準備	60分
			概要	・データをグラフで表現できる ・データを比較できる	担当 伊東
			事後	・課題等を通して復習	180分
	11	論理的思考の基礎	事前	・講義に向けての準備	60分
			概要	・命題の真偽の判定ができる ・命題を扱える	担当 伊東
			事後	・課題等を通して復習	180分
	12	論理的に思考する	事前	・講義に向けての準備	60分
概要			・身近な事柄を論理的に捉えられる ・いろいろな証明方法を理解する	担当 伊東	
事後			・課題等を通して復習	180分	
13	ピタゴラスの定理	事前	・講義に向けての準備	60分	
		概要	・定理の簡単な利用ができる ・平面図形、空間図形の求積ができる	担当 伊東	
		事後	・課題等を通して復習	180分	
14	図形を扱う	事前	・講義に向けての準備	60分	
		概要	・図形の様々な扱い方ができる	担当 伊東	
		事後	・課題等を通して復習	180分	
15	整数の話	事前	・講義に向けての準備	60分	
		概要	・n進数を扱える ・素数にふれ、コンピュータへの応用を知る	担当 伊東	
		事後	・課題等を通して復習	180分	
16	定期試験	筆記試験	担当 伊東		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし	これまでの数学の復習	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：授業終了後 場所：講師控室		中等教育課程における数学指導の経験を踏まえ授業を展開する。			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
6	キャリア形成 I	齋藤 博紀	1	15	講義	1年前期	必修

科目概要 (講義目的)	大学での学びに必要な基礎を習得し、実習や社会に出ていくための基礎的マナーを身につける。また、資格を活かしたキャリアについての知識を深める。
到達目標	1) 学習・実習への取り組み、就職活動、社会人に必要な基礎的知識・技能を理解している。 2) 書き言葉・話し言葉、レポートの書き方、手紙の書き方、電話のかけ方、基礎的マナー等の基礎的知識を理解し実行できる。
学習方法	テキストと配布資料をもとに講義や予習・復習を行います。テーマに応じて体験学習に取り組みます。
課題のフィードバック	事前学習および事後学習の課題については、随時コメントを行う。
教員からのメッセージ	学生・社会人として必要な知識・技術を積極的に身につけましょう。
テキスト	「改訂2版 これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉」長島和代編 (わかば社、2021)
参考書	なし

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	70%	記述式問題
事前・事後学習課題	30%	事前・事後学習課題における記載内容	
授業内小テスト	0%	—	
他 ()	0%	—	
他 ()	0%	—	
他 ()	0%	—	
合計	100%	—	

授業計画等	回	項目	内容		
	1	オリエンテーション	事前	シラバスを読み、講義内容を確認する。	20分
概要			授業内容・大学での決まりについて確認し、学生生活の基礎を学ぶ。	担当 齋藤	
事後			授業内容をプリントにまとめ復習を行うことを奨励する。授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	100分	
2		基礎マナー	事前	自己紹介ツールを準備しておくこと。	120分
			概要	自己紹介・挨拶に関する基礎マナーを理解する。	担当 齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめ復習を行うことを奨励する。授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	120分
3	学修の基礎力を高める①	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。	120分	
		概要	タイム・マネジメントとノートのとり方について学ぶ。	担当 齋藤	
		事後	授業内容をプリントにまとめ復習を行うことを奨励する。授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	120分	
4	学修の基礎力を高める②	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。	120分	
		概要	リーディングと情報収集の方法について学ぶ。	担当 齋藤	
		事後	授業内容をプリントにまとめ復習を行うことを奨励する。授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	120分	
5	レポートの書き方	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。	120分	
		概要	原稿用紙の使い方、レポートの体裁を確認し、レポート提出の基本事項を理解する。	担当 齋藤	
		事後	授業内容をプリントにまとめ復習を行うことを奨励する。授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	120分	
6	話し言葉	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。	120分	
		概要	書き言葉と話し言葉の違いを確認し、社会人としての基礎を身につける。	担当 齋藤	
		事後	授業内容をプリントにまとめ復習を行うことを奨励する。授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	120分	

授 業 計 画 等	7	手紙の書き方	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。	120分
			概要	ハガキや便箋の使い方、手紙・封筒の書き方・使用方法を理解する。	担当 齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめ復習を行うことを奨励する。授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	120分
8	資格の活かし方	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。	120分	
		概要	保育に関わる仕事の多様性を学び、自身のキャリアを考える。	担当 齋藤	
		事後	授業内容をプリントにまとめ復習を行うことを奨励する。授業内容に関する課題プリントに取り組むこと。	120分	
9	定期試験	筆記試験	担当 齋藤		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
1		1) 2)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 齋藤博紀研究室		該当せず			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
7	保育原理	生田 恵津子	2	30	講義	1年前期	必修
科目概要（講義目的）		1. 保育の意義と目的、保育の思想と歴史の変遷について理解できる。2. 保育所保育指針における保育の基本について理解できる。3. 保育の現状と、保育に関する法令や政策を理解できる。					
到達目標		保育の意義及び現代社会における保育の現状と課題について考え、今日の保育を形成してきた保育の思想・制度・実践の歴史の変遷を知る。さらに保育所保育指針の基本的理解の上に保育の営みそのものを学び、子ども観、保育者の役割について理解する。					
学習方法		授業形式は講義を中心として進めるが、主題によってはグループ検討なども行う。事前・事後学習。授業内での理解度テストを行う。					
課題のフィードバック		自己学習における質問等は、teams において解説する。授業内に行う理解度テストは翌授業日に返却し、解説を行う。					
教員からのメッセージ		保育の根幹を学ぶ科目です。法令など難しい内容が多いですが、楽しみながらしっかり学びましょう。					
テキスト		NEW ERA 保育原理 - 実践を支える保育のこころ - みなみ書房 (2024)					
参考書		保育所保育指針 フレーベル館 (2023)					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	基本事項 80% (選択問題) 応用事項 20% (記述問題)
	事前・事後学習課題	30%	自己学習の記載内容
	授業内小テスト	20%	適切な内容であるか理解度を計る
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容	
	1	保育の意義と子どもの最善の利益	<p>事前 テキストプロローグを読み大切だと感じた箇所を書き出し、自身の考えを記入する。(400字程度) 120分</p> <p>概要 授業の進め方、課題提出の方法などが理解できる。保育の意義と「子どもの最善の利益」について理解することができる。担当 生田</p> <p>事後 「子どもの権利条約」(4つの原則)について、身近な例を挙げまとめる。 120分</p>	
2	保育の本質と目的	<p>事前 児童福祉法第18条の4、第48条の4に書かれていることを要約する。 120分</p> <p>概要 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育保育要領の方向性について理解できる。担当 生田</p> <p>事後 保育所保育指針で「乳児保育」の記述が充実した理由についてまとめる。 120分</p>		
3	児童観と保育観の確立	<p>事前 テキスト p25～p26 を読み、自身の子ども観を書く。箇条書き可 (400字程度) 120分</p> <p>概要 時代の変化、社会の変化の中で変わってきた子ども観を学び、これからの時代に保育が果たす役割を理解できる。担当 生田</p> <p>事後 SDGs と ESD の関係を整理し、まとめる。(図にしても良い) 120分</p>		
4	諸外国の保育の思想と歴史	<p>事前 テキスト p35～36 を読み、感想を書いてくる (400字程度) 120分</p> <p>概要 子育てが家庭から、社会的子育てと捉えられるようになってきた歴史について理解できる。担当 生田</p> <p>事後 ベスタロッタ、フレーベル、シュタイナー、モンテッソーリいずれか一人について本を読み、その思想をまとめる (文字数指定無し) 120分</p>		
5	日本の保育の思想と歴史	<p>事前 倉橋惣三の「育ての心」上巻を読み、感想を書く (1200字程度) 120分</p> <p>概要 日本の保育の礎を作った人々について学び、日本の保育の歴史を理解できる。第1講から第5講までに関して授業内小テストを行う。担当 生田</p> <p>事後 テキスト p62～p63 を読み、「子どもの心にたどり着く」とはどういうことか自分なりの考えをまとめる。(400字程度) 120分</p>		
6	子ども・子育て支援新制度	<p>事前 子ども・子育て支援新制度により新たに誕生した保育について書き出す。 120分</p> <p>概要 子ども・子育て支援新制度の趣旨と概要を理解できる。小テスト返却・解説を行う。担当 生田</p> <p>事後 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の制度の違いを図にまとめる。 120分</p>		

授 業 計 画 等	7	保育に関する法令と実施体系	事前	「施設型給付」と「地域型給付」について調べる。(400字程度)	120分
			概要	子ども子育て支援給付と、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園に関する法令を学ぶ。	担当 生田
			事後	自治体によって異なる保育料の無償化や援助について、自身の居住地はどのような仕組みになっているか調べてまとめる(文字数指定無し)	120分
	8	子どもの成長・発達と保育	事前	「発達過程」とは何か、発達段階との違いをまとめる。(400字程度)	120分
			概要	発達を理解する視点と保育士の専門性について理解できる。	担当 生田
			事後	保育士に求められる知識・技術とはどういうことか、講義を振り返ってまとめる。	120分
	9	養護と教育の一体性	事前	p103を読み、Educareの意味するところをまとめる。(400字程度)	120分
			概要	養護と教育が一体となって行われる保育について理解できる。第6講から第10講に関して授業内小テストを行う。	担当 生田
			事後	子どもの権利条約の中で、自身が一番大切にしたい権利の一つを選んで、その条項の内容と選んだ理由を書く。(800字程度)	120分
	10	子どもの環境と保育	事前	保育所保育指針第1章総則1の(1)と(4)を読み、環境を通した保育とは何かをまとめる。(400字程度)	120分
			概要	子どもをとりまく4つの環境システムについて理解できる。小テスト返却・解説を行う。	担当 生田
			事後	自分が子どもだった頃と、今の子どもたちとで社会環境はどうか変わった箇条書きでまとめる。	120分
	11	子どもの生活と遊び	事前	幼児教育とはどういうことかを考え、まとめる。(400字程度)	120分
			概要	幼児期の教育と早期教育の違いについて理解できる。	担当 生田
			事後	テキストP129～p131にある5つの事例のうち一つを選んで、その後の展開を想定し、必要な援助や環境構成を考える。(400字程度)	120分
	12	子ども理解に基づく保育の過程	事前	長野県保育連盟HP研究収録「保育のLpdcaサイクル」を読んで、考えをまとめる。	120分
概要			子ども理解から始まる保育過程の循環について理解できる。	担当 生田	
事後			配布プリントの事例を読み、事例中の子どもをどう理解したかをまとめる。(400字程度)	120分	
13	家庭・地域との連携	事前	保育所の役割として「家庭および地域との連携」が、なぜ指針に盛り込まれているのか、考えをまとめる。(400字程度)	120分	
		概要	園と家庭との連携の在り方、地域を巻き込んだ子育てについて理解することができる。	担当 生田	
		事後	自身の居住地で行われている子どもの行事を調べまとめる。(文字数指定無し)	120分	
14	保育における子どもの安全	事前	3歳未満児に多い事故、3歳以上児に多い事故を調べ、その要因を推察しまとめる。(文字数指定無し)	120分	
		概要	保育におけるリスクマネジメントについて理解できる。	担当 生田	
		事後	テキストp162生命の保持と情緒の安定8項目に対して、保育者は何をしたら良いと考えるか、自分なりの考えをまとめる。(文字数指定無し)	120分	
15	特別なニーズを持った子どもの保育	事前	障害を持つ人との関わりから、障害者に対する自分の思いをまとめる。(400字)程度	120分	
		概要	統合保育からインクルーシブ保育にかわってきた現状を学び、それが子ども達に何をもたらしているかを理解できる。	担当 生田	
		事後	保育の場面で差別を生まないためにはどのようなことが大切かまとめる。(400字程度)	120分	
16	定期試験	筆記試験	担当 生田		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：木曜日5時限 場所：2号館3階 生田研究室		保育園士、園長として保育園に勤務した経験と、子育て支援センター事業の統括経験を踏まえ、保育の歴史の変遷や保育の理念、保育のこれからについて授業を行う。			
その他(特記事項等)					
事前・事後学習は、ルーズリーフ等(A4)を使用(手書き可)してください。提出に際しては学籍番号・氏名・期日(第○講)を明記し、複数枚の場合はホチキスなどで止めてください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
8	教育原理	黒田 和子	2	30	講義	1年前期	必修

科目概要（講義目的）	教育の意義や目的、教育の思想や歴史的変遷、教育制度や行政の仕組み、国内外の教育制度、教育の現状と課題等、教育についての基礎的事項を理解することを目的とする。
到達目標	1. 教育の意義、目的及び子どもの家庭福祉等との関連性、乳幼児期の教育の特性を理解できる。 2. 教育の思想と歴史的変遷、教育法規や行政の基礎と国内外の教育制度を理解できる。 3. 教育の実践と生涯学習社会の教育の現場と課題を理解できる。
学習方法	授業内では、講義を中心として、視覚教材やグループワーク等の内容をまとめることで理解を深めて欲しい。授業外では、講義中に紹介するテキストの箇所を積極的に再読し、理解を深めるように努力して欲しい。
課題のフィードバック	講義内での質疑応答、適宜実施するリアクションペーパーを通して、講義内容の再確認を行う。
教員からのメッセージ	教育・保育の基礎的事項を学びます。
テキスト	「シリーズ知のゆりかご」いまがわかる教育原理 西本望編（みらい）2023
参考書	よくわかる教育原理 汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編著（ミネルヴァ書房）2011

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	70%	基本事項80%・応用事項20%で構成した記述問題（一部、選択問題）
事前・事後学習課題	30%	自己学習で得た知識、疑問点等の記載内容（2点×15回）	
授業内小テスト	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	教育の意義	事前	人間と動物の子育てに共通するところはあるのでしょうか。また、人間の子育ての独自性はどのようなところにあると思いますか。考えをまとめて伝え合えるようにしておく。P14テキスト	60分
概要			人間らしさの育成としての教育にとって重要な意義を理解する。	担当 黒田	
事後			「人間らしさの育成としての教育にとって重要なこと」をリアクションペーパーにより振り返りを行う。	180分	
2		教育の目的	事前	もしあなたに子どもがいたら、どんな教育をしてあげたいと思いますか。たとえば、習い事や塾に通わせますか。自由にイメージして200字程度にまとめる。P26テキスト	120分
			概要	教育の目的について社会的背景との関連から学ぶ。	担当 黒田
			事後	学校教育法第21条の1～10の項目と、幼稚園教育要領等にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を参考にアクションペーパーにより振り返りを行う。	120分
3	教育と児童福祉のつながり	事前	アンデルセン童話「マッチ売りの少女」を読み、もし、主人公の女の子（仮に身寄りのない7歳児とします）を助けたら、あなたはどのような支援を行いますか。自由にイメージして200字程度にまとめる。	120分	
		概要	教育と福祉の一体化について理解する。	担当 黒田	
		事後	現代の福祉は、よりよく生きるという教育の領域に浸透していることをリアクションペーパーにより振り返りを行う。	120分	
4	人間形成と家庭・地域・社会	事前	みなさんの住んでいる地域にはどのような特色がありますか。自分の住む地域の素敵などをお互いに伝え合えるように、200字程度にまとめる。P48テキスト	180分	
		概要	家庭や地域・社会との連携を通じた教育について理解する。	担当 黒田	
		事後	地域資源の活用により、子どもが経験や学びの幅をひろげることができることをリアクションペーパーにより振り返りを行う。	120分	
5	教育制度の基礎	事前	現在の学校教育を一か所だけ自由に変えられるとしたら、どの部分をどうかえますか。教科の数や種類、受験制度、義務教育の年数、学級サイズなどさまざまな側面から考え、200字程度にまとめる。PG0	180分	
		概要	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みについて理解する。	担当 黒田	
		事後	現在の教育制度はどのような問題をかかえているのかをリアクションペーパーにより振り返りを行う。	120分	
6	諸外国の教育思想	事前	教える場面で、ドラマや映画、漫画や本の人物から、心を動かされたことはありますか。どのような場面や言葉でしたか。素敵などを伝え合えるように200字程度にまとめる。P72テキスト	60分	
		概要	代表的な教育思想家について理解する。	担当 黒田	
		事後	取り上げた人物に共通している教育の考え方についてリアクションペーパーにより振り返りを行う。	120分	

授 業 計 画 等	7	日本の教育思想と歴史	事前	江戸時代にあった「寺子屋」という教育施設について。そこで子どもたちは何を学んでいたのか調べて100字程度にまとめる。P84テキスト	120分
			概要	近代以前、戦前、戦後という括りで社会的背景との関連から学ぶ	担当 黒田
			事後	近代以前、戦前、戦後の教育の制度や考え方で変わった点について、リアクションペーパーにより振り返りを行う。	120分
	8	近代教育成立と歴史	事前	P102を読み、近代という時代の公教育の原則を3つ調べてまとめる。	120分
			概要	さまざまな革命（市民革命、産業革命など）から近代教育が誕生した背景を理解する。	担当 黒田
			事後	近代公教育についてテキストの該当箇所により振り返りを行う。	60分
	9	子ども観と教育観の変遷	事前	子どもはこうあるべきであると思う点を考えて200字程度にまとめる。P114テキスト	180分
			概要	子ども観、教育観の誕生とその流れについて理解する。	担当 黒田
			事後	子ども観の変遷についてリアクションペーパーにより振り返りを行う。	120分
	10	教育行政および学校経営の基礎	事前	保育や教育に関する法令はたくさんありますが、もしこれがなかったらどんなことが起こると思いますか。自由にイメージして200字程度でまとめる。P130テキスト	180分
			概要	教育の基盤を支える法的な枠組みについて理解する。	担当 黒田
			事後	今後、現場が抱えるであろう課題に対して、行政機関には何が求められていくのかをテキストの該当箇所により振り返りを行う。	60分
	11	保育・教育実践の基礎理論	事前	幼少期の避難訓練で印象に残っていることを200字程度にまとめる。	180分
			概要	教育実践について知り、安全管理や安全教育などがどのようなしくみで実施されているのかを学ぶ。	担当 黒田
			事後	学んだことをリアクションペーパーにより振り返りを行う。	60分
	12	教育実践の多様な取り組み	事前	これから生まれてくる子どもたちは、25年後どのような職業に就き、どのように生きていますか。自由にイメージして200字程度でまとめる。P162テキスト	180分
概要			多様な教育実践について知り、新しい時代の教育について考えることができる。	担当 黒田	
事後			コンピテンシー・ベース、アクティブラーニングなどについてテキストの該当箇所により振り返りを行う。	60分	
13	生涯学習社会と教育	事前	「学び続ける教員像」という言葉が教育界にはあります。どうしてこの言葉が掲げられていると思いますか。自由にイメージして200字程度にまとめる。P176テキスト	120分	
		概要	社会教育の発展と生涯教育による教育観の転換について理解する。	担当 黒田	
		事後	P189 論述テストの内容について、テキストの該当箇所を参考に振り返りを行う。	120分	
14	現代の教育課題	事前	小学校から中学校へ、中学校から高校へ、と変わっていく学校生活を思い出してみてください。取り巻く環境の変化、通信手段の変化に着目して200字程度で変化を思い出してまとめる。P192テキスト	120分	
		概要	多様性（Diversity）を受け入れる教育を目指すことについて理解する。	担当 黒田	
		事後	多様性を受け入れるために、教育現場でどのような配慮が必要か、テキストの該当箇所を参考に振り返りを行う。	120分	
15	学校（幼稚園）における地域との連携と協働	事前	シティズンシップの語彙の意味を調べてまとめる。	120分	
		概要	シティズンシップ教育の要素を理解し、地域に開かれた学校について考えることができる。	担当 黒田	
		事後	教育基本法第2条3号を参考に振り返りを行う。	60分	
16	定期試験	筆記試験	担当 黒田		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	事前課題について確認すること	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館3階 黒田研究室		義務教育学校での教員経験を踏まえ、教育の意義、歴史の変遷、現状と課題、教育の役割について講義を行う。			
その他（特記事項等）		なし			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
9	子ども家庭福祉	田岡 紀美子	2	30	講義	1年後期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		子どもおよびその家庭を取り巻く環境や問題について理解し、保育者としてどのような視点や方法をもって支援すべきかについて理解する。					
到達目標		現代社会における子どもの家庭福祉の意義と歴史の変遷及び子どもの人権 (子どもの権利条約) 擁護について理解している。また子ども家庭福祉の制度や実施体系、現状と課題について理解している。					
学習方法		テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。					
課題のフィードバック		授業資料、課題、小テストなどは、teams で当該科目のクラスを作成し、データ (主に PDF) をアップロードします。また、課題、小テストは授業内で返却し、フィードバックを行ないます。質問等に関しては、teams 内で作成した、クラスにて受け付けるとともに、返答も個々に行ないます。また、質問に関しては、k.taoka ★ matsutan.ac.jp (★を@に変更して下さい) でも受け付けます。					
教員からのメッセージ		子どもを取り巻く社会問題や施策に興味関心を持ってもらいたいです。また、これらについて学んでいきます。					
テキスト		喜多一憲 (監修)、堀場純矢 (編集) (2024) 「子ども家庭福祉 (第2版)」みらい					
参考書		特になし。必要なものは授業内で配布します。					
成績 評価 方法	評価項目		配分%		評価基準		
	定期試験		60%		筆記試験		
	事前・事後学習課題		10%		レポート、発表資料作成		
	授業内小テスト		20%		用語の理解		
	グループワーク		10%		課題の達成度		
	他 ()		0%		-		
他 ()		0%		-			
合計		100%		-			
授 業 計 画 等	回	項目		内容			
	1	子ども家庭福祉とは		事前	シラバス及びテキストの確認		30分
				概要	子ども家庭福祉とは何か、子ども家庭福祉を学ぶ目的について	担当	田岡
				事後	テキスト CH1. の振り返り及び、配布資料の振り返り		120分
	2	現代社会と子ども家庭福祉		事前	児童虐待防止活動及び専門ダイヤル 189 が開設された背景を調べる		60分
				概要	現代の社会問題としての児童虐待について	担当	田岡
				事後	児童虐待防止活動についての振り返りレポートの作成		120分
	3	子どもの人権 (子どもの権利条約) について		事前	テキスト CH2 を通読する。		60分
				概要	子どもと家庭を取り巻く環境の変化や子どもの権利の動向、子どもの権利条約について	担当	田岡
				事後	講義内容の振り返り (テキストの振り返りも含む)		120分
	4	子ども家庭福祉の成立と展開		事前	テキスト CH3. を通読する		60分
				概要	諸外国の子ども家庭福祉の成立と日本の子ども家庭福祉のあゆみについて	担当	田岡
				事後	講義内容の振り返り (テキストの振り返りも含む)		120分
	5	子ども家庭福祉の法体系、行財政、機関・施設		事前	テキスト CH4. を通読する。		60分
				概要	子ども家庭福祉の法体系や機関・施設等について理解する。	担当	田岡
				事後	講義内容の振り返り (テキストの振り返りも含む)		120分
	6	子育て支援・次世代育成支援と保育施策		事前	第1回～第5回までの振り返り (小テストの実施: 授業最初10分) テキスト CH5. を通読する。		180分
				概要	子育て支援制度や関連する法律等について理解する。	担当	田岡
				事後	講義内容の振り返り (テキストの振り返りも含む)		120分

授 業 計 画 等	7	母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策	事前	テキスト CH6. を通読する。	60 分
			概要	母子保健施策と、ひとり親家庭施策について理解する。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返り (テキストの振り返りも含む)	120 分
	8	子ども虐待と DV 問題の防止施策	事前	テキスト CH7. を通読する。	60 分
			概要	子ども虐待や DV の現状と予防施策について理解する。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返り (テキストの振り返りも含む)	120 分
	9	子ども家庭福祉に関する事例検討① (事例提供)	事前	これまでの講義内容を復習し、子ども家庭福祉に関する社会問題について理解する。	120 分
			概要	子ども家庭福祉に関する事例の内容理解	担当 田岡
			事後	事例の内容を再度確認する。検討課題について考察し、グループワークの準備を行なう。	180 分
	10	子ども家庭福祉に関する事例検討② (グループワーク)	事前	事例検討に必要な事項について確認し、グループワークの準備を行なう。	120 分
			概要	子ども家庭福祉に関する事例の検討 (グループワーク)	担当 田岡
			事後	グループ内で事例について検討した内容を発表用資料としてまとめる。	180 分
	11	子ども家庭福祉に関する事例検討③ (発表)	事前	発表用資料の作成 (パワーポイント)	240 分
			概要	子ども家庭福祉に関する事例検討内容の発表と子ども家庭福祉に関する社会問題の概説 (反転授業)	担当 田岡
			事後	発表内容と子ども家庭福祉に関する社会問題についての振り返りレポートの作成	120 分
	12	障がいのある子どもへの福祉施策	事前	テキスト CH9. を通読する。	60 分
概要			障がいとは何か、障がい児・者に関する福祉施策について理解する。	担当 田岡	
事後			講義内容の振り返り (テキストの振り返りも含む)	120 分	
13	心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援	事前	テキスト CH10. を通読する。	60 分	
		概要	心理治療や非行問題を抱えた子どもへの支援について理解する。	担当 田岡	
		事後	講義内容の振り返り (テキストの振り返りも含む)	120 分	
14	子ども家庭福祉の専門職との連携	事前	第 6 回～8 回、第 12 回～13 回の講義内容を振り返り (授業最初 10 分、小テストの実施)、テキスト CH11. を通読する。	180 分	
		概要	関係機関や専門職との連携について理解する。	担当 田岡	
		事後	講義内容の振り返り (テキストの振り返りを含む)	120 分	
15	子ども家庭福祉の動向と展望 / まとめ	事前	テキスト中にある TRY をすべて解いておく。	180 分	
		概要	これからの子ども家庭福祉の動向についてまとめる。	担当 田岡	
		事後	これまでの振り返りを行ない、筆記試験に向けてまとめを行なう。	240 分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田岡		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
4		6) 7)	1 年生の後期 保育士資格取得希望者は必須	ニュースや新聞記事から子ども家庭福祉にまつわるものを見とくようしてください。	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 田岡研究室		該当せず			
その他 (特記事項等)					
資料を teams で配布するので、できるだけ自身の PC に配布資料をダウンロードして、授業で活用してください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
10	社会福祉	田岡 紀美子	2	30	講義	1年前期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		社会における様々な現象を把握し、社会福祉の対象や視点について学びながら、社会福祉の理念と役割について理解する。					
到達目標		現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解している。また、社会福祉の制度や実施体系等、相談援助、利用者の保護に関わる仕組みについて理解している。					
学習方法		テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。					
課題のフィードバック		授業資料、課題、小テストなどは、teamsで当該科目のクラスを作成し、データ(主にPDF)をアップロードします。また、課題、小テストは授業内で返却し、フィードバックを行ないます。質問等に関しては、teams内で作成した、クラスにて受け付けるとともに、返答も個々に行ないます。また、質問に関しては、k.taoka★matsutan.ac.jp(★を@に変更して下さい)でも受け付けます。					
教員からのメッセージ		保育を通じた社会福祉について広く学びます。					
テキスト		松井圭三・今井廣宗(編集)「現代社会福祉要説」ふくろう出版(2021年)					
参考書		特になし。必要なものは授業内で配布します。					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		70%	筆記試験			
	小テスト		20%	用語の理解			
	課題提出		10%	提出の有無と成果			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
合計		100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	社会福祉とは	事前	シラバス及びテキストの確認、テキスト第1章を通読			60分
			概要	社会福祉とは何か、保育と社会福祉の関係性について理解する	担当	田岡	
			事後	講義内容の振り返りをする			120分
	2	社会福祉の理念と役割	事前	テキスト第1章を再度通読する			60分
			概要	社会福祉の考え方と役割について理解する	担当	田岡	
			事後	講義内容の振り返りをする			120分
	3	社会福祉の歴史	事前	テキスト第2章を通読する			60分
			概要	現代社会福祉への道筋について理解する	担当	田岡	
			事後	現代日本の社会福祉の構造の背景となった歴史的展開についてまとめる			180分
	4	社会福祉を取り巻く環境	事前	テキスト第7章を通読する			60分
			概要	少子高齢化や貧困問題について理解する	担当	田岡	
			事後	講義内容の振り返りをする			120分
	5	社会福祉の行財政について	事前	テキスト第3章を通読する			60分
			概要	日本の社会保障制度の理解	担当	田岡	
			事後	日本の社会保険について振り返り、まとめておく			240分
	6	社会福祉専門職	事前	テキスト第4章を通読する。第1回から第5回までの講義内容を振り返り、小テストに備える			180分
			概要	社会福祉専門職とその支援対象者について	担当	田岡	
			事後	講義内容の振り返りを行う			120分

授 業 計 画 等	7	社会福祉援助技術	事前	テキスト第5章を通読する。	60分
			概要	SWの技術について理解する。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。今求められている子ども家庭ソーシャルワーカーへの理解を深める。	180分
	8	社会福祉援助技術の活用	事前	事前に配布された事例を熟読しておく。	120分
			概要	事例をもとにSWの活用方法について理解する。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	120分
	9	事例検討①(公的扶助)	事前	テキスト第6章を通読する。事前に配布された事例を熟読しておく。	120分
			概要	社会福祉に関連する事例について説明し課題を明らかにした後、グループで検討する。	担当 田岡
			事後	日本国憲法第25条に定められる生存権について理解を深め、授業で取り組んだ事例について自身の考えをまとめる。	180分
	10	事例検討②(低所得者対策)	事前	テキスト第6章を再度通読する。事前に配布された事例を熟読しておく。	120分
			概要	低所得者対策と貧困ビジネスについての事例を説明し課題を明らかにした後、グループで検討する。	担当 田岡
			事後	貧困ビジネスについて理解を深め、自身の考えをまとめる。	180分
	11	障がいのある人の福祉	事前	テキスト第10章を通読する。	60分
			概要	障がいや障がいのある人の福祉や障害者総合支援ほうについて理解する。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	120分
	12	高齢者の福祉	事前	テキスト第9章を通読する。第6回から第11回までの振り返りを行い小テストに備える。	180分
概要			高齢者福祉の体系や介護保険制度について理解する。	担当 田岡	
事後			講義内容の振り返りをする。	120分	
13	地域福祉	事前	テキスト第8章を通読する。	60分	
		概要	地域福祉の理念と地域福祉の推進について理解する。地域子育て支援について。	担当 田岡	
		事後	講義内容の振り返りをする。	120分	
14	社会福祉の専門職と倫理	事前	事前に配布された資料を熟読しておく。	120分	
		概要	社会福祉に関わる専門職と社会福祉専門職としての保育士について理解する。	担当 田岡	
		事後	講義内容の振り返りをする。	120分	
15	権利擁護	事前	テキスト第11章を通読する。	60分	
		概要	利用者の権利擁護とサービスの質について理解する。	担当 田岡	
		事後	これまでの振り返りを行ない、筆記試験に向けてまとめを行なう。	180分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田岡		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
4	6) 7)	1年生前期 保育士資格取得希望者は必須	普段から社会情勢などに着目しておいてください		
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館3階 田岡研究室		該当せず			
その他(特記事項等)					
資料をteamsで配布するので、できるだけ自身のPCに配布資料をダウンロードして、授業で活用してください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
11	社会的養護 I	田岡 紀美子	2	30	講義	1年前期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		現代社会における子どもを取り巻く状況を理解し、社会的養護を必要とする子どもを支える制度や実施体系、施設・家庭養護の実際について理解することを目的とする。					
到達目標		現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷及び子どもの人権擁護 (子どもの権利条約) を踏まえた社会的養護の基本について理解している。また、社会的養護の制度や実施体系等、関係する専門職等について理解している。					
学習方法		テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。					
課題のフィードバック		授業資料、課題、小テストなどは、teams で当該科目のクラスを作成し、データ (主に PDF) をアップロードします。また、課題、小テストは授業内で返却し、フィードバックを行ないます。質問等に関しては、teams 内で作成した、クラスにて受け付けるとともに、返答も個々に行ないます。また、質問に関しては、k.taoka ★ matsutan.ac.jp (★を@に変更して下さい) でも受け付けます。					
教員からのメッセージ		保育士の関わりを通じた社会的養護の内容や現状について学びます。					
テキスト		公益社団法人児童育成協会監修 新・基本保育シリーズ 6 「社会的養護 I 第 2 版」 (中央法規) (2024)					
参考書		特になし。必要なものは授業内で配布します。					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	70%	筆記試験
	小テスト	30%	用語の理解
		0%	—
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容	
	1	社会的養護の現状	事前 シラバス及びテキストの確認	30分
		概要 社会的養護の現状と課題について理解する	担当 田岡	
		事後 配布資料と授業内容の振り返り	60分	
2	社会的養護の理念と概念	事前 テキスト第 1 講を通読する	60分	
		概要 社会的養護とは何かを学び、理念や概念について理解する	担当 田岡	
		事後 授業内容の振り返り、用語の整理	120分	
3	社会的養護の歴史の変遷	事前 テキスト第 2 講を通読する	60分	
		概要 社会的養護の歴史について、諸外国と日本を比較しながら理解する	担当 田岡	
		事後 イギリス・アメリカ・日本の社会的養護の歴史的展開について振り返りを行い、十分に理解しておく	180分	
4	子どもの人権擁護と社会的養護	事前 テキスト第 3 講を通読する	60分	
		概要 子どもの最善の利益や権利を守るための仕組みについて理解する	担当 田岡	
		事後 子どもの権利ノートについて調べ、レポートにする (幼児用や障がいのある子ども用、年長児用と調べる)	240分	
5	社会的養護の基本原則	事前 テキスト第 4 講を通読する	60分	
		概要 家庭養育優先原則のあり方について	担当 田岡	
		事後 講義内容について自身の考えをまとめる	240分	
6	施設保育士の倫理と責務	事前 テキスト第 5 講を通読する・小テストに向けた振り返りを行う	180分	
		概要 施設保育士に求められる倫理観	担当 田岡	
		事後 テキスト p60 の COLUMN について考える	120分	

授 業 計 画 等	7	社会的養護の仕組みと実施体系	事前	指定された資料（動画）を観て、自身の考えをまとめておく	120分
			概要	社会的養護の基本的な仕組みと実施体系を理解する	担当 田岡
			事後	各施設について調べる（調べる施設については授業内で指示する）	180分
	8	社会的養護とファミリー SW	事前	テキスト第8講を通読する	60分
			概要	SWについて理解する	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする	120分
	9	社会的養護の対象と支援	事前	テキスト第9講を通読する	60分
			概要	社会的養護における支援対象者別養育方法を理解する	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする	120分
	10	家庭養護と施設養護	事前	テキスト第10講を通読する	60分
			概要	新しい社会的養育ビジョンを基に、家庭養護の実際について理解する	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする	120分
	11	社会的養護に関する社会的状況	事前	テキスト第12講を通読する 小テストに向けた振り返りを行う	180分
			概要	現代社会の養護問題と支援の取組について理解する	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする	120分
	12	施設等の運営管理	事前	テキスト第13講を通読する	60分
概要			各規程に基づいた施設の運営管理について理解する	担当 田岡	
事後			講義内容の振り返りをする（各規程について確認する）	180分	
13	被措置児童等の虐待防止の現状と課題	事前	テキスト第14講を通読する	60分	
		概要	児童福祉施設等に入所する子どもへの虐待の現状と課題について	担当 田岡	
		事後	講義内容の振り返りをする	120分	
14	社会的養護と地域福祉の現状と課題	事前	テキスト第15講を通読する	60分	
		概要	児童福祉施設による地域への貢献について理解する	担当 田岡	
		事後	講義内容の振り返りをする	120分	
15	社会的養護における専門職	事前	これまでのまとめをしておく	180分	
		概要	講義全体のまとめと施設保育士に求められる専門性について	担当 田岡	
		事後	これまでの振り返りを行ない、筆記試験に向けてまとめを行なう。	240分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田岡		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
4	6) 7)	1年生前期 保育士資格取得希望者は必須	ニュースや新聞記事から社会的養護にまつわるものを見ておくようにしてください。		
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館3階 田岡研究室		該当せず			
その他（特記事項等）					
資料をteamsで配布するので、できるだけ自身のPCに配布資料をダウンロードして、授業で活用してください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
12	保育者論	黒田 和子	2	30	講義	1年後期	必修
科目概要（講義目的）		保育者（幼稚園、児童福祉施設、認定こども園等）の意義や役割や職務内容等の専門性、また保育者の養成、採用、研修、さらには保育者と地域との関わり・社会貢献等について理解を深めながら、自らが理想とする保育者のあり方を探求することを目的とする。					
到達目標		1. 保育者の役割と倫理、保育士の制度的位置づけ、保育士の専門性として保育士の資質・能力と養護及び教育の一体的展開について理解できる。 2. 保育者の連携・協働及び資質向上のためのキャリア形成について理解できる。					
学習方法		授業内では、講義を中心として、視覚教材やグループワーク等の内容講義ノートをまとめることで理解を深めて欲しい。他では、テーマとなる箇所を読み、ボランティア・実習・自らの経験、を振り返りながら理解を深めていって欲しい。					
課題のフィードバック		課題、レポートは授業内で内容についての解説を行う他、授業中にコメントやプライを行う。最終課題は、授業内で評価の観点にもとづき解説をする。					
教員からのメッセージ		保育者（教師）として知っておいてほしい基礎的な事項を学びます。					
テキスト		新時代の保育双書 今に生きる保育者論 秋田喜代美編（みらい）2023年					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	70%	基本事項80%・応用事項20%で構成した記述問題（一部、短答式・選択式問題含）
	事前・事後学習課題	20%	自己学習で得た知識、疑問点等の記載内容（2点×15回）
	授業内小テスト	10%	用語理解
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	保育者の存在意義	事前	P13「序章」を読み、保育者は、専門家としてどのような見識が必要だろうか。考えをまとめて出席すること。400字程度でまとめる。	120分
		概要	「保育者」のイメージ「保育者になる」ということ 担当 黒田		
		事後	子どものときの気持ちと本章に書かれている事柄から保育者にどのようなことが望まれるかをリアクションペーパーにより振り返る。	120分	
2	保育者の仕事と役割	事前	コラム「保育者の仕事」P41を読み、保育者としてなすべき役割とはどのようなことだろうか。考えをまとめて出席すること。	180分	
		概要	保育者という職業の特徴について考える。 担当 黒田		
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	
3	保育者の制度的位置づけ	事前	P46「倫理的ジレンマ」を読み、考えをまとめて出席すること。400字程度にまとめる。	180分	
		概要	保育者に関する法令等から保育者の制度的位置づけや身分保障・職務内容・義務などを理解できる。 担当 黒田		
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	
4	保育者になるための学び	事前	コラム「あなたの笑顔が最大の援助」P70を読み、考えをまとめて出席すること。400字程度でまとめる。	180分	
		概要	教育・保育を実践する者への転換について理解できる。 担当 黒田		
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	
5	保育者に求められる資質とは	事前	コラム『私の人生を豊かにしてくれた保育の仕事-ごっこ遊び「占いコーナー」から』P86を読み、考えをまとめて出席すること。400字程度でまとめる。	180分	
		概要	今、保育者に期待されている役割・資質について理解できる。 担当 黒田		
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	
6	職場で学びあう専門家として	事前	コラム『保育者の気づきと保育カンファレンス』P104を読み、実習生として保育の場で実習指導を受ける前に身につけておかなければならないことは何だろうか、考えをまとめて出席すること。400字程度。	180分	
		概要	保育における職員間の連携や協働について理解できる。 担当 黒田		
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	

授 業 計 画 等	7	保育者の資質向上とキャリアアップ	事前	コラム『保育者をめざすみなさんへ』P115を読み、園で勉強会をするのはどうしてなのか、考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。	120分
			概要	保育者間における専門性を高めるための研究・研修について理解できる。	担当 黒田
			事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分
	8	子どもの育ちの危機と子育て支援（1）	事前	P119－120を読み、気になる子どもについて考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。	120分
			概要	保育者の子ども理解と保育者が活動を提案する事由等について理解できる。	担当 黒田
			事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分
	9	子どもの育ちの危機と子育て支援（2）	事前	コラム『子育て支援は「共育ち」』P136を読み、子育て支援について考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。	120分
			概要	「子育て支援」と保育者の役割について理解できる。	担当 黒田
			事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分
	10	現代社会の変化と保育者の仕事や課題	事前	コラム『保育士出身の保護者として』P150を読み、保育専門職に期待されていることについて考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。	120分
			概要	保護者や家庭、地域社会との連携・協働・分担等について理解する。	担当 黒田
			事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分
	11	日本の保育者のあゆみ	事前	「貧困のなかで」P154、「焼け跡のなかで」P162を読み、保育者の仕事について時代がかわっても変化しないものは何か考えをまとめて出席すること。200字程度。	120分
			概要	日本の保育が形成された経緯を理解する。	担当 黒田
			事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	70分
	12	資料にみる保育者の姿	事前	P173図10－2より、保育所・幼稚園の児童数が逆転した時期を調べて出席すること。	120分
概要			社会の変化と保育者について理解できる。	担当 黒田	
事後			小テスト（選択式）の内容について、テキストの該当箇所を参考に振り返りを行う。	90分	
13	諸外国の保育者	事前	テキストP190等から、ダイバーシティと、アクセシビリティの語彙の意味を調べてまとめる。	120分	
		概要	諸外国の保育者に関する議論の動向を理解できる。	担当 黒田	
		事後	「日本の保育は遅れているか歩調しているか」について、テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分	
14	保育者のキャリア形成（1）	事前	コラム『保育者になる人へのメッセージ①-望まれる保育士-』P213を読み、考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。	120分	
		概要	保育者の成長と専門性の向上について理解できる。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分	
15	保育者のキャリア形成（2）	事前	コラム『保育者になる人へのメッセージ②-子どもたちから得られるもの-』P214を読み、考えをまとめて出席すること。400字程度でまとめる。	120分	
		概要	これからの保育者の専門職について理解できる。キャリアステップを見通した保育専門職の育ちと学びについて理解できる。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分	
16	定期試験	筆記試験	担当 黒田		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	事前課題について確認すること	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館3階 黒田研究室		教員経験を踏まえ、教師（保育者）としての基本的な考え方や役割について講義を行う。			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
13	保育・教育の心理学	田中 秀明	2	30	講義	1年前期	必修
科目概要（講義目的）		1. 保育・幼児教育における発達理解の意義、発達に関する基礎的理論、各発達段階の特徴について学ぶ。 2. 学習に関する基礎的理論を理解し、子どもの主体的学びを支える保育を考える。					
到達目標		1. 子どもの心身の発達および学習の過程について理解している。 2. 各発達段階における心理的特性、養護と教育の一体性やこどもの主体的学びを支える指導について理解している。					
学習方法		1. プリント教材・DVD教材に基づく講義 2. 授業中の課題についてミニレポートの提出					
課題のフィードバック		事後学習における疑問点等は、授業内において解説する。事前学習における課題は翌授業回にコメントを付し返却する。最終課題は定期試験日に返却する。					
教員からのメッセージ		1年後期から始まる実習に向けて、子どもの発達についてしっかりと学びましょう。					
テキスト		なし					
参考書		シリーズ知のゆりかご「保育の心理学」青木紀久代編（みらい）2019年					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	55%	記述式問題
	事前・事後学習課題	30%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容（2点×15回）
	授業内小テスト	15%	各授業内容の復習テスト（選択問題）（1点×15回）
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容	
	1	保育・幼児教育における発達理解の意義	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。
		概要	保育・幼児教育における心理学とは何か。保育者が発達を理解する意義を理解する。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
2	発達を規定する要因	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	遺伝と環境など発達に影響を及ぼす要因について学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
3	発達観・子ども観と保育・教育観	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	発達とは何か。子どもをどう捉えるか。発達観・子ども観と保育観との関わりを学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
4	子どもの身体・運動機能の発達	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	身体の発育と運動能力の発達について理解し援助を考える。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
5	子どもの言語・コミュニケーションの発達	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	子どもの言葉の発達を理解し、コミュニケーション力の育成について学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
6	子どもの認知能力の発達	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	子どもの知覚、知的能力の発達を理解し、あそびとイメージの世界の重要性を考える。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分

授 業 計 画 等	7	子どもの社会性の発達	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	人への志向性と他者との関わりについて理解する。担当 田中	
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	8	子どもの学習過程	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	学習に関する基本的理論を学び保育援助に生かす。担当 田中	
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	9	子どもの主体的な学びと動機づけ	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	内発的動機づけに基く学びを理解し、応答的環境の構成を考える。担当 田中	
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	10	保育実践と学びの評価	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	保育における評価の意義と PDCA サイクルについて学ぶ。担当 田中	
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	11	生涯発達と発達援助(1)胎児期・新生児期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	胎児・新生児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。担当 田中	
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	12	生涯発達と発達援助(2)乳児期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
概要			乳児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。担当 田中		
事後			配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
13	生涯発達と発達援助(3)幼児期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	幼児の発達の特徴を理解し、発達に応じた保育援助について学ぶ。担当 田中		
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
14	生涯発達と発達援助(4)学童期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	学童期の子どもの発達の特徴を理解し、援助について学ぶ。担当 田中		
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
15	生涯発達と発達援助(5)青年期・成人期・老年期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	生涯発達の視点から青年期以降の発達の特徴を理解する。担当 田中		
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田中		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日 5 時限 場所：2号館 3階 田中研究室		該当せず			
その他（特記事項等）					
事後学習のミニレポートは、得た知識の内容や疑問点を列記するだけでなく、保育実践と関係づけてまとめるとなお良い。 (A 4用紙、横書き、手書きでも可)					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
14	子どもの理解と援助	田中 秀明	2	30	演習	1年後期	必修
科目概要（講義目的）		幼児理解の意義と理解を深めるための基本姿勢について学ぶ。さらに、観察・検査などによるアセスメントや記録、幼児のつまづきについて具体的に事例を通して理解する。					
到達目標		1) 子ども理解に関する知識と基本的態度を身につける。 2) 子どもを理解する具体的な方法を理解し、子どものつまづきに対応する基本的な力を身につける。					
学習方法		1. プリント教材・DVD教材に基づく講義 2. 授業中の課題についてミニレポートの提出					
課題のフィードバック		事後学習における疑問点等は、授業内において解説する。事前学習における課題は翌授業回にコメントを付し返却する。最終課題は定期試験日に返却する。					
教員からのメッセージ		「子どもを理解する」とはどういうことなのか、しっかりと考えてみましょう。					
テキスト		なし					
参考書		塚本美知子編著「子ども理解と保育実践」（萌文書林）2013年					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	55%	記述式問題
	事前・事後学習課題	30%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容（2点×15回）
	授業内小テスト	15%	各授業内容の復習テスト（選択問題）（1点×15回）
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	子ども理解の目的と意義	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
概要			保育者として子どもの内面を理解することの重要性・意義を学ぶ。	担当 田中	
事後			配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
2		子どもの発達や学びの理解	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	子どもひとりひとりの心身の発達や学びを把握することの意義を理解し、養護と教育の一体的展開について学ぶ。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
3	遊びを通した子ども理解	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	子どもの生活や遊びの場面での事例を通して子ども理解に基づく保育者の援助を考える。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
4	子ども理解を深める保育者の基本姿勢	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	子どもに対する共感的理解を学び、保育者に求められるカウンセリングマインドを理解する。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
5	幼保小をつなぐ子ども理解	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	保育・幼児教育と学校教育との違いを理解し幼保小の連携の重要性と具体的試みについて学ぶ。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
6	子どもの理解の方法 (1)観察	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	子どもを理解する方法として観察について学びその意義・留意点を理解する。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	

授 業 計 画 等	7	子どもの理解の方法 (2)発達検査	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	子ども理解の一方法として発達検査について学び、その意義・概要を理解する。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	8	子どもの理解の方法 (3)知能検査	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと	90分
			概要	子ども理解の一方法として発達検査について学び、その意義・概要を理解する。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	9	記録の意義と方法	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと	90分
			概要	記録を通して子どもを理解することの意義を学び、具体的方法について理解する。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	10	クラス集団の理解と援助	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと	90分
			概要	個と集団の関係を捉える意義や方法を理解しクラス活動の事例を通して保育者の援助について考える。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	11	子どもの発達のつまずきとその背景	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと	90分
			概要	幼児期の子どもを中心に、発達のつまずきとその原因・背景について学ぶ。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	12	子どもの学びの過程で生じるつまずき	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと	90分
概要			生活と遊びを通した学びの過程で生じるつまずきについて事例を通して理解する。	担当	
事後			配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
13	子どものつまずきとその対応	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと	90分	
		概要	子どもの葛藤やつまずきについて保育者の対応を事例をもとに考える。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
14	保護者理解と連携	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと	90分	
		概要	保護者の心情を理解する方法を学び、連携の重要性、具体的対応について理解する。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
15	園内研修を通した子ども理解	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと	90分	
		概要	保育者間の情報共有の必要性和、保育者の学び合いの意義について理解する。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田中		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	前期履修の「保育・教育の心理学」について、復習しておく。	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日5時限 場所：2号館3階 田中研究室		該当せず			
その他(特記事項等)					
事後学習のミニレポートは、得た知識の内容や疑問点を列記するだけでなく、保育実践と関係づけてまとめるとなお良い。(A4用紙、横書き、手書きでも可)					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
15	教育課程の編成と評価	黒田 和子	2	30	講義	1年前期	必修

科目概要（講義目的）	カリキュラムの概念、とらえ方を歴史的、理論的に学習しながら、保育・教育課程編成の意義、内容、方法について理解することを目的とする。
到達目標	1. 保育の計画と評価を理解できる。 2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針等の目標と基本的考え方、全体的な計画と指導計画の係関係を理解できる。 3. 保育者及び園・保育所の自己評価と要録等について理解し、説明できる。
学習方法	授業内では、講義を中心として、視覚教材やグループワーク等の内容をまとめることで理解を深めて欲しい。 授業外では、講義中に紹介するテキストの箇所を積極的に再読し、理解を深めるように努力して欲しい。
課題のフィードバック	講義内での質疑応答、適宜実施するリアクションペーパーを通して、講義内容の再確認を行う。 「保育・教育課程の概念の理解度」「わか国保育カリキュラムの変遷の理解度」「保育カリキュラムの編成原理の理解度」「保育カリキュラムの展開過程と評価に関する理解度」を基準にする。
教員からのメッセージ	教育・保育課程の基礎を学びましょう。
テキスト	シリーズ知のゆりかご「教育・保育カリキュラム論」田中享胤・三宅茂夫編（みらい）（2019）
参考書	なし

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	85%	基本事項 80%・応用事項 20%で構成した記述問題（一部、選択問題）
事前・事後学習課題	15%	自己学習で得た知識、疑問点等の記載内容（1点×15回）	
授業内小テスト	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	学校教育における教育課程	事前	P5を読み、どのような言葉に立ち止まりましたか。その理由も交えて200字程度でまとめる。	120分
概要			学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針等を包括する概念が「カリキュラム」（教育課程）であることを理解し、それに関わる語彙について理解する。	担当 黒田	
事後			スコープ・シークエンス・アカウントビリティ・ストラテジー・文化的麻薬について、テキストの該当箇所を参考に振り返りを行う。	120分	
2		保育の基本と計画の考え方	事前	保育・幼児教育の「領域」と、小学校教育以降の「教科」とはいつたいどこが違うのだと思いますか。200字程度でまとめる。	120分
			概要	保育における計画や教育課程の意義について理解する。	担当 黒田
			事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分
3	保育におけるカリキュラム構想	事前	P49 保育者の役割【①理解者②共同作者・共鳴する者③憧れを形成するモデル④遊びの援助者⑤必要に応じて適切な援助を行う】について、具体的な行動をまとめる。例「①は、たとえば〇〇すること」	120分	
		概要	カリキュラム構想と保育改善について理解する。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	
4	幼児教育3法令の改訂と変遷	事前	P66を読み、幼児教育3法令の法規名を調べてまとめる。	120分	
		概要	保育所保育指針を中心に保育の内容および改訂の社会的背景を理解する。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	
5	教育課程・全体的な計画の編成・作成	事前	P74 幼稚園教育要領、P75 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読んで、似ている部分を200字程度でまとめる。	120分	
		概要	教育課程や全体的な計画の必要性、編成の手順を理解する。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	
6	教育課程・全体的な計画の構成要素	事前	教育課程や全体的な計画をたてることが重要である理由を200字程度でまとめる。	170分	
		概要	4つの構成要素「教育目標」「スコープ」「シークエンス」「ユニット」について理解する。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分	

授 業 計 画 等	7	指導計画（長期的・短期的）の作成	事前	P88を読み、なぜ指導計画を作成するのかについて200字程度でまとめる。	120分
			概要	指導計画の必要性、生活の連続性について理解する。	担当 黒田
			事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分
	8	指導計画の作成で配慮することと保育を柔軟に展開するポイント	事前	あなたが「クラスの子どもたちと泥団子づくりをやりたい」と思ったとします。子どもたちにどんなふうにもちかけますか。理由も加えて200字程度でまとめる。	120分
			概要	指導計画を作成する際に気をつけることについて理解する。	担当 黒田
			事後	ねらいの語尾に「～味わう」「～感じる」を使用することについて、テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分
	9	カリキュラム・マネジメントと保育の評価	事前	「反省」に似た言葉に「省察」がある。「省察」とは、どのような意味だと思いますか。自由にイメージしたことを200字程度でまとめる。	120分
			概要	カリキュラム・マネジメントとして、保育を「記録し、「省察」する過程を理解する。	担当 黒田
			事後	省察的实践家について、テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分
	10	計画の実際① 保育所	事前	保育所に勤めるとしたら何歳児を担当してみたいですか。その理由はなぜですか。200字程度にまとめる。	180分
			概要	保育所の全体的な計画、年間指導計画について理解する。	担当 黒田
			事後	保育所の実情に応じた全体的計画について、テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分
	11	計画の実際② 幼稚園	事前	P164を読み、学校教育法22条の「適当」とは、どのような意味だと思いますか。200字程度でまとめる。	180分
			概要	幼稚園の教育課程や年間指導計画について理解する。	担当 黒田
			事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分
	12	計画の実際③ 認定こども園	事前	P186を読み、学校である幼稚園には夏休みがあります。保育所にはそれほど長い休みはありません。では、認定こども園ではどうなっていると思いますか。調べて200字程度でまとめる。	180分
概要			認定こども園の特徴を理解する。	担当 黒田	
事後			認定こども園の保育時間の違い、生活経験の違い等、配慮事項について、テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分	
13	計画の実際④ 異年齢保育	事前	子どもの数が減り、異年齢の子どもと関わることの少なくなっている現代。異年齢での遊びを1つあげ、①遊びの楽しさ②異年齢ゆえに気をつけること、の2点をまとめる。	180分	
		概要	異年齢保育の内容と意義について理解する。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分	
14	幼児教育と小学校教育との接続	事前	幼少期を思い出して、園から小学校に入学したときに戸惑ったことや、びっくりしたことを想起して200字程度で述べよ。	180分	
		概要	学びの架け橋プランについて理解する。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分	
15	世界の乳幼児教育改革	事前	「乳幼児期の生活と教育の質がその後の子どもの人生のみならず社会全体に、大きな影響を与える」この考え方について感想を200字程度で述べよ。	180分	
		概要	カリキュラムの観点から諸外国の乳幼児教育について学ぶ。	担当 黒田	
		事後	テキスト、配付プリント、講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分	
16	定期試験	筆記試験	担当 黒田		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	事前課題について確認すること	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館3階 黒田研究室		教育現場での実践経験を生かし、教育課程の編成と評価の意義と基本的事項および方法について講義を行う。			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
16	保育内容 総論	生田 恵津子	1	15	演習	1年後期	必修
科目概要（講義目的）		保育の歴史の変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解できる。					
到達目標		1) 保育の内容、保育所の機能、保育の現代的課題を説明することができる。 2) 保育所保育指針・事例検討を通して、保育の全体的構造を説明できる。					
学習方法		講義と視覚教材を活用したグループワーク等を通して、より具体的に保育・幼児教育を学ぶ。					
課題のフィードバック		課題は授業内で取り上げ、フィードバックする。					
教員からのメッセージ		多くの事例に触れ、保育・幼児教育は、一人ひとりの子どもを理解するところから始まるということ、保育という営みの重要性を理解して欲しいと思います。					
テキスト		シードブック 改訂 保育内容総論 入江礼子・榎沢義彦 建帛社（2018）					
参考書		保育所保育指針 フレーベル館（2023）					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	60%	基本事項 80%（選択問題） 応用事項 20%（記述問題）
事前・事後学習課題	40%	適切な内容であるか	
授業内小テスト	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		担当	生田
	1	現代社会における保育の課題	事前	子どもたちを取り巻く現代的課題をいくつか挙げ、そのうち一つについて自分の考えをまとめる。(400字程度)		
		概要	今の社会に必要な子どもの暮らしや育ちはどうのものかを学び、保育のありかたを理解することができる。			
		事後	子ども・子育て支援新制度ができた背景についてまとめる。(800字程度)	120分		
2	遊びと保育内容	事前	テキスト p21 を読み、主体的な遊びとは、どういうことを指すと考えるかまとめる。	120分		
		概要	子ども自身が主体的に生きること「自ら学び、考える力」をつけるための援助について理解できる。			
		事後	テキスト p40 を読み、「子どもの視点に立つこと」と「保育者としての願いをもつこと」との関連についてまとめる。	120分		
3	保育内容の変遷と現代の保育内容	事前	自身の子ども時代と、今の子ども達とで変わったと書くことを書き出す。	120分		
		概要	保育の歴史を学び、現在の要領・指針に基づいたカリキュラムマネジメントについて理解できる。			
		事後	保育の歴史にある社会の変遷についてまとめる。(800字程度)	120分		
4	保育内容と計画	事前	テキスト p57 を読み、「主体的な活動」とは何か考えをまとめる。(400字程度)	120分		
		概要	シーン 1～5 を視聴しグループワークで自分の考えを発言できる。			
		事後	配布資料を読み、「人間になる」とはどういう意味か、自分の考えを書く。(400字程度)	120分		
5	幼稚園で展開される生活と保育内容	事前	テキスト p99 の事例から、保育者の意図を読み取りまとめる。(400字程度)	100分		
		概要	シーン 6～10 を視聴しグループワークで自分の考えを発言できる。			
		事後	テキスト P111 を読み、地域に開かれた幼稚園とは何か、なぜ必要なのかを考えまとめる。(400字程度)	120分		
6	保育所で展開される生活と保育内容	事前	テキスト P113-P117 を読み、0,1 歳児の保育に求められる保育内容として何が大切か、考えをまとめる。(400字程度)	100分		
		概要	シーン 11～15 を視聴しグループワークで自分の考えを発言できる。			
		事後	「遊んでぼくらは人間になる」を観て、感じた事をまとめる。	120分		

授 業 計 画 等	7	幼保連携型認定こども園で展開される生活と保育内容	事前	p135-p139からを読み、保育の環境についての考えをまとめる。	100分
			概要	環境（人・物・事）を通しての学びとは何か理解できる。	担当 生田
			事後	環境のひとつである保育者に求められる事は何か、考えをまとめる。(400字程度)	120分
8	教育・保育施設における新たな役割	事前	保育士の仕事の一つである「子育て支援」とはどのようなことか調べてまとめる。(400字程度)	100分	
		概要	子ども理解からはじまり、子どもの育ちへの願いを込めて作り上げていく指導計画の実際を理解する。	担当 生田	
		事後	部分実習の指導計画を立てる(制作活動・遊びなどから一つを選ぶ)	120分	
9	定期試験	筆記試験	担当 生田		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		保育原理のノートを見返しておく
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：木曜日5時限 場所：2号館3階 生田研究室		保育園士、園長として保育園に勤務した経験を踏まえ、保育の歴史の変遷や保育の理念、保育のこれからについて授業を行う。			
その他(特記事項等)					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
17	保育内容の指導法 I (健康・表現)	山田真治・中島弘毅 米窪洋介	2	30	演習	1年後期	必修

科目概要 (講義目的)	幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」、「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
到達目標	幼児の心情、認識思考及び動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。領域「健康」、「表現」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
学習方法	3名の担当教員で授業を展開していきます。研究データ等を紹介しながら、自らが指導案を作成、模擬授業を行い自分なりの指導法を見出していきます。
課題のフィードバック	各課題のフィードバックとしてコメントを返します。(山田・米窪) 自己学習における疑問点等は、授業内や Teams において解説する。事前学習における課題は、翌授業開始前にコメントを付けて返却する。(中島)
教員からのメッセージ	予習・復習を必ず行なってください。
テキスト	山田真治、米窪洋介『表現の指導法音楽・造形』(学術文芸出版) 2025年
参考書	幼児期運動指針 (中島)

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	学びの理解度
	指導案の作成	30%	理解度と達成度
	授業の課題	20%	課題の達成度
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
合計	100%	—	

授業計画等	回	項目	内容		
	1	幼児の基本的な生活習慣	事前	幼児の基本的な生活習慣の育成と環境との関係について考えてきます。	120分
			概要	基本的な生活習慣の形成と環境構成について学ぶ。担当 中島	
			事後	基本的な生活習慣を形成するための環境作りについてまとめます。	120分
	2	健康管理と安全能力	事前	健康を維持する上で、日常生活の中にどのようなリスクがあるかを考えてきます。	120分
			概要	健康管理と安全能力を育む指導について学ぶ。担当 中島	
			事後	健康管理と安全能力を育むポイントについてまとめます。	120分
	3	健康管理と安全能力	事前	保育及び日常生活の中で、どのような危険な場面があるかを考えてきます。	120分
			概要	安全管理や災害安全についての指導法について学ぶ。担当 中島	
			事後	安全管理や災害時の安全確保についてポイントについてまとめます。	120分
	4	指導案の作成	事前	支援したい運動遊びと展開方法を考えてきます。	120分
			概要	指導案の手順等について学び、指導法を理解すると共に指導案を作成します。担当 中島	
			事後	指導案を推敲し、清書して提出します。	120分
	5	幼児期の食と栄養	事前	子どもが好まないと考えられる食材をとり上げ、どのようにしたら、その食材に対して、前向きになれるのかを考えてきます。	120分
			概要	幼児の食への興味関心を高めるための指導法について理解する。担当 中島	
			事後	食への関心を高めるための指導法を考えて、レポートを提出します。	120分
	6	幼児の発達の理解	事前	教科書 P3～5 を熟読し、年齢別にどのような活動能力が身につくかを覚えてくる。	120分
			概要	表現活動における資質、能力について理解する。担当 山田	
			事後	発達段階において、可能な音楽活動をまとめる。	120分

授 業 計 画 等	7	幼児の表現評価	事前	教科書 8～10 の幼稚園教育要領 (抜粋) を熟読し、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を覚えてくる。	120 分
			概要	小学校教科との接続性について幼稚園教育要領基に理解を深める。	担当 山田
			事後	教科書 P8～9, 小学校学習指導要領、第 2 章 (抜粋) を熟読し、小学校で学ぶべき内容を覚えておく。	120 分
	8	音楽表現における保育実践	事前	幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校学習指導要領の小学校で学ぶべき内容を覚えておく。	120 分
			概要	音楽表現における保育実践の動向についての知見を深め、保育構想の向上に取り組む。	担当 山田
			事後	教科書 P10～11 の課題 (各項目五つ以上上げる) 行い、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を覚える。	120 分
	9	指導案の作成	事前	教科書 P15～17 を熟読し、想定されるねらいを覚えておく。	120 分
			概要	音楽遊びの模擬保育指導案を作成する。	担当 山田
			事後	指導案にねらい、評価、教師の援助が適切に書かれているか振り返り、指導案を修正する。	120 分
	10	幼児の心情、思考の理解	事前	歌唱指導の在り方について、情報機器を使用し、指導例を抽出しておく。	120 分
			概要	ポートフォリ等で幼児の心情や思考についての理考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む。	担当 山田
			事後	保育構想の向上に至る歌唱指導の在り方とは何か、を考え、レポートにまとめる。	120 分
	11	幼児の発達と造形表現	事前	教科書 pp.31-35 を読み、予習を行う。	120 分
			概要	幼児の発達や学びの過程を理解し、造形表現活動において育みたい資質・能力について考える。	担当 米窪
			事後	子どもの造形的発達についてまとめる。	120 分
	12	評価と学びの連続性	事前	教科書 pp.36-39 を読み、予習を行う。	120 分
概要			幼児の造形表現における評価の考え方について理解する。	担当 米窪	
事後			ポートフォリオをまとめる。	120 分	
13	遊びと造形表現	事前	教科書 pp.40-46 を読み、予習を行う。	120 分	
		概要	幼児の造形活動に用いられる様々な素材に触れ、あそびへの展開の可能性を理解する。	担当 米窪	
		事後	素材の特性についてまとめる。	120 分	
14	造形表現活動の構想	事前	教科書 pp.47-49 を読み、予習を行う。	120 分	
		概要	表現活動における素材の活用法を理解するとともに教材研究の方法について理解する。	担当 米窪	
		事後	教材研究の課題をまとめる。	120 分	
15	指導案の作成	事前	教科書 pp.50-51 を読み、予習を行う。	120 分	
		概要	教材研究を元に、造形活動における指導案について理解する。	担当 米窪	
		事後	指導案を作成する。	120 分	
16	定期試験	筆記試験	担当 米窪		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	前期に学んだ健康・表現の領域のねらいと内容を復習しておいて下さい。	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：山田・米窪研究室		中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽評威厳活動の支援と理解について講義と演習を行う。(山田)			
その他 (特記事項等)		なし			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
18	保育内容の指導法Ⅱ (環境・人間関係)	山藤 宏子	2	30	演習	1年後期	必修
科目概要(講義目的)		幼児期に育みたい資質能力について理解し、領域「環境」および領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
到達目標		1. 幼児期における教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」「環境」の意義を理解できる。 2. 子どもと環境(人的・物的)との関わりについて理解し、理論的・実践的に活用できる。 3. 保育者の環境(人的・物的)への配慮や援助のあり方について理解し、保育を構想できる。					
学習方法		教員からの講義だけではなく、質問や議論、グループワーク等を重視し、自己の考え、他者の考えを通して科目の理解を深める。					
課題のフィードバック		各回に使用するワークシートは授業終了後に回収し、次回以降の授業時にコメントを付して返却する。また、自主学习においての疑問や質問は、授業内の関連単元でクラスで共有したり、Teamsにおいて個別に対応する。					
教員からのメッセージ		保育の環境(物的環境・人的環境)についての理解を実践を交えながら深めていきましょう。					
テキスト		保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」第2版 咲間まり子編(みらい:2013) はじめまして子どもの権利条約ワークブック 川名はつ子監修(東海教育研究所:2020)					
参考書		なし					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	50%	基礎知識、応用知識に関する記述問題				
	授業内ワークシートへの取り組み	50%	授業内ワークシートの提出と取り組み 5点×10回				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	合計	100%	—				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	保育の基本と人との関り	事前	テキスト全体に目を通し、領域「環境」および「人間関係」のねらいと内容についてまとめる。			120分
			概要	基本的な信頼関係と人的環境の理解。			担当 山藤
			事後	テキストを参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。			120分
	2	保育教材を用いた自己表現1	事前	自己を見つめ直し、特技や長所、短所などをまとめる。			90分
			概要	自己表現に適した保育教材の企画について学ぶ。			担当 山藤
			事後	指定された工程までの保育教材の制作を終了する			120分
	3	保育教材を用いた自己表現2	事前	保育教材の制作に必要な材料を整える			60分
			概要	自己表現に適した保育教材の制作について理解する			担当 山藤
			事後	指定された工程までの保育教材の制作を終了する			120分
	4	保育教材を用いた自己表現3	事前	なし			0分
			概要	自己表現に適した保育教材の使い方について学ぶ。			担当 山藤
			事後	指定された工程までの保育教材の制作を終了する。			120分
	5	保育教材を使用した自己表現	事前	作成した保育教材の効果的な使い方を練習する。			120分
			概要	保育教材を使用した子どもへのふさわしい対応を修得する。			担当 山藤
			事後	実習の際に戸惑うことなく自己紹介を行えるよう練習する。			120分
	6	園内の環境構成と人との関り	事前	テキスト5章を読み、環境と人の関りについてまとめる。			120分
			概要	様々な環境を通して生まれる幼児期の人間関係について理解する。			担当 山藤
			事後	テキスト5章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。			120分

授 業 計 画 等	7	子どもの生活と人の関り	事前	テキスト8章を読み、子どもを取り巻く人々の関係についてまとめる。	120分
			概要	子どもを取り巻く環境においてのそれぞれの関係性を理解する。	担当 山藤
			事後	テキスト8章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分
	8	遊びの環境・遊びで育つ人間関係	事前	テキスト4章を読み、子どもと遊びについてまとめる。	120分
			概要	子どもにとっての「遊び」の意味を理解する。	担当 山藤
			事後	テキスト4章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分
	9	規範意識・道徳性の獲得1	事前	テキスト9章1節を読み、道徳性・規範意識についてまとめる。	120分
			概要	小学校の授業を例に、就学前に必要な子どもの育ちを理解する。	担当 山藤
			事後	テキスト9章1節を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分
	10	規範意識・道徳性の獲得2	事前	就学前の子どもに規範意識、道徳性をどのように説明するか検討する。	120分
			概要	ジグソー学習法を用い、エキスパートグループを通して学ぶ。	担当 山藤
			事後	グループで話し合った結論を他者に説明できるように整理する。	120分
	11	規範意識・道徳性の獲得3	事前	エキスパートグループの結論を自己の言葉で伝えることができるようにまとめる。	120分
			概要	ジグソー学習法を用い、ジグソーグループを通して学ぶ。	担当 山藤
			事後	グループで話し合った結論を他者に説明できるように整理する。	120分
	12	規範意識・道徳性の獲得4	事前	ジグソーグループの結論を自己の言葉で伝えることができるようにまとめる。	120分
概要			エキスパートグループでの課題発表について理解する。	担当 山藤	
事後			課題の発表ができるように準備を整える。	180分	
13	規範意識・道徳性を幼児にどう伝えるか	事前	課題の発表ができるように準備を完了させる。	180分	
		概要	幼児にわかるように規範意識・道徳性の説明を行う。	担当 山藤	
		事後	発表についての反省を行う。	120分	
14	保育の中での子どもの権利条約1	事前	子どもの権利条約について調べる。	120分	
		概要	子どもの権利条約について理解する。	担当 山藤	
		事後	授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
15	保育の中での子どもの権利条約2	事前	子どもの権利条約の理念が反映されている場所や事例を集める。	180分	
		概要	事例を通して子どもの権利条約について学ぶ。	担当 山藤	
		事後	授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
16	定期試験	筆記試験	担当 山藤		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 山藤研究室		保育現場経験および、NPO 法人において子どもを中心とした人と人とを繋ぐ活動に携わった経験を踏まえ、子どもにとって環境および人との繋がり的重要性を示す授業を行う。			
その他（特記事項等）					
毎回の授業で配布する授業レジュメは、自分が理解したことを記入しながら活用し、順にファイルなどに保存することを推奨する。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
19	子どもと音楽表現	山田 真治	1	15	演習	1年前期	必修
科目概要（講義目的）		幼児の表現、姿や発達を理解する。音楽表現の基礎的な知識、技能、知識を学ぶことにより、幼児の音楽表現を支えるための感性を身につける。					
到達目標		幼児の音楽表現の姿や発達が説明できる。音楽表現の基礎的な技能、知識を学び、感じる・みる・聴く・楽しむことを通して作り上げたイメージを豊かに表現することができる。また身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした音楽表現ができる。					
学習方法		講義、グループワークを中心に理解を深める。授業内の演奏発表で知識の習得の確認を行う。					
課題のフィードバック		質問や疑問点については授業内、研究室で随時解説します。演奏発表については、授業時間内で発表後、直ぐにフィードバックしていきます。					
教員からのメッセージ		事前学習はしっかり行ってきて下さい。準備ができていれば、授業が有意義なものとなります。					
テキスト		「幼児の表現 音楽表現・身体表現」（学術文芸出版 2024）「音楽表現の基礎」（2023）					
参考書		「子どものための音楽表現技術」（萌文書林 2017）					
成績評価方法	評価項目		配分%		評価基準		
	定期試験		60%		オリジナル楽器の演奏、手あそびの考案、イメージにの表出		
	事前・事後学習課題		40%		自己学習での習得内容、資料内容、製作内容		
	授業内小テスト		0%		—		
	他（ ）		0%		—		
	他（ ）		0%		—		
	他（ ）		0%		—		
合計		100%		—			
授業計画等	回	項目		内容			
	1	領域「表現」のねらい及び内容の理解		事前	教科書、P2～5、幼稚園教育要領、保育所保育指針を熟読し、「ねらい」を覚えてくる。		60分
				概要	乳幼児や遊びや生活における領域の「表現」の位置づけについて理解する。		担当 山田
				事後	教科書、P2～5、幼稚園教育要領、保育所保育指針の「内容」を覚える。		60分
	2	幼児の表現の発達の理解		事前	教科書、P6を熟読し、0歳～3歳までの発達の違いが答えられるようにしてくる。		120分
				概要	幼児の素朴な表現、芽生えについて理解する。		担当 山田
				事後	教科書、P7の幼児の素朴な表現、芽生えについて復習し、年齢による特徴を覚える。		120分
	3	豊かな環境と表現の関連性について		事前	教科書、P8～9、(1)～(3)の「内容」をまとめてくる。		120分
				概要	身体の諸感覚を通して環境と対話し感受性を豊かにする。		担当 山田
				事後	身のまわりの素材で楽器を作成する。		120分
	4	身のまわりの音・声・楽器による音楽あそび		事前	教科書、P12～21の楽曲を歌えるようにしてくる。		120分
				概要	声や音の面白さに気付く。声や動きなど自ら創り出す音の多様性を生かした表現を行う。		担当 山田
				事後	作成した楽器の修正をする。		120分
	5	豊かな表現の体験		事前	作成した楽器を基にグループで演奏分担を決めてくる。		120分
				概要	豊かな歌唱表現を習得。合唱、アンサンブルを通して重なり合う音の美しさくを体験する。		担当 山田
				事後	教科書、P10～11、(4)～(5)の「内容」をまとめてくる。		120分
	6	音・歌あそびを「学び」の視点から捉える		事前	教科書、ICTを活用し、P34～38のわらべ歌を暗譜で歌えるようにしてくる。		120分
				概要	わらべうたに乗せて幼児の発達に合わせたリズム遊びや手あそびを創作する。		担当 山田
				事後	わらべ歌の手あそびをまとめて、提出できるようにする。		120分

授 業 計 画 等	7	イメージを音で表出する	事前	教科書、P24～33の歌をICTを活用し、楽曲の背景を調べてまとめる。歌が歌えるようにしてくる。	120分
			概要	楽曲を聴いて思考、気づき、イメージを豊かにし、感性を高める。	担当 山田
			事後	楽曲を聴いて浮かんだ心情、情景などを絵でまとめる。	120分
8	総括と発表	事前	手作り楽器の写真を撮り、楽器の面白さ、特徴、工夫したこと等、説明ができる資料を準備してくる。	120分	
		概要	ICTを活用し、手作り楽器の編集レポートを作成する。	担当 山田	
		事後	編集レポートを修正し提出できるようにする。	120分	
9	定期試験	筆記試験	担当 山田		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー			実務経験と授業科目との関連性		
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館2階 山田研究室			中学校、高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。		
その他（特記事項等）					
事前学習は、必ず行ってきて下さい。学習ができていないと授業についていけないことがあります。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
20	子どもと健康	中島 弘毅	1	15	演習	1年前期	必修
科目概要（講義目的）		領域「健康」の指導に関連する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。					
到達目標		1. 子どもの健康問題と身体の諸機能の発達等について理解し、当該期の健康の意義および体の発達の特徴を説明できる。 2. 幼児期の病気の予防と安全な生活を理解し、子どものケガや病気、安全教育、安全管理について説明できる。 3. 幼児期の運動発達と身体活動について理解し、多様な動きの獲得の意義や日常生活での身体活動について説明できる。					
学習方法		講義を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。授業内小テストで知識の修得の確認を行う。					
課題のフィードバック		自己学習における疑問点等は、授業内や Teams において解説する。事前学習における課題は、翌授業開始前にコメントを付して返却する。					
教員からのメッセージ		主体的に学習に取り組むことを期待しています。					
テキスト		なし 資料を用意します。					
参考書		新版幼児健康学、原田碩三、黎明書房、1997 幼児の体と心を育てる運動遊び、出村真一監修、杏林書房、2012					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	68%	基本事項 80%、応用事項 20% で構成した記述問題（選択問題を含む）				
	事前・事後学習課題	16%	自己学習で得た知識等の記載内容（2点×8回）				
	授業内小テスト	16%	各授業内の復習テスト（記述等）（2点×8回）				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	合計	100%	—				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	領域「健康」の意義	事前	我々にとって、健康がどのような意味を持つのかについて考え、まとめてくる。			60分
			概要	領域「健康」の内容とねらい。健康とは何か。		担当	中島
			事後	小テストの内容について、振り返りを行ない、調べ学習をし、まとめる。			120分
	2	子どもの健康をめぐる現状と課題	事前	子どもを取り巻く環境と子どもが抱える健康上の問題を列挙してみよう。			120分
			概要	子どもの体力・運動能力の現状と子どもを取り巻く環境について。		担当	中島
			事後	小テストの内容について、振り返りを行ない、調べ学習をし、まとめる。			120分
	3	幼児の発育と発達について	事前	幼児の身体的、生理的機能の発達について、どのようなものがあるか調べ、まとめてこよう。			120分
			概要	幼児の身体的発育と生理機能の発達。		担当	中島
			事後	小テストの内容について、振り返りを行ない、調べ学習をし、まとめる。			120分
	4	子どもの運動発達と身体活動①	事前	幼児期運動指針を読み、幼児期における運動の意義についてまとめよう。			120分
			概要	幼児期運動指針と運動発達の段階。		担当	中島
			事後	小テストの内容について、振り返りを行ない、調べ学習をし、まとめる。			120分
	5	子どもの運動発達と身体活動②	事前	自然の中には、どのような遊びがあるかを列挙し、まとめよう。			120分
			概要	遊びとしての運動を考える。		担当	中島
			事後	小テストの内容について、振り返りを行ない、調べ学習をし、まとめる。			120分
	6	子どもの生活習慣の形成	事前	子どもの生活習慣で気になることをまとめてこよう。			60分
			概要	子どもの基本的な生活習慣（食事・睡眠・着脱衣等）の形成について。		担当	中島
			事後	小テストの内容について、振り返りを行ない、調べ学習をし、まとめる。			120分

授 業 計 画 等	7	子どもの病気と予防	事前	子どもの病気で気になるものについて調べて、まとめよう。	120分	
			概要	アレルギー、感染症対策等について。	担当 中島	
			事後	小テストの内容について、振り返りを行ない、調べ学習をし、まとめる。	120分	
	8	安全管理と安全教育	事前	新聞等で幼児期の事故で気になった記事を見つけ、その原因と課題をまとめてこよう。	120分	
			概要	幼児期の事故の実態と安全保育。	担当 中島	
			事後	小テストの内容について、振り返りを行ない、調べ学習をし、まとめる。	120分	
	9	定期試験	筆記試験	担当 中島		
	D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
	2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：授業終了後 場所：講師控室（1号館2階）		大学での教員経験を踏まえ、領域「健康」について、身体の成長に関わる今日的な課題を含めて講義と演習を行う。				
その他（特記事項等） なし						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
21	子どもと環境	高橋 典子	1	15	演習	1年前期	必修
科目概要（講義目的）		現代の乳幼児を取り巻く環境（人的・物的・自然・社会的）について理解する。 乳幼児期における環境を通じた教育の必要性を理解する。 子どもの発達段階にふさわしい環境設定を行うために必要となる感性・知識・技術を身につける。					
到達目標		領域「環境」の指導で必要となる好奇心や探求心等の感性を養い、保育内容に関する知識及び技術を身につける。特に領域「環境」の指導の基盤になる現代の乳幼児を取り巻く人的・物的・情報環境及び社会の事象との関わりの発達過程について理解できる。					
学習方法		テキスト・配布資料による講義及び、主題に応じたグループワーク・個人ワークを行う。					
課題のフィードバック		事前学習の内容について次回授業内において解説を行う。 振り返りシートでの質問等について後日授業内において解説を行う。					
教員からのメッセージ		子どもを取り巻く多様な環境について学び、保育のおもしろさと豊かさを知っていきましよう。					
テキスト		新時代の保育双書「保育内容環境（第3版）」秋田喜代美他編 基部式会社みらい：2018					
参考書		なし					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	60%	記述問題および選択問題の得点				
	授業での発表	40%	授業内容を理解した内容（10点×4回）				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	合計	100%	—				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	保育と環境 現代社会の乳幼児を取り巻く環境	事前	テキストP10～12を読み、子どもにとっての環境を理解しまとめる。			100分
			概要	現代社会の乳幼児を取り巻く環境の必要性と課題について理解する。	担当	高橋	
			事後	テキスト・配布資料を基に振り返りシートを作成する。			125分
	2	領域「環境」のとらえ方と考え方 子どもの育ちと環境	事前	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領の中の領域「環境」を読み、その特徴を知る。			100分
			概要	乳幼児の発達と環境との関わりについて理解する。	担当	高橋	
			事後	テキスト・配布資料を基に振り返りシートを作成する。			125分
	3	保育環境の構成	事前	保育室の環境についてさまざまなケースを調べる。			100分
			概要	遊びと環境構成について理解する。	担当	高橋	
			事後	テキスト・配布資料を基に振り返りシートを作成する。			125分
	4	人的環境	事前	テキストP44～50の事例を読む。			100分
			概要	保育者、友だち、さまざまな人とのかわりに焦点を当てて人的環境について理解する。望ましい人的環境について考え発表する。	担当	高橋	
			事後	テキスト・配布資料を基に振り返りシートを作成する。			125分
	5	物的環境	事前	保育現場にあると思われる物的環境について調べる。			100分
			概要	園における物的環境の性質や特徴を理解したうえで環境を構成する大切さを理解する。望ましい保育室環境構成について発表する。	担当	高橋	
			事後	テキスト・配布資料を基に振り返りシートを作成する。			125分
	6	自然環境	事前	光を使った遊び及び必要な環境について調べる。			100分
			概要	自然事象へのかかわりについて理解する。光を使った遊びを体験し、その物的環境について発表する。	担当	高橋	
			事後	テキスト・配布資料を基に振り返りシートを作成する。			125分

授 業 計 画 等	7	社会的環境	事前	園で行われている年間行事とその目的について調べる。	100分
			概要	社会の文化、行事への関心を育む環境について理解する。 園における行事のねらいと内容について発表する。	担当 高橋
			事後	テキスト・配布資料を基に振り返りシートを作成する。	125分
8	子どもを守る安全な環境	事前	テキスト P119～126 を読み、安全な環境の意味を理解する。	100分	
		概要	安全な環境を整え、維持し続けることの重要性を理解する。	担当 高橋	
		事後	テキスト・配布資料を基に振り返りシートを作成する。	125分	
9	定期試験	筆記試験	担当 高橋		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 高橋研究室		保育現場経験のある教員がその経験を踏まえ、環境を通じた教育について具体的事例を交えながら講義と演習を行う。			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
22	子どもと人間関係	山藤 宏子	1	15	演習	1年後期	必修
科目概要（講義目的）		領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を獲得する。					
到達目標		現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を及ぼしている要因について理解し、保育において保障すべき保育内容に関する知識を学ぶ。特に保育の基盤となる関係発達の視点について知り、他者との関係や集団との関係の中で人とかかわる力が育つ過程を理解する。					
学習方法		教員からの講義だけではなく、質問や議論、グループワーク等を重視し、自己の考え、他者の考えを通して科目の理解を深める。					
課題のフィードバック		各回に使用するワークシートは授業終了後に回収し、次回以降の授業時にコメントを付して返却する。また、自主学习においての疑問や質問は、授業内の関連単元でクラスで共有したり、Teamsにおいて個別に対応する。					
教員からのメッセージ		乳幼児期の人間関係の発達について、保育者として必要な理解を深めていきましょう。					
テキスト		保育実践を学ぶ 保育内容「人間関係」第2版 咲間まり子編（みらい：2013）					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	60%	領域「人間関係」に関する記述問題
事前・事後学習課題	10%	自己の乳幼児期の聞き取りに関する課題	
授業内ワークシートへの取り組み	30%	授業内ワークシートの提出と取り組み 5点×6回	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		90分
	1	人間関係とは子どもを取り巻く環境	事前	テキスト全体に目を通し、本科目の進み方について見通しを持つ。	
		概要	領域「人間関係」を理解し、現代社会において子どもが置かれている環境について学ぶ。	担当 山藤	
		事後	テキスト1章、2章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
2	胎児から始まる人間関係	事前	テキスト3章を読み、年齢ごとの発達と人間関係の構築についてまとめる。	90分	
		概要	胎児期、新生児期の母子関係を学ぶ。	担当 山藤	
		事後	テキスト3章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
3	乳児からのアプローチ	事前	自分の新生児期の様子を家族などから聞き取りまとめる。	90分	
		概要	新生児の能力や生命維持のために持つ能動性について理解する。	担当 山藤	
		事後	授業内で配布したレジュメを完成させる。	120分	
4	信頼できる人間関係の構築	事前	テキスト3章を読み、アタッチメントについてまとめる。	90分	
		概要	二項関係から三項関係、アタッチメント形成について理解する。	担当 山藤	
		事後	テキスト3章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
5	自己と他者の気付き	事前	テキスト6章を読み、幼児期の自己の確立についてまとめる。	90分	
		概要	自己認知や他者理解、自己抑制を支える保育者の工夫について理解する。	担当 山藤	
		事後	テキスト6章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
6	遊びから広がる人間関係	事前	テキスト4章を読み、子どもにとっての遊びの意義をまとめる。	90分	
		概要	幼児期の共同性の育ちについて理解する。	担当 山藤	
		事後	テキスト4章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	

授 業 計 画 等	7	乳幼児期のふれあい遊び	事前	テキスト4章2節を読み、乳児との遊び方についてのイメージを持つ。	90分
			概要	身体を使ったふれあい遊びを通して、遊びの楽しさを体得する。	担当 山藤
			事後	授業内で行ったふれあい遊び、集団遊びを再現できるようまとめる。	180分
8	特別な配慮が必要なこども	事前	テキスト7章、12勝を読んで「特別な支援」とは何を指すのかをまとめる。	120分	
		概要	多様化する現代の家族形態、子どもの育ちを理解する。	担当 山藤	
		事後	テキスト7章、12章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
9	定期試験	筆記試験	担当 山藤		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 山藤研究室		保育現場経験および、NPO 法人において子どもを中心とした人と人をつなぐ活動に携わった経験を踏まえ、子どもにとっての人の繋がり的重要性を示す授業を行う。			
その他（特記事項等）					
毎回の授業で配布する授業内ワークシートは、自分が理解したことを記入しながら活用し、順にファイルなどに保存することを推奨する。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
23	子どもと身体表現	山田 真治	1	15	演習	1年前期	必修
科目概要（講義目的）		幼児の表現、姿や発達を理解する。身体表現の基礎的な知識、技能、知識を学ぶことにより、幼児の身体表現を支えるための感性を身につける。					
到達目標		身体表現に必要な幼児の発達が説明できる。身体表現の基礎的な技能、知識を学び身体表現することの楽しさが実感できる。身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした身体表現ができる。協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、豊かな身体表現ができる。					
学習方法		講義、グループワークを中心に理解を深める。授業内の演奏発表で知識の習得の確認を行う。					
課題のフィードバック		質問や疑問点については授業内、研究室で随時解説します。演奏発表については、授業時間内で発表後、直ぐにフィードバックしていきます。					
教員からのメッセージ		事前学習はしっかり行ってきて下さい。準備ができていれば、授業が有意義なものとなります。					
テキスト		「幼児の表現 音楽表現・身体表現」（学術文芸出版 2024）					
参考書		「子どものための音楽表現技術」（萌文書林 2017）					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	60%	劇の台本製作
	事前・事後学習課題	10%	自己学習での習得内容、資料内容、製作内容
	授業内小テスト	30%	劇の学習発表
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	領域「表現」のねらい及び内容の理解	事前	教科書、P2～5、幼稚園教育要領、保育所保育指針を熟読し、「ねらい」、「内容」を覚えてくる。	
		概要	領域「表現」のねらい及び内容の理解と位置づけについて理解する。	担当 山田	
		事後	教科書、P243～44、ダルクローズのリトミック理論を熟読し、まとめる。	60分	
2	自然との対話	事前	身体表現における創作劇イメージし、台本の資料を作成してくる。	120分	
		概要	身近な自然やその素材の特性に触れ、感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにする。	担当 山田	
		事後	授業でイメージしたことを基に、グループワークで劇のタイトルを決める。	120分	
3	生活との対話	事前	劇のあらすじの素案を考えてくる。	120分	
		概要	多感覚性に注目して身近な遊びや生活に心が動いたことなどを基に、劇のあらすじを考える。	担当 山田	
		事後	劇のあらすじを作成する。教科書 P52 に書き入れる。	120分	
4	模倣による身体表現	事前	劇の役割分担をグループワークで決めてくる。	120分	
		概要	身近にあるものを身体で捉え、表現を研究する。	担当 山田	
		事後	劇中の音楽を決める。	120分	
5	豊かな表現活動の体験	事前	あらすじに沿った、表現に必要な小道具を製作する。	120分	
		概要	幼児の素朴な表現を見出し、音楽に合わせた身体表現をする。	担当 山田	
		事後	音楽とあらすじのバランスを再考する。	120分	
6	他者との対話	事前	劇のあらすじを暗記してくる。	120分	
		概要	コミュニケーションとしての身体表現と創作劇による身体表現。	担当 山田	
		事後	劇の小道具を製作する。	120分	

授 業 計 画 等	7	音による創作表現	事前	学習発表のリハーサルをしてくる。1回目	120分	
			概要	音のイメージを捉えた身体表現を研究する。	担当	山田
			事後	学習発表のに必要な小道具の修正をする。	120分	
8	ICTの活用と総括	事前	学習発表のリハーサルをしてくる。2回目	120分		
		概要	ICTなどを活用し、学習発表をする。	担当	山田	
		事後	教科書、P55～P56の課題に取り組む。	120分		
9	定期試験	筆記試験	担当	山田		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし		なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館2階 山田研究室		中学校、高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。				
その他（特記事項等）						
事前学習は、必ず行ってきて下さい。劇中で使用する鼓動は、各グループで準備してください。学習ができていないと授業についていけないことがあります。						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
24	乳児保育 I	高橋 典子	2	30	講義	1年後期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		1) 乳児保育の意義と目的を理解する。 2) 現代の乳児が生活する様々な場所を知り、課題について知る。 3) 3歳未満児の月齢による発達を知り、それに合わせた保育方法・必要な環境について理解する。					
到達目標		1) 乳児保育の意義、目的と役割、歴史的返還及び現状と課題を理解できる。 2) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制を理解できる。 3) 乳児保育における連携・協働(職員間、保護者、地域関係機関)について理解できる。					
学習方法		テキスト・配布資料を基に視覚教材もとりいれ、講義形式で展開する。また、理解を深めるために事例検討・グループワークを行う。					
課題のフィードバック		事前学習内容について次回授業内において解説を行う。 提出課題はコメントを記し返却、または授業内において解説を行う。					
教員からのメッセージ		乳児の成長を支える上で必要となる知識や内容を学びます。未満児担当保育者となった時に、即戦力となれるよう学びましょう。					
テキスト		改定乳児保育の基本 阿部和子編 萌文書林：2019					
参考書		保育所保育指針					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	60%	記述問題及び選択問題の得点
事前・事後学習課題	20%	授業内容を理解した内容(手作りおもちゃ・発達マップ)	
授業内小テスト	20%	授業内容復習テストの得点(5点×4回)	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容	
	授 業 計 画 等	1	乳児保育とは①	事前
概要				乳児保育の意義と目的を理解する。 担当 高橋
事後				テキスト・配布資料を参考に講義内容を振り返る。 120分
2		乳児保育とは②	事前	保育所保育指針第2章保育の内容を読む。 120分
			概要	保育所保育指針に定められている乳児保育の意味を理解する。 担当 高橋
			事後	テキスト・配布資料を参考に講義内容を振り返る。 120分
3		乳児が生活する場①	事前	現代社会が抱える乳児保育の課題について考える。 120分
			概要	乳児保育の現状と課題について理解する。 担当 高橋
			事後	テキスト・配布資料を参考に講義内容を振り返る。 120分
4	乳児が生活する場②	事前	乳児が生活する場を考える。 60分	
		概要	家庭・保育園・認定こども園・乳児院・小規模保育・地域型保育事業等を知る。 担当 高橋	
		事後	小テストの内容についてテキスト・配布資料を参考に振り返りを行う。 120分	
5	乳児保育のねらいと内容①	事前	テキスト P48 図表 3-2 を見て概要内容をまとめる。 60分	
		概要	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「健やかに伸び伸びと育つ」を理解する。 担当 高橋	
		事後	小テストの内容についてテキスト・配布資料を参考に振り返りを行う。 120分	
6	乳児保育のねらいと内容②	事前	テキスト P48 図表 3-2 を見て概要内容をまとめる。 60分	
		概要	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「身近な人と気持ちが通じ合う」を理解する。 担当 高橋	
		事後	小テストの内容についてテキスト・配布資料を参考に振り返りを行う。 120分	

授 業 計 画 等	7	乳児保育のねらいと内容③	事前	テキスト P48 図表 3-2 を見て概要内容をまとめる。	60 分
			概要	保育所保育指針に示される乳児保育のねらい「身近なものに関わり感性が育つ」を理解する。	担当 高橋
			事後	小テストの内容についてテキスト・配布資料を参考に振り返りを行う。	120 分
	8	乳児の発達①	事前	テキスト P134~135 を読む。	60 分
			概要	0-6 ヶ月の発達とそれに応じた援助の方法を理解する。	担当 高橋
			事後	テキスト・配布資料を参考に講義内容を振り返る。	120 分
	9	乳児の発達②	事前	テキスト P134~135 を読む。	60 分
			概要	7-12 ヶ月の発達とそれに応じた援助の方法を理解する。	担当 高橋
			事後	テキスト・配布資料を参考に講義内容を振り返る。	120 分
	10	乳児の発達③	事前	テキスト P136~137 を読む。	60 分
			概要	13-24 ヶ月の発達とそれに応じた援助の方法を理解する。	担当 高橋
			事後	テキスト・配布資料を参考に講義内容を振り返る。	120 分
	11	乳児の発達④ 乳児の健康を見るポイント	事前	テキスト P138 を読む。	60 分
			概要	25-35 ヶ月の発達とそれに応じた援助の方法を理解する。	担当 高橋
			事後	講義内容について自分の考えをまとめる。	120 分
	12	乳児保育と子育て支援	事前	保育所保育指針第 4 章子育て支援を読む。	120 分
概要			乳児保育における子育て支援を理解する。	担当 高橋	
事後			講義内容について自分の考えを振り返りシートにまとめる。	120 分	
13	乳児の発達と保育環境①	事前	乳児保育にふさわしい手作りおもちゃを調べる。	180 分	
		概要	手作りおもちゃをとおして発達を学ぶ①	担当 高橋	
		事後	手作りおもちゃを作成する。	240 分	
14	乳児の発達と保育環境②	事前	乳児保育にふさわしい手作りおもちゃを調べる。	180 分	
		概要	手作りおもちゃをとおして発達を学ぶ②	担当 高橋	
		事後	手作りおもちゃを作成する。	240 分	
15	乳児の発達と領域	事前	発達マップを作成する。	240 分	
		概要	発達マップを通して領域を学ぶ。	担当 高橋	
		事後	配布資料のまとめ。	180 分	
16	定期試験	筆記試験	担当 高橋		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
4		6) 7)	なし		乳児保育の需要に関する記事等に目を通しておいてください。
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 高橋研究室		公立保育園における保育士・園長としての勤務経験を基に、乳児保育の基礎とその実際について授業を行う。			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
25	社会的養護Ⅱ	田岡 紀美子	1	15	演習	1年後期	選択 (保必)
科目概要(講義目的)		社会的養護の具体的内容としての施設養護及び家庭養護の実際について理解する。また、社会的養護における相談援助の方法・技術、子ども虐待防止と家族支援についても理解する。					
到達目標		社会的養護の基礎的・具体的な内容としての施設養護及び家庭養護の実際について理解している。また、社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待の防止と家族支援について理解している。					
学習方法		演習形式の授業のため、講義、事例検討、発表を組み合わせる授業を進めます。また、社会的養護Ⅰで学んだ内容をアウトプットしていきます。					
課題のフィードバック		授業資料、課題などは、teamsで当該科目のクラスを作成し、データ(主にPDF)をアップロードします。また、課題は、授業内で返却することでフィードバックを行ないます。質問等に関しては、teams内で作成した、クラスにて受け付けるとともに、返答も個々に行ないます。また、質問に関しては、k.taoka☆matsutan.ac.jp(☆を@に変更して下さい)でも受け付けます。					
教員からのメッセージ		グループワークやロールプレイなど実践をイメージした授業展開をするので、積極的に参加して下さい。					
テキスト		公益社団法人児童育成協会監修「新・基本保育シリーズ18 社会的養護Ⅱ」中央法規(2022)					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	レポート試験
	課題提出	50%	提出期限、内容、分量等
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	社会的養護とは	事前	シラバスの確認及び、社会的養護Ⅰの講義内容の振り返りをする。	
概要			社会的養護における子どもの権利擁護について。	担当	田岡
事後			配布資料と授業で活用した事例(p4~6)の解説を読み、振り返りをする。		90分
2	社会的養護の子どもと保育士	事前	テキストp151のアセスメントツールを確認し、用語の意味を調べておく。		60分
		概要	社会的養護の子どもと保育士の専門性について。	担当	田岡
		事後	授業内で活用した事例を再度確認し、アセスメントツールの振り返りをする。		120分
3	社会的養護の内容	事前	テキスト第3講から第5講まで通読しておく。		60分
		概要	社会的養護における、日常生活支援、心理的支援、自立支援について理解する。	担当	田岡
		事後	授業内で活用した事例を再度確認し、自立支援計画の記入方法を振り返る。		120分
4	施設養護の生活特性、自立支援について	事前	テキスト第6講から第7講までを通読する。		60分
		概要	乳児院、児童養護施設、障害児施設の生活特性について理解する。	担当	田岡
		事後	演習2の事例を基に、自立支援計画を作成する。		120分
5	アセスメントと個別支援計画①	事前	テキスト第9講を通読する。		60分
		概要	アセスメントや個別(自立)支援計画、自立について理解する。	担当	田岡
		事後	配布事例を読み込み、アセスメントを行なう。		180分
6	アセスメントと個別支援計画②	事前	配布事例を読み込み、アセスメントした後に情報シートに記入する。		60分
		概要	事例を基にアセスメントと個別(自立)支援計画の立案方法について。	担当	田岡
		事後	授業で行った事例検討の内容をまとめ、自立支援計画を完成させる。		240分

授 業 計 画 等	7	記録及び自己評価	事前	評価可能な目標とは何かをテキストを参考に考え、まとめておく。	60分
			概要	個別（自立）支援計画の評価とモニタリングについて。	担当 田岡
			事後	自身で作成した自立支援計画について評価し、モニタリングの方法について振り返りを行う。	120分
8	記録と自己評価	事前	配布資料とテキストを通読しておく。	120分	
		概要	記録の意義と役割、自己評価（批判的省察）について理解する。	担当 田岡	
		事後	全体のまとめを含め、これまでの資料の振り返りを行う。	240分	
9	定期試験	論述（レポート試験）	担当 田岡		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
4		6) 7)	1年生後期・保育士資格取得者は必須です。社会的養護Ⅰを履修済みであること。		社会的養護Ⅰの講義内容等を復習しておくこと。
オフィスアワー			実務経験と授業科目との関連性		
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2号館 3階 田岡研究室			該当せず		
その他（特記事項等）					
資料を teams で配布するので、できるだけ自身の PC に配布資料をダウンロードして、授業で活用してください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
26	子どもの音楽Ⅰ	山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	2	30	演習	1年前期	必修
科目概要(講義目的)		保育現場では現状ピアノを用いることが多い。個人の演奏技術を高めるとともに現場に即した弾き歌い演奏ができること、既成楽譜が簡易楽譜にアレンジできるようにする。					
到達目標		子どもの発達段階を理解した上で、保育現場の音楽表現に必要なピアノ演奏技術を習得し、子どもの目線に合った音楽表現ができる。また幼児教材に含まれているコードネーム等の音楽知識も理解し、現場に合わせた即興演奏、弾き歌いの歌唱表現ができる。					
学習方法		個人の読譜力、リズム感を確認しながら、個人レベルに合わせた個人レッスン形式で学習していく。					
課題のフィードバック		事前学習及び事後学習の取り組みの状況については、個別レッスンの際に確認し助言する。定期試験における成果については、終了後1週間以内をめどに、レッスン担当者よりメールにてフィードバックする。					
教員からのメッセージ		課題で出された楽曲については、次のレッスンまでに必ず弾けるようにしておくこと。					
テキスト		「保育のピアノ伴奏」阿部直美監修(日本文芸社、2011) 「幼稚園の子どもたちの歌 長野県編」山田真治・齋藤博紀 共著(学術文芸出版、2024)					
参考書		「バイエル教則本」(全音楽譜出版、1957) 「幼児の歌 110 曲集」(ATM 出版、2016)					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	80%	演奏の完成度				
	事前・事後学習課題	20%	練習課題曲数				
	授業内小テスト	0%	—				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	合計	100%	—				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	読譜の練習	事前	シラバスを読み、到達目標と授業内容を確認すること。			20分
			概要	高音部譜表・低音部譜表を理解する。	担当	山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
			事後	テキストの該当箇所の練習問題に取り組むこと。			120分
	2	リズム練習とピアノ練習	事前	前回の指導内容に沿った課題に取り組むこと。			120分
			概要	リズムを理解する。	担当	山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
			事後	テキストの該当箇所の練習問題に取り組むこと。			120分
	3	子どもの歌の指導(1)	事前	前回の指導内容に沿った課題に取り組むこと。			120分
			概要	生活の歌を理解する。	担当	山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。			120分
	4	子どもの歌の指導(2)	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。			120分
			概要	行事の歌 4月～8月を練習する。	担当	山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。			120分
	5	子どもの歌の指導(3)	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。			120分
			概要	行事の歌 9月～3月を練習する。	担当	山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。			120分
	6	子どもの歌の指導(4)	事前	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。			120分
			概要	季節の歌 3月～5月を練習する。	担当	山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。			120分

授 業 計 画 等	7	子どもの歌の指導（5）	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
			概要	季節の歌 6月～8月を練習する。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
	8	子どもの歌の指導（6）	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
			概要	季節の歌 9月～11月を練習する。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
	9	子どもの歌の指導（7）	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
			概要	季節の歌 12月～2月を練習する。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
	10	子どもの歌の指導（8）	事前	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
			概要	季節外の歌を練習する。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
	11	弾き歌い指導（1）	事前	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
			概要	メロディー（右手）と歌の関係について理解する。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池
			事後	今回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
	12	弾き歌い指導（2）	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分
概要			歌とピアノ伴奏の関係について理解する。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
事後			前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分	
13	コードネームの理解	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分	
		概要	音の名称と主要3和音を理解する。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
		事後	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分	
14	既成楽譜のアレンジ	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分	
		概要	メロディー、伴奏をアレンジする。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
		事後	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分	
15	演奏発表リハーサル	事前	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	120分	
		概要	人前での弾き歌い発表のリハーサル。	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池	
		事後	前回の個別レッスンでの指導内容に沿った練習に取り組むこと。	180分	
16	定期試験	弾き歌い試験	担当 山田 齋藤(博) 山口 飯田 鎌倉 野田 小池		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	バイエル 60 番程度まで終了しておくのがぞましい。	
オフィスアワー			実務経験と授業科目との関連性		
日時：山田、齋藤（博）：木曜5時限、 兼任講師：授業終了後 場所：山田・齋藤（博）：各研究室、兼任講師：音楽棟			中学校・高等学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。（山田）		
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
27	子どもと運動遊び	古屋顯一・中島弘毅	2	30	演習	1年前期	必修
科目概要（講義目的）		大学での教員経験を踏まえ、子どもの運動機能の発達、遊びを引き出す環境について保育現場での遊びを題材に演習を行う。具体的には、鬼そびや用具を使った運動遊びなどの子どもが日常的に行っている遊びの体験を通して保育現場での実践力を育成する。					
到達目標		子どもの運動機能の発達などを理解して、遊び方を工夫したり提案したりすることができる。					
学習方法		演習を中心として行い、グループワークを通してオリジナル鬼あそび・ボール遊びの創造・発表を行い、振り返りシートを提出する。					
課題のフィードバック		振り返りシートにコメントを付して返却する。(古屋) 自己学習における疑問点等は、授業内や Teams において解説する。事前学習における課題は、翌授業開始前にコメントを付して返却する(中島)					
教員からのメッセージ		楽しもうとする姿勢を大切にされた参加してください。					
テキスト		なし					
参考書		なし					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	60%	選択式				
	事前・事後学習課題	10%	発表の準備など				
	授業内小テスト	0%	-				
	他（発表内容）	20%	発表の内容など				
	他（振り返りシート）	10%	振り返りシートの内容など				
	他（ ）	0%	-				
	合計	100%	-				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション	事前	子どもの運動機能の発達について調べる。			120分
			概要	授業内容・進め方の説明。		担当	古屋
			事後	子どもの運動遊びには、どんなものがあるか調べる。			120分
	2	運動遊びと主体的行動について	事前	運動行動へ導くための動機づけの方法についてリストアップして来よう。			120分
			概要	運動行動への動機づけや主体的行動を促進させる関わりについて学ぶ。		担当	中島
			事後	動機づけの仕方および主体的行動を促進させる関わり方についてレポートにまとめて提出する。			120分
	3	運動遊びとグループ	事前	仲間と交わり方にどのような方法があるかをゲームと共に考えてこよう。			120分
			概要	色々なゲームを体験し、仲間と交わることで多様な関わり方があることを学ぶ。		担当	中島
			事後	ゲームにおける仲間との交わりの仕方および段階についてレポートにまとめて提出する。			120分
	4	遊びを創るⅠ	事前	身近な環境や素材を生かした遊びをリストアップし、楽しさのポイントは何であるかを考えてこよう。			120分
			概要	グループワークを通し、身近な環境や素材を生かして、遊びを創り体験し合う。		担当	中島
			事後	創作した遊びと創り出すプロセスについてレポートにまとめて提出する。			120分
	5	遊びを創るⅡ	事前	大型遊具を生かした遊びをリストアップし、楽しさのポイントは何かを考えてこよう。			120分
			概要	グループワークを通し、大型遊具を活用して、遊びを創り体験し合う。		担当	中島
			事後	創作した遊びと創り出すプロセスについてレポートにまとめて提出する。			120分
	6	遊びを創るⅢ	事前	操作系遊具を生かした遊びをリストアップし、楽しさのポイントは何かを考えてこよう。			120分
			概要	グループワークを通し、操作系遊具を活用して、遊びを創り、体験し合う。		担当	中島
			事後	創作した遊びと創り出すプロセスについてレポートにまとめて提出する。			120分

授 業 計 画 等	7	遊びを振り返る	事前	それぞれの遊びと遊びに含まれる効果について考えてこよう。	120分
			概要	創作遊びを振り返り、遊びに含まれる効果や提供の仕方について討議・発表し合う。	担当 中島
			事後	討議を踏まえて、創作遊びを振り返り、遊びに含まれる効果や提供の仕方についてレポートにまとめて提出する。	120分
	8	運動遊びとグループ	事前	仲間作りのためのゲームにはどんなものがあるか調べる。	120分
			概要	いろいろなゲームを体験し、仲間と交わることで多様な関わり方があることを学ぶ。	担当 古屋
			事後	各自幼児を対象とした仲間作りゲームを創造してみる。	120分
	9	いろいろな鬼あそび	事前	鬼遊びにはどんなものがあるか調べてみる。	120分
			概要	様々な鬼遊びの体験と既成の鬼遊びの発表をしてみる。	担当 古屋
			事後	幼児へのルール説明の仕方を検討してみる。	120分
	10	オリジナル鬼遊びの創造	事前	各自鬼遊びを考案してみる。	120分
			概要	グループでオリジナル鬼遊びの創造をする。	担当 古屋
			事後	グループでオリジナル鬼遊びを検討する。	120分
	11	オリジナル鬼遊びの発表	事前	オリジナル鬼遊び発表の準備。	120分
			概要	グループでオリジナル鬼遊びの発表をする。	担当 古屋
			事後	グループでオリジナル鬼遊びの検討。	120分
	12	ボールを使った運動遊びとオリジナルボール遊びの創造	事前	ボールを使った運動遊びにはどんなものがあるかを調べる。	120分
概要			ボールを使った基本遊び（渡す・受ける・転がす・投げる・捕るなど）を理解する。	担当 古屋	
事後			グループでオリジナルボール遊びの検討。	120分	
13	オリジナルボール遊びの発表	事前	グループでオリジナルボール遊びの準備。	120分	
		概要	グループでオリジナルボール遊びの発表をする。	担当 古屋	
		事後	グループでオリジナルボール遊びの準備の検討。	120分	
14	伝統的な遊びの体験	事前	缶の準備と缶ポックリの作り方を調べる。	120分	
		概要	伝統的な遊びの缶ポックリの作成と体験。	担当 古屋	
		事後	幼児に提供する場合の缶ポックリ作りの注意点について検討する。	120分	
15	遊びを振り返る	事前	これまでの運動遊びについて振り返る。	120分	
		概要	創作遊びを振り返り、遊びに含まれる効果や提供の仕方について討議・発表し合う。	担当 古屋	
		事後	今後の幼児指導にどのように活かしていくか検討する。	120分	
16	定期試験	筆記試験	担当 古屋		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：古屋：木曜5時限 中島：授業終了後 場所：古屋研究室・講師控室		大学教員の経験を踏まえ、子どもの運動機能の発達、遊びを引き出す環境について保育現場での遊びを題材に演習を行う。			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
28	ことばと表現	山藤 宏子	1	15	演習	1年前期	選択 (保選)
科目概要(講義目的)		領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉の表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を獲得する。					
到達目標		1) 子どもの発達段階に応じた児童文化財の活用方法を習得する。 2) 表現の多様性を理解し、子どものことばを引き出す表現方法・実践力を身につける。					
学習方法		教員からの講義だけではなく、質問や議論、グループワーク等を重視し、自己の考え、他者の考えを通して科目の理解を深める。					
課題のフィードバック		各回に使用するワークシートは授業終了後に回収し、次回以降の授業時にコメントを付して返却する。また、自主学习においての疑問や質問は、授業内の関連単元でクラスで共有したり、Teamsにおいて個別に対応する。					
教員からのメッセージ		乳幼児期の言葉の発達について、保育者として必要な理解を深めていきましょう。					
テキスト		新・保育実践を支える 言葉 成田朋子編著(福村出版:2018年)					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	60%	領域「言葉」に関する記述問題
事前・事後学習課題	30%	児童文化財制作の進捗にかかる課題 10点×3回	
授業内ワークシートへの取り組み	10%	授業内ワークシートの提出と取り組み 5点×2回	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		60分
	1	領域「言葉」について	事前	テキスト全体に目を通し、本科目の進み方について見通しを持つ。	
		概要	領域「言葉」のねらいと内容を理解し、子どもと言葉の関係を概観することができる。	担当	
		事後	テキスト1章を参考に、年齢ごとの領域「言葉」のねらいと内容をまとめる。		120分
2	子どもの言葉の発達	事前	テキスト2章を読み、乳幼児期の身体の発達とことばの発達の関係を検討する。		60分
		概要	誕生から就学までの言語発達の様相を全体的発達と共に概観し、子どもの言語活動をより豊かにするために考えておく事柄を理解する。	担当	
		事後	テキスト2章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。		120分
3	子どもの言葉と環境	事前	テキスト3章を読み、幼児期に身に付けたい言葉の力について検討する。		60分
		概要	日常生活環境を手掛かりに、子どもにとっての言葉の意義について考察し、幼児期に身に付けたい言葉の力について理解する。	担当	
		事後	テキスト3章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。		120分
4	保育者に相応しい言葉と表現	事前	テキスト5章を読み、年齢ごとの言葉かけについてまとめる。		60分
		概要	保育者として子どもや保護者に対応する際に、相応しい言語選択や自己表現を学ぶ。	担当	
		事後	テキスト5章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。		120分
5	児童文化財としての絵本	事前	乳児期の読み聞かせに相応しい絵本を年齢ごとに検討、選択する。		60分
		概要	保育現場での絵本の役割を理解し、絵本の読み聞かせの実践ができる方法を身に付ける。	担当	
		事後	子どもの年齢に合わせた絵本を、相応しい方法で読む練習をする。		120分
6	児童文化財の制作1	事前	テキスト4章を読み、児童文化財についてまとめる。		60分
		概要	保育現場で活用されている保育教材を知り、その本質は言語文化財であることを理解する。	担当	
		事後	イラスト作成までの過程を完成させる。		180分

授 業	7	児童文化財の製作2	事前	イラストからイメージ作り、どのような文章を当てはめていくのかを検討する。	180分
			概要	イラストからオリジナルのストーリーを作成し、1冊の絵本としてまとめることを通して、「伝える言葉」にあり方を理解する。	担当 山藤
			事後	ストーリー作成までの過程を完成させる。	180分
計 画 等	8	児童文化財を使用した模擬保育	事前	完成した絵本を声を出して読み聞かせる練習をする。	120分
			概要	絵本を相互に読み聞かせる模擬授業を行い、指導案のフォーマットについて理解する。	担当 山藤
			事後	授業で行った模擬授業を指導案として書き上げる。	180分
	9	定期試験	筆記試験	担当 山藤	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー			実務経験と授業科目との関連性		
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 山藤研究室			保育現場経験および、NPO 法人において子どもを中心とした人と人とを繋ぐ活動に携わった経験を踏まえ、子どもにとっての言語の重要性を示す授業を行う。		
その他（特記事項等）					
毎回の授業で配布する授業内ワークシートは、自分が理解したことを記入しながら活用し、順にファイルなどに保存することを推奨する。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
29	生涯スポーツ I	古屋 顯一	1	15	演習	1年後期	選択 (保選)
科目概要 (講義目的)		様々なニュースポーツの体験を通して、問題発見・問題解決能力を養い、具体的には実践をとおして他者と協働して何かを作り上げていく喜びを知り、生涯スポーツへ繋げていくことを目的とする。					
到達目標		いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるために、いわゆるニュースポーツ種目の学習を通して、実践力を身につける。					
学習方法		演習を中心として、グループワーク等で理解を深め、振り返りシートを提出する。					
課題のフィードバック		振り返りシートにコメントを付して返却する。					
教員からのメッセージ		運動の不得意な学生集まれ！					
テキスト		なし					
参考書		なし					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		45%	選択式			
	事前・事後学習課題		10%	振り返りシートの提出			
	演習 (実技)		40%	各種目の技術の習熟度			
	演習 (課題)		5%	ルールの理解度			
	他 ()		0%	-			
	他 ()		0%	-			
合計		100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション	事前	ニュースポーツにはどのような種目があるか調べる・動ける体づくり			120分
			概要	授業内容・進め方の説明とストレッチング		担当	古屋
			事後	動ける体づくり			120分
	2	ワンバウンド・フライング・バレー	事前	ワンバウンド・フライング・バレーのルール調べる・動ける体づくり			120分
			概要	ワンバウンド・フライング・バレーの知識・ルールの理解		担当	古屋
			事後	動ける体づくり			120分
	3	ワンバウンド・フライング・バレー	事前	ワンバウンド・フライング・バレーのゲームの映像を見る・動ける体づくり			120分
			概要	ワンバウンド・フライング・バレーのゲームの実施		担当	古屋
			事後	動ける体づくり			120分
	4	モルック	事前	モルックのルール調べる・動ける体づくり			120分
			概要	モルックの知識・ルールの理解		担当	古屋
			事後	動ける体づくり			120分
	5	モルック	事前	モルックのゲームの映像を見る・動ける体づくり			120分
			概要	モルックのゲームの実施		担当	古屋
			事後	動ける体づくり			120分
	6	ペタンク	事前	ペタンクのルール調べる・動ける体づくり			120分
			概要	ペタンクの知識・ルールの理解		担当	古屋
			事後	動ける体づくり			120分

授 業	7	ペタンク	事前	ペタンクのゲームの映像を見る・動ける体づくり	120分	
			概要	ペタンクのゲームの実施	担当	古屋
			事後	動ける体づくり	120分	
計 画 等	8	タスポニー	事前	タスポニーのルール調べる・映像を観る・動ける体づくり	60分	
			概要	タスポニーの知識・ルールの理解とゲームの実施	担当	古屋
			事後	動ける体づくり	60分	
	9	定期試験	筆記試験	担当	古屋	
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし		なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日5時限 場所：古屋研究室（体育館脇）		大学での教員経験を踏まえ、一人ひとりに応じたスポーツとの関わりについて、一般に普及している種目を題材に演習を行う。				
その他（特記事項等）						
なし						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
30	幼児教育の方法	黒田 和子	2	30	講義	1年後期	選択 (免必・保選)
科目概要（講義目的）		幼児の心身の発達と、環境を通して養護及び教育を一体的に展開する保育の特性を理解したうえで、養護を保障するために保育者等が行う援助や態度の基本、遊びや生活が豊かに展開される保育の方法を具体的に考えることを目的とする。					
到達目標		1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。 2. 保育の目的に適した指導技術を理解できる。 3. 情報機器を活用した効果的な保育や情報活用法の育成を視野に入れた適切な教材の基礎的な事項が理解できる。					
学習方法		授業内では、講義を中心として、視覚教材やグループワーク等の内容をまとめることで理解を深めて欲しい。他ではテーマについて自らの課題をつくり、ボランティア・実習・自らの経験、を振り返りながら理解を深めていって欲しい。					
課題のフィードバック		自己学習における疑問点等は、授業内において解説する。事前レポートは、授業内でコメントやリプライを行う。最終課題は、授業内で評価の観点にもとづき解説をする。					
教員からのメッセージ		子どもの生活が豊かに展開される幼児教育の方法を学びましょう。					
テキスト		各授業で資料を配布する。					
参考書		幼児教育の方法 小田豊、青井倫子編（北大路書房）2019年 『保育指導法－幼児のための保育・教育の方法』師岡章編（同文書院）2007年					
成績 評価 方法	評価項目		配分%		評価基準		
	定期試験		70%	基本事項90%・応用事項10%で構成した記述問題（一部、短答式・選択式問題含）			
	事前・事後学習課題		30%	自己学習で得た知識、疑問点等の記載内容（2点×15回）			
	授業内小テスト		0%	—			
	他（ ）		0%	—			
	他（ ）		0%	—			
	他（ ）		0%	—			
合計			100%	—			
授 業 計 画 等	回	項目		内容			
	1	幼児期にふさわしい教育の方法		事前	幼児期にふさわしいと思うことにはどんなものがあるのか考えをまとめて出席すること。		90分
				概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力について理解する。		担当 黒田
				事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。		90分
	2	幼児教育の基本		事前	環境をとおしての教育という方法における保育者の役割について考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。		120分
				概要	幼児教育の基本と幼児教育に期待されるものについて理解する。		担当 黒田
				事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。		90分
	3	幼児教育の方法①		事前	「見える保育」と「見えない保育」にはどんなものがあるか、考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。		120分
				概要	子どもの心に届く言葉かけについて理解できる。		担当 黒田
				事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。		90分
	4	幼児教育の方法②		事前	保護者とかかわることについて、どんな気持ちをもっていますか。考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。		180分
				概要	保護者とのパートナーシップについて理解する。		担当 黒田
				事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。		120分
	5	幼児教育の方法③		事前	幼児が好む遊びを1つ選び、選んだ理由を200字程度でまとめる。		120分
				概要	幼児の自発的活動である遊びについて理解する。		担当 黒田
				事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。		120分
	6	幼児期の教育と規範意識		事前	店などでワガママをいっている子どもを目の当たりにすると、どんな気落ちになるのか。考えをまとめて出席すること。200字程度でまとめる。		180分
				概要	規範意識の芽生えの育成について理解する。		担当 黒田
				事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。		120分

授 業 計 画 等	7	保育の教材研究	事前	幼児期に遊んだ教材で、今でも心に残っているもの。考えをまとめて出席すること。200字程度で紹介する。	120分
			概要	保育教材に関わる保育の実際と教材研究	担当 黒田
			事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	120分
	8	幼児教育の方法としてのさまざまな保育形態	事前	自由保育、一斉保育、延長保育など、「〇〇保育」と名のつくものを調べて出席すること。	120分
			概要	保育形態の種類と活用法について理解する。	担当 黒田
			事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分
	9	園生活に困難を抱える子どもを支援する幼児教育の方法	事前	園生活に困難を抱える子どもを支援するためにたいせつなことはどのようなことだろうか。実習などで出会った子どもについて考えをまとめて出席すること。	120分
			概要	園生活に困難を抱える子ども支援としての幼児教育の方法を理解する。	担当 黒田
			事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分
	10	情報機器の活用①	事前	保護者サービスとして欠席連絡や連絡を通信機器で行うことについての利点と欠点を考えて200字程度にまとめる。	180分
			概要	情報機器の種類と功罪について理解する。	担当 黒田
			事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分
	11	情報機器の活用②	事前	紙芝居は、視聴覚教材であるのかどうか。調べて100字程度でまとめる。	120分
			概要	視聴覚教材としての情報の技法と活用の実際について理解する。	担当 黒田
			事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分
	12	家庭や地域と連携した幼児教育方法	事前	地域や保護者に理解をしてもらえるとどのような利点があると思いますか。200字程度でまとめる。	120分
概要			地域や保護者等と幼児教育の相互理解を促す通信やおたよりの存在について理解する。	担当 黒田	
事後			講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分	
13	幼児教育における評価	事前	保育では、小学校以降で行われているような成績評価をしない。それはなぜなのか、幼児期の発達特性と、保育の理念の点から理由を考えて200字程度でまとめる。	180分	
		概要	子どもに対する評価と保育に対する評価について理解する。	担当 黒田	
		事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分	
14	学びの連続性	事前	連続する学びを保障するために、保育者や教師の関わり方について考えて200字程度でまとめる。	180分	
		概要	円滑な接続のための幼小連携について理解する。	担当 黒田	
		事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	90分	
15	保育におけるカウンセリングマインド	事前	現代の子育て環境が悪化しているといわれる要因について考えて200字程度でまとめる。	180分	
		概要	基本的な生活習慣の育ちを支援する方法を理解する。	担当 黒田	
		事後	講義ノートをもとに復習を行い、要点をまとめておくこと。	60分	
16	定期試験	筆記試験	担当 黒田		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	事前課題について確認すること	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5時限 場所：2号館3階 黒田研究室		教育現場での実践経験と研究でつみあげた知見を生かし、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な保育・教育の方法について講義を行う。			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
31	教育実習指導	高橋 典子 齋藤 博紀	1	30	演習	1年後期 2年前期	選択 (免必)
科目概要（講義目的）		1) 教育実習を行う意義等を理解し、実習に必要な準備を行い、実習における各自の目標を明確にする。 2) 実習という具体的な経験を通して幼児教育を学ぶことを理解し、そのために必要となる知識や方法を身に付ける。 3) 事後学習において実習を振り返り、自己の課題を理解する。					
到達目標		幼稚園・認定こども園における教育を理解し、心構えを持ち自己課題を明確にする。 実習記録の書き方や指導計画の立て方について理解し、実践する。 実習での自己を振り返り、自己課題を追求する。					
学習方法		テキスト・配布資料等をもとに、講義および演習形式で授業を行う。 1年次に1回から7回、2年次に8回から15回の授業を行う。					
課題のフィードバック		各自の課題に解説を記し、後日の授業内において返却および口頭で解説を行う。					
教員からのメッセージ		実習は、現場でしか出会うことのできない事柄から学ぶ場です。自信を持って臨めるようにしっかりと準備をしていきましょう。					
テキスト		保育・教育実習スタートブック 生田恵津子他著 ふくろう出版：2024 これからの時代の保育者養成・実習ガイド 大豆生田啓友他編 中央法規：2020					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	レポート論述試験
	事前・事後学習課題	50%	授業内および自己学習で得た知識等の記載内容
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	教育実習の意義と目的 自己課題	事前	幼稚園教育要領第一章総則 保育・教育実習スタートブックを読む。	30分
		概要	教育実習の意義と目的、計画、手続き等について理解する。自己課題を設定する。	担当 高橋・齋藤	
		事後	必要書類の清書をする。	30分	
2	オリエンテーションについて 子ども理解	事前	テキスト P36-48 を読み、自分自身に必要なことを書き出す。	30分	
		概要	オリエンテーションの内容を確認し理解する。 子どもの姿から学ぶ意味を理解する。	担当 高橋・齋藤	
		事後	巡回指導依頼書を書く。	30分	
3	子ども理解と実習記録	事前	テキスト P49-61 の事例にある子どもの思いについてまとめる。	30分	
		概要	子どもの様子からその思いを理解する。 実習記録の記述方法を理解する。	担当 高橋・齋藤	
		事後	授業で行った実習記録演習の書き直しをする。	30分	
4	部分実習について 指導計画の意味	事前	絵本の選定をし、読み聞かせの練習を10回以上行う。	30分	
		概要	具体的な保育方法を理解し身に付ける。(絵本の読み方) 指導計画の必要性について理解する。	担当 高橋・齋藤	
		事後	各年齢に合った絵本を選定し、読み聞かせ練習を10回以上行う。	30分	
5	指導計画の作成	事前	部分実習の指導計画を作成する②	30分	
		概要	ふさわしい指導計画の記述方法を理解する。	担当 高橋・齋藤	
		事後	部分実習の指導計画を作成する③	30分	
6	教育実習1年次事後指導① 実習の振り返り	事前	実習評価表による自己評価を行う。	30分	
		概要	園からの評価を通して実習内容を振り返る。	担当 高橋・齋藤	
		事後	実習記録の見直しをする。	30分	

授 業 計 画 等	7	教育実習1年次事後指導② 実習の振り返り	事前	実習報告書を書く。	30分
			概要	実習報告書から実習成果と今後の課題を明確にする。	担当 高橋 齋藤
			事後	次回教育実習での実習目標を設定する。	30分
	8	教育実習の意義と目的 自己課題	事前	幼稚園教育要領第一章総則 保育・教育実習スタートブックを読む。 前回教育実習振り返りからの実習目標を見直す。	30分
			概要	教育実習の意義と目的、計画、手続き等について理解する。 自己課題を設定する。	担当 高橋 齋藤
			事後	必要書類の清書をする。	30分
	9	オリエンテーションについて 子ども理解	事前	テキスト P36-48 を読み、自分自身に必要なことを書き出す。	30分
			概要	オリエンテーションの内容を確認し理解する。 子どもの姿から学ぶ意味を理解する。	担当 高橋 齋藤
			事後	巡回指導依頼書を書く。	30分
	10	子ども理解と実習記録	事前	1年次教育実習記録を読み返す。	30分
			概要	子どもの様子からその思いを理解し保育者のかかわりの意図を理解する。 実習記録の記述方法(エピソード記述)を理解する。	担当 高橋 齋藤
			事後	授業で行った実習記録演習の書き直しをする。	30分
	11	子ども理解と指導計画作成①	事前	部分実習の指導計画を作成する。	30分
			概要	部分実習の指導計画を見直し修正する。	担当 高橋 齋藤
			事後	主活動の内容を考える。必要な環境構成について考え準備する。	30分
	12	子ども理解と指導計画作成②	事前	主活動の内容を考える。必要な環境構成について考え準備する①	30分
概要			主活動の指導計画作成にあたり必要な環境について準備をする①	担当 高橋 齋藤	
事後			主活動の指導計画を作成する①	30分	
13	子ども理解と指導計画作成③	事前	主活動の内容を考える。必要な環境構成について考え準備する②	30分	
		概要	主活動の指導計画作成にあたり必要な環境について準備をする②	担当 高橋 齋藤	
		事後	主活動の指導計画を作成する②	30分	
14	教育実習2年次事後指導① 実習の振り返り	事前	実習評価表による自己評価を行う。	30分	
		概要	園からの評価を通して実習内容を振り返る。	担当 高橋 齋藤	
		事後	実習報告書を書く。	30分	
15	教育実習2年次事後指導① 実習の振り返り	事前	実習報告書から実習成果と今後の課題を明確にする。	30分	
		概要	幼稚園教諭等としての倫理観、使命感、役割について理解する。	担当 高橋 齋藤	
		事後	振り返りレポートを記述する。	30分	
16	定期試験	レポート論述試験	担当 高橋 齋藤		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
3		5)	なし		幼稚園教育要領 第一章総則を読む。 保育・教育実習スタートブックに目を通す。
オフィスアワー			実務経験と授業科目との関連性		
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：高橋研究室 齋藤研究室			幼稚園現場経験を踏まえ、実習に必要な事項について具体的指導を行う。 (高橋)		
その他(特記事項等)					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
32	教育実習	山田 生田 永石 田中 山藤 米窪 高橋 黒田 田岡 齋藤 (博)	4	180	実習	1年後期 2年通年	選択 (免必)
科目概要 (講義目的)		1) 幼稚園等の生活を体験し、機能や役割を理解して親しみを持つ。 2) 幼児と過ごす楽しさを体験し、幼児の発達過程や興味関心について理解する。 3) 既習の教科の内容を踏まえ、幼児教育の基本について理解する。 4) 指導計画の実際、記録に基づく省察・自己評価等について具体的に理解する。 5) 幼稚園教諭等の基本的姿勢を理解する。					
到達目標		幼稚園・認定こども園の保育の実際、保育者の仕事について理解できる。 観察・参加・責任実習等、具体的な経験を通して、理論と実践を繋ぐ幼児教育の内容・方法や、保育者に求められる資質や専門性について理解できる。					
学習方法		幼稚園・認定こども園 (幼保連携型又は幼稚園型) において 10 日間の実習を行う。					
課題のフィードバック		実習園において担当保育者より指導を受ける。 教育実習指導振り返り授業内において解説を行う。					
教員からのメッセージ		各自の実習目標を明確にし、実習に臨みましょう。 幼児と過ごす楽しさを体験し、保育現場から多くのことを吸収してきてください。					
テキスト		保育・教育実習スタートブック 生田恵津子他著 ふくろう出版：2024 これからの時代の保育者養成・実習ガイド 大豆生田啓友他編著 中央法規：2020					
参考書		なし					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	実習園評価	80%	実習評価表による 5 段階評価				
	巡回指導者評価	20%	実習訪問記録による 3 段階評価				
	他 ()	0%	—				
	他 ()	0%	—				
	他 ()	0%	—				
	他 ()	0%	—				
合計		100%	—				
教育内容等	1) 幼稚園等の基本的機能と役割、子どもの生活や遊びの実態、幼稚園教諭の役割などについて理解する。 2) 実習生としての自覚や責任感を持ち、実習に取り組む。 3) 実習記録の書き方や指導計画の立て方について理解し、実践する。 4) 観察及び参加実習を主とし、これを踏まえて部分実習に取り組む。 5) 実習後は振り返りを行い、教育実習 2 年次に向けて自己の課題と学習目的を明確にする。 ※上記について、文部科学省基準に基づき、幼稚園・認定こども園 (幼保連携型又は幼稚園型) において 10 日間の実習を行う。						

実施については実習生受け入れ施設の実習指導計画に基づく。

授
業
計
画
等

DPとの関連	学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること
1	5)	実習指導科目の別規定に拠る。	各自の実習園について調べ、特色を知っておく。
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性	
各教員のオフィスアワーを確認すること。		各教員の実務経験に拠る。	
その他（特記事項等）			
なし			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
33	保育実習指導 I (保育所)	生田 惠津子 高橋 典子	2	60	演習	1年後期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		保育実習 I (保育所) に係わる諸手続き (事務内容・実習先との連絡調整など) のほか、主体的に保育実践を展開するために必要な準備全般を理解する。					
到達目標		1) 実習施設の役割と機能が説明できる。2) 子ども (利用者) の最善の利益、守秘義務などについて説明できる。3) 実習の計画・実践・記録・省察の方法や内容について、具体的に理解できる。4) 事後指導を通して今後の学習課題を明確にする。					
学習方法		テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討などグループワークも取り入れていく。					
課題のフィードバック		日誌や指導計画など、必要な書類については teams に当該科目のクラスを作成し、データをアップロードします。提出については、期日までに teams で。質問・報告は chat で受け返答をします。指導案等は添削し、翌週授業内で指導と返却を行います。					
教員からのメッセージ		実習は現場でしか体験できない生きた学びです。真摯に向き合う姿勢で臨んでください。					
テキスト		保育・教育実習スタートブック (ふくろう出版 2024) これからの時代の保育者養成・実習ガイド (中央法規 2020)					
参考書		保育所保育指針 (フレーベル館) 遊びの指導 (同文書院)					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	事前準備	40%	調べ学習での成果など				
	提出物	30%	レポート、実習に係わる書類				
	受講状況	30%	グループワーク、下調べなど				
	他 ()	0%	-				
	他 ()	0%	-				
	他 ()	0%	-				
合計		100%	-				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	保育所実習の意義と目的	事前	テキストとスタートブックの「はじめに」を読み、実習の目的をまとめる。			20分
			概要	保育実習 (保育所) の目的と履修方法、保育所で実習を行う意義について理解する。	担当		
			事後	講義内容の振り返り。			30分
	2	保育所とは	事前	保育所保育指針を読み直し、保育所保育士の役割をまとめる。			30分
			概要	保育所の機能と役割を理解し、保育士の役割を学ぶ。	担当		
			事後	保育士の専門性とは何かをまとめる。			30分
	3	保育所実習の流れ	事前	スタートブック p3-p7 を読み実習までの流れを理解する。			30分
			概要	実習の事前準備と諸注意を理解する。	担当		
			事後	保育実習 I (保育所) の目標を確認する。			30分
	4	実習園を調べる	事前	実習先の候補を 2 か所選び、その園の特徴を調べる。			30分
			概要	保育実習 I (保育所) の対象となる施設について理解する。	担当		
			事後	実習申込書を作成する。			30分
	5	実習先を決定する	事前	実習の申し込み (電話) を考えて書く。			30分
			概要	園や自治体によって、申し込み方法が違うことを理解し、実習先を確保して、準備することを確認する。	担当		
			事後	実習希望先に電話をして、実習園を決定する。			30分
	6	保育園の一日の流れと実習内容の理解	事前	テキスト p16 -p19 を読み、保育実習の 1 日を理解する。			30分
			概要	視聴覚教材を通して、保育所・認定こども園での実習を学ぶ。	担当		
			事後	保育所と認定こども園の違いをまとめる。			30分

授 業 計 画 等	7	実習申し込み手続き	事前	写真等、指示されたものを用意する。	30分
			概要	個人票・誓約書・実習申し込み票などの書類を作成する。	担当 生田・高橋
			事後	スタートブック p14 保育実習 I (保育所) 基本計画を通読する。	20分
	8	実習日誌 事前記入事項	事前	実習日誌の記載事項を確認する。	30分
			概要	実習日誌の事前記載事項について説明する。	担当 生田・高橋
			事後	実習日誌中の事前記入事項を記入する。	30分
	9	記録を書く 時系列記録	事前	テキスト p88-p91 を読み、時系列記録の書き方を理解する。	30分
			概要	視聴覚教材で事例を視聴し、時系列記録を書く。	担当 生田・高橋
			事後	授業内で示された解説をもとに時系列記録を修正する。	30分
	10	記録を書く エピソード記録	事前	テキスト p92-p95 を読み、エピソード記録の書き方を理解する。	20分
			概要	視聴覚教材 7つの場面から 1 場面を選んでエピソード記録を書く。	担当 生田・高橋
			事後	事業内で示された解説をもとにエピソード記録を修正する。	30分
	11	オリエンテーション	事前	テキスト p36 を読み、オリエンテーションの依頼についてまとめる。	30分
			概要	視聴覚教材を使ってオリエンテーションの実際について学ぶ。	担当 生田・高橋
			事後	実習予定園にオリエンテーションの申し込みを行う。	30分
	12	オリエンテーション	事前	テキスト p37-p41 を読み、オリエンテーションに向けて準備する。	30分
概要			視聴覚教材を使ってオリエンテーションの実際について学ぶ。	担当 生田・高橋	
事後			オリエンテーションを行い、報告書を作成する。	30分	
13	指導計画	事前	テキスト p118-p121 を読み部分実習の指導計画について予習する。	30分	
		概要	指導計画についての考え方を理解する。	担当 生田・高橋	
		事後	2歳児の部分実習指導計画を立てる。	60分	
14	実習直前指導	事前	5歳児の部分実習指導計画を立てる。	60分	
		概要	指導計画の修正を通して、指導計画の意味を理解する。	担当 生田・高橋	
		事後	実習に向けて自己紹介、手遊び、歌や絵本選びをする。	30分	
15	実習事後指導	事前	実習報告書記録のまとめをする。	30分	
		概要	実習の振り返りを行い、グループで意見交換をする。	担当 生田・高橋	
		事後	実習報告書の作成を行う。	30分	
16	定期試験	レポート試験	担当 生田・高橋		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
3		5)	保育実習指導 I (保育所・施設) は併せて2単位・60時間を履修し、単位が取得できる。	実習に向けて、他の教科で学んだ内容を振り返っておくこと。	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 生田研究室		保育士、園長として保育実習生受け入れ経験を持つ教員が、保育所実習について具体的に教授する。			
その他 (特記事項等)					
teams のクラス内で、資料の共有や連絡を行います。できるだけ自身の PC を授業で活用できるよう準備してください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
33	保育実習指導 I (施設)	田岡 紀美子	2	60	演習	1年後期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		保育実習 I に係る諸手続き (事務内容・実習先との連絡調整など) のほか、主体的に保育実践を展開するために必要な準備全般を理解する。					
到達目標		1) 実習施設の役割と機能が説明できる。2) 子ども (利用者) の最善の利益、守秘銀寿などについて説明できる。3) 実習の計画・実践・記録・省察の方法や内容について、具体的に理解する。4) 事後指導を通して今後の学習課題を明確にする。					
学習方法		テキスト・配布資料を基に、講義形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていく。					
課題のフィードバック		授業資料、課題、小テストなどは、teams で当該科目のクラスを作成し、データ (主に PDF) をアップロードします。また、課題は授業内で返却し、フィードバックを行ないます。質問等に関しては、teams 内で作成した、クラスにて受け付けるとともに、返答も個々に行ないます。また、質問に関しては、k.taoka ☆ matsutan.ac.jp (☆を@に変更して下さい) でも受け付けます。					
教員からのメッセージ		実習に向けて、必要書類の作成等を行っていくため、集中して取り組んでください。					
テキスト		「(仮) 福祉施設実習ハンドブック」みらい (2025) 生田・高橋・田岡 (著) 「保育・教育実習スタートブック」ふくろう出版 (2024)					
参考書		特になし。必要なものは授業内で配布します。					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	事前準備	40%	調べ学習での成果など
	提出物	30%	レポート、実習に必要な書類
	受講状況	30%	グループワーク、調べ学習など
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容	
	1	施設実習の意義と目的	事前	シラバスの確認及び、テキストの「福祉施設実習の目的」を通読する。
概要			保育実習 (施設) の目的と履修方法、社会福祉施設で実習を行なう意義について理解する。	担当 田岡
事後			講義内容の振り返り。	15分
2	施設の種類と概要①	事前	テキスト p20 ~ 21 にある演習 2 「保育者として活用するバイステックの 7 原則」を完成させ、授業で取り組む演習の準備をする。	30分
		概要	社会福祉施設の種類の種類について講義した後、その概要や取り組みについて調べ学習を行なう。(グループワーク)	担当 田岡
		事後	施設の概要について、テキストに記載されている内容を振り返る。	15分
3	施設の種類と概要②	事前	発表用資料の作成。	30分
		概要	社会福祉施設についてグループでまとめたものを発表し、その概要について理解を深める。(グループワーク)	担当 田岡
		事後	発表を受けて、施設の概要についてまとめておく。	15分
4	障害の理解と入所児童の心情理解	事前	テキストを確認し、利用者理解を深めておく。配布資料を通読しておく。	60分
		概要	障害児・者施設 (通所・入所) の概要と障がい特性について理解する。また、社会的養護の下で生活する子どもの心情を理解する。	担当 田岡
		事後	講義内容の振り返りをする。	15分
5	施設の 1 日の流れと実習内容の理解①	事前	事前に示された動画を視聴し、生活施設について理解しておく。	60分
		概要	生活施設の事例から、施設生活の流れと実習内容について理解する。	担当 田岡
		事後	講義内容の振り返りをする。	15分
6	施設の 1 日の流れと実習内容の理解②	事前	事前に配布された実習記録の写しを確認し、記録内容について理解しておく。	60分
		概要	生活施設の事例から、記録の仕方についてグループで話し合い発表する。	担当 田岡
		事後	講義内容の振り返りを行う。	15分

授 業 計 画 等	7	施設実習に向けての心得	事前	テキスト及び事前に配布した資料を通読する。	60分
			概要	施設実習に向けた心構えと、子ども・利用者を尊重した関り、守秘義務について理解する。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りを行なう。	15分
	8	実習先施設の発表	事前	実習施設の種別を振り返り、配属先の種別が理解できるようにする。	60分
			概要	長野県保育士養成協議会及び学校独自依頼の各施設の中で、実施の配属先を確認し、配属された施設について理解する。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
	9	実習準備①	事前	実習先への確認事項等を整理しておく。	60分
			概要	オリエンテーションの内容、確認事項等について理解する。実習施設に連絡を行なう準備をする。(個人票の作成)	担当 田岡
			事後	オリエンテーションの内容、確認事項を振り返る。	15分
	10	実習準備② (実習記録・様式の確認)	事前	テキスト及び事前に配布された実習記録について確認しておく。	30分
			概要	実習記録の様式を確認し、各項目の記載方法について理解する。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
	11	実習課題の設定①	事前	保育・教育実習スタートブックの実習計画を確認し、自身の目標を考えておく。	60分
			概要	実習課題や目標等を設定し、その達成方法についての確認を行なう。	担当 田岡
			事後	実習課題の完成。	15分
	12	実習課題の設定②	事前	実習課題の見直しと点検。(教員の指示に従う)	30分
概要			実習課題や目標等の確認を行ったうえで、事前学習の内容等の点検を行なう。	担当 田岡	
事後			講義内容の振り返りを行なう。	15分	
13	事前指導のまとめ①	事前	保育・教育実習スタートブックの資料を確認しておく。	30分	
		概要	巡回依頼書の作成および、オリエンテーションの連絡方法の再確認をする。	担当 田岡	
		事後	オリエンテーションの連絡を施設にする。	15分	
14	実習直前指導	事前	実習に必要なものが揃っているか確認しておく。	30分	
		概要	実習直前の確認/日誌、出勤簿、検温表、検便、服装等。	担当 田岡	
		事後	実習に必要なものが揃っていない場合は、整える。	15分	
15	実習事後指導	事前	実習の振り返り資料の作成、実習内容のまとめを行う。	45分	
		概要	実習を振り返り、子ども・利用者への支援についてグループで検討する。	担当 田岡	
		事後	実習報告書の作成。	15分	
16	定期試験	レポート試験	担当 田岡		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
3		5)		保育実習指導(保育所・施設)を併せて2単位・60時間を履修し、単位が修得できる。	実習に向けて、他の教科で学んだ内容を振り返っておくこと。
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館3階 田岡研究室		該当せず			
その他(特記事項等)					
資料をteamsで配布するので、できるだけ自身のPCに配布資料をダウンロードして、授業で活用してください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
34	保育実習 I	山田 生田 永石 田中 古谷 山藤 米窪 高橋 黒田 田岡 齋藤	4	180	実習	1年後期	選択 (免必)
科目概要 (講義目的)		既修得課目での知識・技術を基礎に、保育所実習では乳幼児との日常を体験しながら保育所の役割や機能、そこでの保育士の業務の実際を知る。施設実習では施設の概要を把握し、施設の実際を理解する。さらに利用者への理解を深め、施設の意義などを学ぶ。					
到達目標		1) 保育所・児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。 2) 子ども(利用者)との関わり、子育て支援の実際を理解する。 3) 保育の計画・実践・記録及び自己評価を通して、保育士の業務内容や職業倫理を説明できる。					
学習方法		観察実習(参与観察・非参与観察) 部分実習 長時間保育・土曜保育					
課題のフィードバック		実習前後に別途時間を設け事前の必要な指導及び事後に個々へのフィードバックと全体での実習報告会を行う。					
教員からのメッセージ		実習は生きた学びです。 子ども達や利用者さんたちとの関わりを通して、保育士に求められる力量を高めてください。					
テキスト		なし					
参考書		保育・教育実習スタートブック(ふくろう出版 2024) これからの時代の保育者養成・実習ガイド(中央法規 2020)					
成績 評価 方法	評価項目	配分%	評価基準				
	実習評価	80%	実習評価表による				
	巡回指導教員評価	20%	巡回指導報告書による				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	合計	100%	—				
教育 内容 等	<p>〈保育所実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保育所の役割と機能を学ぶ 2) 子どもの理解について学ぶ 3) 保育内容・保育環境について学ぶ 4) 保育の計画について知り、観察し記録する 5) 自己評価を通して次の実習への自己課題に気づく <p>〈施設実習〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設の役割と機能学ぶ 2) 子ども・利用者の理解について学ぶ 3) 計画に基づいた活動や援助について学ぶ 4) 専門職としての保育士の役割と倫理を学ぶ 5) 記録に基づく省察と自己評価をする <p>※上記について、保育実習実施基準に基づき、保育所・幼保連携型認定こども園、及び指定された施設において10日間の実習を行う。</p>						

実施については、実習生受け入れ施設の実習指導計画に基づき実施する。

授
業
計
画
等

DPとの関連	学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること
3	5)	保育実習指導 I 事前授業が終了していること。	なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性	
各教員のオフィスアワーを確認すること。		該当せず	
その他（特記事項等）			
なし			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
35	基礎ゼミナール	山田・永石・古屋・田中山藤・米窪・高橋・黒田田岡・斎藤	2	60	演習	1年通年	必修
科目概要（講義目的）		保育・幼児教育の関連領域の基礎的学修に対して主体的に取り組む。					
到達目標		1) 保育・幼児教育関連領域の中から、興味・関心の深い学習課題を見出すことができる。 2) ゼミナールごとに取り組む課題へ主体的・能動的に学修する姿勢を身につけることができる。					
学習方法		ゼミナールでのディスカッション、体験、実験学習を行う。 ゼミナールにて研究課題について調べる。					
課題のフィードバック		事前学習、事後学習における課題は翌授業開始前にコメントを付し返却する。 最終課題のコメントは翌週に研究室にて返却する。					
教員からのメッセージ		各ゼミナールにおいて、ディスカッション、体験学習、実験学習をおこなひましょう。					
テキスト		各ゼミナールで選択する。					
参考書		各ゼミナールで選択する。					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	100%	ゼミ活動内容（50%）、研究計画（50%）
事前・事後学習課題	0%	—	
授業内小テスト	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
他（ ）	0%	—	
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	授 業 計 画 等	1	基礎ゼミナールオリエンテーション（ゼミの選択①）	事前	シラバスを読み、ゼミ選択について200字程度にまとめる。
概要				基礎ゼミナールの選択（1回）	担当 *ゼミ担当教員
事後				基礎ゼミナールについて、各ゼミの見直しと振り返り。	30分
2		基礎ゼミナールオリエンテーション（ゼミの選択②）	事前	ゼミ希望の確認とその内容をまとめる。	30分
			概要	基礎ゼミナールの選択（2回）	担当 *ゼミ担当教員
			事後	基礎ゼミナールについて、各ゼミの見直しと振り返り。	30分
3		基礎ゼミナールオリエンテーション（ゼミの選択③）	事前	決定したゼミナールのシラバスを読み、その特徴をまとめる。	30分
			概要	基礎ゼミナールの選択（3回）	担当 *ゼミ担当教員
			事後	基礎ゼミナールについて、各ゼミの見直しと振り返り。	30分
4		各ゼミナールオリエンテーション 課題・テーマの理解①	事前	各ゼミナールのテーマの確認。	30分
			概要	各ゼミナールのオリエンテーション。	担当 *ゼミ担当教員
			事後	各ゼミのまとめ、感想をまとめる。	30分
5		課題・テーマの理解②	事前	各ゼミのテーマについて私見をまとめる。	30分
			概要	各ゼミのテーマを深める。	担当 *ゼミ担当教員
			事後	各ゼミのまとめ、感想をまとめる。	30分
6		研究課題①	事前	研究課題に取り組む①準備	30分
			概要	研究課題の取り組み①	担当 *ゼミ担当教員
			事後	研究課題に取り組む①の振り返り	30分

授 業 計 画 等	7	研究課題②	事前	研究課題に取り組む②準備		30分
			概要	研究課題の取り組み②	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	研究課題の取り組み②の振り返り		30分
	8	研究課題③	事前	研究課題に取り組む③準備		30分
			概要	研究課題に取り組む③	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	研究課題の取り組みの③の振り返り		30分
	9	情報収集①	事前	情報収集①の準備		30分
			概要	情報収集①（図書館、インターネット、情報センター）	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	情報収集①の振り返り		30分
	10	情報収集②	事前	情報収集②の準備		30分
			概要	情報収集②（図書館、インターネット、情報センター）	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	情報収集②の振り返り		30分
	11	教材研究・創作活動①	事前	教材研究・創作活動①の準備		30分
			概要	教材研究・創作活動①	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動①の振り返り		30分
	12	教材研究・創作活動②	事前	教材研究・創作活動②の準備		30分
概要			教材研究・創作活動②	担当	*ゼミ担当 教員	
事後			教材研究・創作活動②の振り返り		30分	
13	教材活動・創作活動③	事前	教材活動・創作活動③の準備		30分	
		概要	教材活動・創作活動③	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	教材活動・創作活動③の振り返り		30分	
14	教材活動・創作活動④	事前	教材活動・創作活動④の準備		30分	
		概要	教材活動・創作活動④	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	教材活動・創作活動④の振り返り		30分	
15	前期・まとめ	事前	前期活動のまとめの準備		30分	
		概要	前期活動の総括と課題	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	前期の振り返りと課題の整理		30分	
16	定期試験（前期）	事前	（ゼミ内）前期ゼミナール発表会準備		30分	
		概要	（ゼミ内）前期ゼミナール発表会	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	（ゼミ内）前期ゼミナール発表会の振り返り		30分	

授 業 計 画 等	17	オリエンテーション（後期）	事前	後期のゼミの準備研究課題の準備		30分
			概要	後期ゼミ、研究計画を検討する	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	研究の見直し、計画作成		30分
	18	教材研究・創作活動①	事前	教材研究・創作活動①の準備		30分
			概要	教材研究・創作活動①	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動①の見直し		30分
	19	教材研究・創作活動②	事前	教材研究・創作活動②の準備		30分
			概要	教材研究・創作活動②	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動②の見直し		30分
	20	教材研究・創作活動③	事前	教材研究・創作活動③の準備		30分
			概要	教材研究・創作活動③	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動③の見直し		30分
	21	教材研究・創作活動④	事前	教材研究・創作活動④の準備		30分
			概要	教材研究・創作活動④	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動④の見直し		30分
	22	教材研究・創作活動⑤	事前	教材研究・創作活動⑤の準備		30分
			概要	教材研究・創作活動⑤	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動⑤の見直し		30分
	23	教材研究・創作活動⑥	事前	教材研究・創作活動⑥の準備		30分
			概要	教材研究・創作活動⑥	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動⑥の見直し		30分
	24	先行研究・情報収集①	事前	先行研究・情報収集①の準備		30分
			概要	先行研究・情報収集①	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	先行研究・情報収集①の見直し		30分
25	先行研究・情報収集②	事前	先行研究・情報収集②の準備		30分	
		概要	先行研究・情報収集②	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	先行研究・情報収集②の見直し		30分	
26	先行研究・情報収集③	事前	先行研究・情報収集③の準備		30分	
		概要	先行研究・情報収集③	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	先行研究・情報収集③の見直し		30分	

授 業 計 画 等	27	先行研究・情報収集④	事前	先行研究・情報収集④の準備		30分	
			概要	先行研究・情報収集④	担当	*ゼミ担当 教員	
			事後	先行研究・情報収集④の見直し		30分	
	28	先行研究：ゼミ内個人発表①	事前	先行研究：個人発表①の準備		30分	
			概要	先行研究：個人発表①	担当	*ゼミ担当 教員	
			事後	先行研究：個人発表①の見直し		30分	
	29	先行研究：ゼミ内個人発表②	事前	先行研究：個人発表②の準備		30分	
			概要	先行研究：個人発表②	担当	*ゼミ担当 教員	
			事後	先行研究：個人発表②		30分	
	30	基礎ゼミナールのまとめ	事前	基礎ゼミナールのまとめ準備		30分	
			概要	基礎ゼミナールのまとめ	担当	*ゼミ担当 教員	
			事後	基礎ゼミナールの整理		60分	
31	定期試験	卒業研究課題レポート		担当	*ゼミ担当 教員		
D Pとの関連		学習成果との関連		履修条件		受講前に学習すること	
1～5		1)～10)		なし		各ゼミごとの指示	
オフィスアワー				実務経験と授業科目との関連性			
日時：各ゼミ担当 場所：各ゼミ担当				各ゼミ担当			
その他（特記事項）等							
1) 各ゼミ担当シラバスがあるので、必読すること。							
2) *基礎ゼミナール担当教員：山田・永石・田中・古屋・山藤・米窪・高橋・黒田・田岡・斎藤							

2. 幼 児 保 育 学 科

<2年生開講科目>

令和7年度 幼児保育学科2年生

授業科目の区分		No.	科目名	担当教員	開設時期	
					前期	後期
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	1	生命倫理	永石		○
		2	健康と運動Ⅰ	古屋		○
		3	健康と運動Ⅱ	古屋	○	
		4	こころの科学	田中		○
	ひとの生活を考える	5	地域交流実践	米窪	○	
専門教育科目	6	子ども家庭支援論	永石	○		
	7	子ども家庭支援の心理学	田中	○		
	8	子どもの保健	永石	○		
	9	子どもの食と栄養	水野		○	
	10	保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	山藤	○		
	11	子どもと造形表現	米窪	○		
	12	乳児保育Ⅱ	高橋	○		
	13	子どもの健康と安全	永石	○		
	14	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	永石		○	
	15	子育て支援	田岡		○	
	16	いのちと環境	米窪	○		
	17	保育・教育相談	田中		○	
	18	子どもの音楽Ⅱ	齋藤(博)	○		
	19	子どもと絵本	生田	○		
	20	生涯スポーツⅡ	古屋		○	
	21	子どもと造形表現論	米窪		○	
	22	幼児保育特講	米窪	○		
	23	教育実習指導	高橋、齋藤(博)	○		
	24	教育実習	山田、生田、永石、田中、古屋、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○	
	25	保育実習指導Ⅱ	生田、高橋	○	○	
	26	保育実習Ⅱ	山田、生田、永石、田中、古屋、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○	
	27	保育実習指導Ⅲ	田岡	○	○	
	28	保育実習Ⅲ	山田、生田、永石、田中、古屋、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○	
	29	保育・教職実践演習(幼稚園)	田中、山藤、米窪、高橋、黒田、齋藤(博)		○	
研究演習	30	応用ゼミナール	山田、生田、永石、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、田岡、齋藤(博)	○	○	

※下線は主担当

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
1	生命倫理	永石 喜代子	2	30	講義	2年後期	選択
科目概要（講義目的）		命に関する事例や絵本を通しての講義や、グループワークを通して、命についての感性を高め、命を慈しむ保育の実践につなぐことが理解できる。					
到達目標		1) 自分自身のいのちを見つめ、身近にあるいのちのあり方から、いのちについて感じるができる。 2) 感じたいのちを、子どもたちにどのように伝えることができるかを考えて実践できる。					
学習方法		講義を中心として、視覚教材やグループワーク等で理解を深める。後半は演習と取り入れ、理解を深める。課題について調べて発表する。					
課題のフィードバック		事前学習、事後学習における課題は翌授業開始前にコメントを付し返却する。最終課題、定期試験のコメントは翌週に研究室にて返却する。					
教員からのメッセージ		生命倫理は、「いのちの大切さ」「いかに生きるか」を、みんなで話し合ひましょう。意見はみんな一緒でなくてもいい、みんなちがっていい。ディスカッションを愉しみましょう!!					
テキスト		必要時資料配布、動画を活用する。					
参考書		中島博和(構成) 吉田光雄(原案・解説) 磯野宏夫(絵)「おおきくなりたーいのちの成長」農産漁村文化協会(2023)					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	70%	課題レポート試験、内容80%、考察20%
事前・事後学習課題	15%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容(1点×15回)	
課題ミニレポート	15%	課題レポートの記載内容(5点×3回)	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容	
	授 業 計 画 等	1	いのちとは	事前
概要				「いのちとは何か」について問う。(動画) 担当 永石
事後				「いのち」の動画や講義および、ディスカッションで考えたことをまとめる。 120分
2		いのちへの感覚：昔と今	事前	戦時中の「いのち」と、近年のいのちの重さを比較してみて、考えたことを授業で発表できるようにまとめる。 120分
			概要	昔と今のいのちの捉え方を歴史的に学ぶ。(動画) 担当 永石
			事後	ディスカッションや動画の感想をまとめる。 120分
3		しょうがいについて	事前	もし、自分が「しょうがい」をもって生きることになったら、どうしますか？400字程度にまとめる。 120分
			概要	「しょうがい」をもって生きることについて話し合う。(動画) 担当 永石
			事後	ディスカッションや動画の感想をまとめる。 120分
4		子どもたちと病気	事前	子どものホスピスを調べて、400字程度にまとめる。 120分
			概要	ホスピスから「こどもらしく生きる」を考える。(動画) 担当 永石
			事後	保護者の気持ち、動画についての感想をまとめる。 120分
5		難病とともに生きること	事前	子どもの難病を調べて、その難病と共に生きるとは、400字程度にまとめる。 120分
			概要	難病とともに生きることを考える。(動画) 担当 永石
			事後	動画、ディスカッションの感想をまとめる。 120分
6		成長する「いのち」	事前	「いのち」って「成長する？」を考える。200字程度にまとめる。 120分
			概要	成長する「いのち」を考える。(動画)「おおきくなりたーいのちの成長」から考える。 担当 永石
			事後	動画、ディスカッションの感想をまとめる。 120分

授 業 計 画 等	7	尊厳死と安楽死	事前	「安楽死」について、気になる事例を調べて、400字程度にまとめる。	120分
			概要	尊厳死と安楽死を考える。(動画)	担当 永石
			事後	「安楽死」についての感想をまとめる。	120分
	8	いのちを「看取る」こと	事前	「看取り」について調べる。400字程度にまとめる。	120分
			概要	いのちを「看取る」とは何かを考える。(動画)	担当 永石
			事後	看取りについての感想をまとめる。	120分
	9	グリーフケア	事前	グリーフケアとは何か?を調べて400字程度にまとめる。	120分
			概要	グリーフケアについて考える。(動画)	担当 永石
			事後	「グリーフケア」についての感想をまとめる。	120分
	10	人生の最期には「もしバナゲーム」	事前	「あなたは、人生の最期はどのようなことをしたいですか?」を記述する。	120分
			概要	「もしバナゲーム」を実施して死生観について考える。	担当 永石
			事後	「もしバナゲーム」の感想をまとめる。	120分
	11	絵本から見る「いのち」①	事前	「いのち」の絵本を探し、次回の授業での絵本の読み聞かせの準備をする。	120分
			概要	絵本を読み聞かせ、そこからみる「いのち」について考える。①	担当 永石
			事後	1回目の絵本の読み聞かせ、ディスカッションをまとめる。	120分
	12	絵本からみる「いのち」②	事前	「いのち」に関する絵本、2回目の絵本をさがす。	120分
概要			絵本を読み聞かせ、そこからみる「いのち」について考える。②	担当 永石	
事後			2回目の絵本読み聞かせから、感じたことをまとめる。	120分	
13	紙芝居からみる「いのち」①	事前	「かみしばい」の「いのち」を読み、演じる事、発表の練習をする。	120分	
		概要	紙芝居からみる「いのち」を考える。	担当 永石	
		事後	1回目の紙芝居を演じることから、いのちについて、まとめる。	120分	
14	紙芝居からみる「いのち」②	事前	2回目の紙芝居をさがし、演じる事、発表の練習をする。	120分	
		概要	2回目の紙芝居から、感じたことを発表する。	担当 永石	
		事後	2回目の紙芝居からみた、いのちについて、まとめる。	150分	
15	「いかに生きるか」	事前	今まで生きた「人生曲線」を書いてくる。	120分	
		概要	「いかに生きるか」のディスカッションで、「生きる」を考える。	担当 永石	
		事後	「自分はいかに生きるか」について、400字程度でまとめる。	150分	
16	定期試験	課題レポート試験	担当 永石		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日5時限 場所：1号館2階 永石研究室		看護師の勤務経験を活かし、命に関する事例を通しての講義やグループ展開に感性を育む。			
その他(特記事項等)					
・事前・事後学習、ミニ課題レポートは一冊のファイルにまとめて、いつでも提出できるようにしておくこと。 ・事前・事後学習。レポートは、A4用紙、横書き、手書き可、日時、タイトルをつけること。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
2	健康と運動 I	古屋 顯一	1	15	講義	2年後期	必修
科目概要（講義目的）		(1)健康な生活習慣の確立に向けて必要な知識を習得でき、実践する方法を理解できる。(2)身体活動の意義やオリンピック・パラリンピックの歴史などへの理解が深まり、広くスポーツについて関心が高まる。(3)災害の多い現代、何かあった時に慌てずに行動できる知識を獲得できる。					
到達目標		毎日の生活習慣（食事・休養・運動）の積み重ねがその人の現在と将来の健康状態につながっており、生涯にわたる健康づくりにとって、きわめて重要な時期である学生時代に、その重要性を理解し、実践へとつなげることができる。					
学習方法		講義はクイズ形式で行い、健康・オリンピック・災害についての理解を深める。					
課題のフィードバック		なし					
教員からのメッセージ		主体的・継続的な学習をしていきましょう。					
テキスト		資料は適宜配布する。					
参考書		なし					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	70%	筆記試験				
	事前・事後学習課題	30%	課題の達成度				
	課題ミニレポート	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	合計	100%	—				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション	事前	「オリンピック」と「健康」について調べる。			120分
			概要	講義内容・進め方の説明。		担当	古屋
			事後	自分の生活習慣を振り返る。			120分
	2	オリンピックよもやま話	事前	オリンピックの歴史について調べる。			120分
			概要	オリンピックの歴史についての話。		担当	古屋
			事後	本日の授業の復習。			120分
	3	日本のオリンピックの話	事前	日本のオリンピックの歴史について調べる。			120分
			概要	日本のオリンピックの歴史とパリオリンピックの日本人の活躍。		担当	古屋
			事後	本日の授業の復習。			120分
	4	ダイエットの話	事前	自分の1日のカロリー摂取量と運動量を調べる。			120分
			概要	どうしたら健康的に痩せられるか。		担当	古屋
			事後	今後のダイエット計画を立案する。			120分
	5	筋トレの話 I	事前	自分なりの筋トレ方法を考える。			120分
			概要	筋肉をつけるには、どうしたら良いか。		担当	古屋
			事後	本日の授業の復習と軽い筋トレの実施。			120分
	6	筋トレの話 II	事前	軽い筋トレの実施。			60分
			概要	BMI値の意味と求め方。		担当	古屋
			事後	今後の筋トレ計画を立案する。			120分

授 業 計 画 等	7	心と身体の健康の話	事前	自分の生活習慣をまとめる。		120分
			概要	生活習慣病について。	担当	古屋
			事後	今後どのような生活をするかをまとめる。		120分
8	防災の話	事前	自宅の防災グッズについて調べる。		60分	
		概要	災害が起きたら、どのように対処したらよいか。	担当	古屋	
		事後	本日の授業の復習と自宅の防災対策の見直し。		120分	
9	定期試験	筆記試験		担当	古屋	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし		なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日 5時限 場所：古屋研究室（体育館脇）		大学での教員経験を踏まえ、健康な生活習慣に必要な知識・実践方法について講義を行う。				
その他（特記事項等）						
なし						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
3	健康と運動Ⅱ	古屋 顯一	1	30	実技	2年前期	必修
科目概要（講義目的）		レクリエーションの意義を理解し、その楽しさを幅広い対象者に提供する実践力を育成する。					
到達目標		レクリエーションの意義を理解して、条件や状況にあったレクリエーションゲームを選択したり創造したりし、その楽しさを幅広い対象者に提供できる実践力を身につける。					
学習方法		グループ単位での活動を中心に学ぶ。					
課題のフィードバック		グループで考案したゲームを検討し、授業中に直接教員とのやり取りを行う。					
教員からのメッセージ		スケジュール調整と体調管理をしておく。					
テキスト		なし					
参考書		なし					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		50%	レポート			
	事前・事後学習課題		0%	-			
	授業内小テスト		0%	-			
	実技演習		30%	導入・展開・まとめの技能			
	グループワーク演習		20%	ゲームのねらいや内容の理解度			
	他（ ）		0%	-			
合計		100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション	事前	シラバスを読んでくる。			30分
			概要	授業の目的、行い方を知り、レクリエーションゲームの意義を理解する。		担当	古屋
			事後	ネイチャーゲームとインシアティブゲームとは何かを調べる。			30分
	2	レクリエーションゲームの体験Ⅰ	事前	インシアティブゲームとは何かを考える。			30分
			概要	インシアティブゲームの体験をする。		担当	古屋
			事後	体験したゲームの振り返り。			30分
	3	レクリエーションゲームの体験Ⅱ	事前	インシアティブゲームにはどんなものがあるかを調べる。			30分
			概要	インシアティブゲームの体験をする。		担当	古屋
			事後	体験したゲームの振り返り。			30分
	4	レクリエーションゲームの体験Ⅲ	事前	ネイチャーゲームとは何かを調べる。			30分
			概要	ネオチャーゲームの体験をする。		担当	古屋
			事後	体験したゲームの振り返り。			30分
	5	レクリエーションゲームの創造Ⅰ	事前	各自ゲームのアイデアを考えてくる。			30分
			概要	ゲームのアイデアを出し合い、ゲームの方向性を定める。		担当	古屋
			事後	各自グループのゲームの選定をする。			30分
	6	レクリエーションゲームの創造Ⅱ	事前	各自ゲームの詳細を決める。			30分
			概要	ゲームの内容の詳細を確かめる。		担当	古屋
			事後	決定したゲームの詳細について検討する。			30分

授 業 計 画 等	7	レクリエーションゲームの創造Ⅲ	事前	ゲームに必要な用具の検討を行う。		30分	
			概要	ゲームに必要な用具を準備する。	担当	古屋	
			事後	ゲームに必要な用具の再確認をする。		30分	
	8	レクリエーションゲームの創造Ⅳ	事前	ゲームに不備がないかの再確認をする。		30分	
			概要	ゲームに必要な用具を整え、最終確認する。	担当	古屋	
			事後	ゲームに不備がないかの再々確認をする。		30分	
	9	レクリエーションゲームの実践Ⅰ	事前	発表ゲームの準備。		30分	
			概要	ゲーム発表。	担当	古屋	
			事後	発表ゲームの振り返り。		30分	
	10	レクリエーションゲームの実践Ⅱ	事前	発表ゲームの準備。		30分	
			概要	ゲーム発表。	担当	古屋	
			事後	発表ゲームの振り返り。		30分	
	11	レクリエーションゲーム実践Ⅲ	事前	発表ゲームの準備。		30分	
			概要	ゲーム発表。	担当	古屋	
			事後	発表ゲームの振り返り。		30分	
	12	レクリエーションゲーム実践Ⅳ	事前	発表ゲームの準備。		30分	
概要			ゲーム発表。	担当	古屋		
事後			発表ゲームの振り返り。		30分		
13	レクリエーションゲーム実践Ⅴ	事前	発表ゲームの準備。		30分		
		概要	ゲーム発表。	担当	古屋		
		事後	発表ゲームの振り返り。		30分		
14	レクリエーションゲームの振り返り	事前	発表ゲーム検討会の準備をする。		30分		
		概要	記録をもとに実践したゲームを振り返り評価する。	担当	古屋		
		事後	振り返り発表内容の再確認をする。		30分		
15	レクリエーションゲームのまとめ	事前	ゲーム集の準備をする。		30分		
		概要	ゲーム集を作成する。	担当	古屋		
		事後	ゲーム集の再確認をする。		30分		
16	定期試験	レポート試験		担当	古屋		
D Pとの関連		学習成果との関連		履修条件		受講前に学習すること	
1		1) 2)		なし		なし	
オフィスアワー				実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週金曜日5時限 場所：古屋研究室（体育館脇）				大学での教員経験を踏まえ、条件や状況に応じてレクリエーションを選択・創造する実践力を実技により習得する。			
その他（特記事項等）							
なし							

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
4	こころの科学	田中 秀明	2	30	講義	2年後期	選択
科目概要（講義目的）		子どもの心の理解と支援に関わる心理学の基本的知識を学ぶ。					
到達目標		1) 子ども理解に役立つ心理学の知見や、ひとの心の仕組み・機能に関する基本的知識を理解し、説明できる。 2) 子どもを対象とした心理臨床の基礎知識を理解し、説明できる。					
学習方法		1. プリント教材・DVD教材に基づく講義 2. 授業中の課題についてミニレポートの提出					
課題のフィードバック		事後学習における疑問点等は、授業内において解説する。事前学習における課題は翌授業回にコメントを付し返却する。最終課題は定期試験日に返却する。					
教員からのメッセージ		子どもの様々な姿に気づき、保育者としての専門性を向上させましょう。					
テキスト		なし					
参考書		野呂文行・高橋雅江監修「保育者ができる気になる行動を示す幼児への支援」(学苑社) 2021年					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	55%	記述式問題
	事前・事後学習課題	30%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容(2点×15回)
	授業内小テスト	15%	各授業内容の復習テスト(選択問題)(1点×15回)
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容	
	1	オリエンテーション心理学とは	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。
		概要	授業の内容やルールを理解する。心理学の学問体系の概要を理解する。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
2	行動科学(1)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	行動とは何か。心理学における行動の科学的基盤を学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
3	行動科学(2)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	2種類の行動(レスポナント行動とオペラント行動)を学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
4	応用行動分析学(1)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	応用行動分析学とはどのような学問かを学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
5	応用行動分析学(2)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	ABC分析、強化と弱化、好子と嫌子とは何かを学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
6	応用行動分析学(3)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	行動問題および機能分析について学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分

授 業 計 画 等	7	子どもへの関わり方(1)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶー消去についてー	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	8	子どもへの関わり方(2)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶープロンプトについてー	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	9	子どもへの関わり方(3)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶーシェイピングと課題分析についてー	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	10	子どもへの関わり方(4)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶートークンについてー	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	11	子どもへの関わり方(5)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	事例に基づくABC分析とその支援のポイントについて学ぶー代替行動と競合行動についてー	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	12	TEACCHプログラムについて	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
概要			TEACCHプログラムとは何かを学ぶ。	担当 田中	
事後			配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
13	コミュニケーション支援について(1)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	神経発達症と指さし、三項関係、共同注意、心の理論について学ぶ。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
14	コミュニケーション支援について(2)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	社会性の観点から捉えたコミュニケーション支援について学ぶ。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
15	コミュニケーション支援について(3)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	AACとPECSを学ぶ。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田中		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日5時限 場所：2号館3階 田中研究室		該当せず			
その他(特記事項等)					
事後学習のミニレポートは、得た知識の内容や疑問点を列記するだけでなく、保育実践と関係づけてまとめるとなると良い。 (A4用紙、横書き、手書きでも可)					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
5	地域交流実践	米窪 洋介	1	30	演習	2年前期	選択
科目概要（講義目的）		地域社会における現状を理解するとともに、地域のニーズや問題点を把握し、保育を通じた地域貢献としての活動を企画し実践する力を身につける。					
到達目標		1. 地域社会が抱える現状を説明することができる。 2. 地域を活性化させるための活動を企画し実行することができる。					
学習方法		主題に応じた講義と演習を行います。					
課題のフィードバック		課題に応じてコメントを返します。					
教員からのメッセージ		地域における自身の役割を考え、子どもとの交流を通して、地域との関わりについて学びを深める授業です。					
テキスト		なし					
参考書		適宜紹介					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	学びの理解度と達成度
	事前・事後学習課題	30%	課題の達成度
	授業の課題	20%	課題の達成度
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容			
	1	オリエンテーション 地域社会の現状	事前	地域社会と自身との関わりをまとめる。		30分
			概要	授業の進め方と到達目標を確認する。 社会の現状について理解を深め、保育者としての役割を考える。	担当	米窪
			事後	授業を踏まえて、地域社会における自身の役割をまとめる。		30分
	2	地域調査①	事前	居住している地域について調査する。		30分
			概要	地域について理解を深め、地域との繋がりを探る。	担当	米窪
			事後	地域の特色をまとめる。		30分
	3	地域調査②	事前	地域の特色をまとめる。		30分
			概要	地域についてまとめたことを発表すると共に、様々な地域の特性を理解する。	担当	米窪
			事後	様々な地域の特性をまとめる。		30分
	4	企画と実践①	事前	現代社会の問題点や課題について調査する。		30分
			概要	地域との接点を確認し、交流会の企画と内容を検討する。	担当	米窪
			事後	交流会の企画についてまとめる。		30分
	5	企画と実践②	事前	グループの企画を考える。		30分
			概要	グループごとの企画案を作成する。	担当	米窪
			事後	役割ごとに担当する内容をまとめる。		30分
	6	企画と実践③	事前	役割ごとに担当する内容をまとめる。		30分
			概要	交流会の台本を作成する。	担当	米窪
事後			台本の修正や改善したことをまとめる。		30分	

授 業 計 画 等	7	企画と実践④	事前	小道具・大道具のデザインを考える。	30分
			概要	交流会で用いる小道具や大道具の作成方法を学ぶ。	担当 米窪
			事後	小道具・大道具の修正・改善を行う。	30分
	8	企画と実践⑤	事前	衣装のデザインを考える。	30分
			概要	交流会で用いる衣装の作成方法を学ぶ。	担当 米窪
			事後	衣装の修正・改善を行う。	30分
	9	企画と実践⑥	事前	役割に応じた練習を行う。	30分
			概要	交流会の役割を決め、進行方法を学ぶ。	担当 米窪
			事後	役割に応じた練習を行う。	30分
	10	企画と実践⑦	事前	役割に応じた練習を行う。	30分
			概要	言語を用いた表現方法について学ぶ。	担当 米窪
			事後	役割に応じた練習を行う。	30分
	11	企画と実践⑧	事前	役割に応じた練習を行う。	30分
			概要	交流会会場の装飾方法について学ぶ。	担当 米窪
			事後	装飾の準備を行う。	30分
	12	企画と実践⑨	事前	装飾の準備を行う。	30分
概要			ロールプレイを行いながら、企画の改善を行う。	担当 米窪	
事後			役割に応じた練習を行う。	30分	
13	企画と実践⑩	事前	役割に応じた練習を行う。	30分	
		概要	ロールプレイを行いながら、企画の改善を行う。	担当 米窪	
		事後	役割に応じた練習を行う。	30分	
14	交流会①	事前	役割に応じた練習を行う。	30分	
		概要	企画・準備した内容を実践する。	担当 米窪	
		事後	片付けと個人の振り返りを行う。	30分	
15	交流会②	事前	個人の振り返りをまとめる。	30分	
		概要	実践を通じた全体の振り返りを行う。	担当 米窪	
		事後	今後の課題をまとめる。	30分	
16	定期試験	レポート	担当 米窪		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
1・5		1) 2) 8) 9) 10)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 米窪研究室		該当せず			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
6	子ども家庭支援論	永石 喜代子	2	30	講義	2年前期	選択 (保必)
科目概要(講義目的)		子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、「保育」の専門性を活かした子育て家庭に対する支援体制、現状、課題について学ぶ。					
到達目標		1) 子ども家庭支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義とそれに関わる基本事項を理解できる。 2) 子育て家庭への支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状・課題を理解できる。					
学習方法		講義を中心として、視覚教材やグループワーク等で理解を深める。 授業内での小テストは、知識の習得、理解の確認として行う。					
課題のフィードバック		事前学習、事後学習における課題は翌授業開始前にコメントを付し返却する。 最終課題、定期試験のコメントは翌週に研究室にて返却する。					
教員からのメッセージ		子育て家庭に対する支援について一緒に学びましょう。					
テキスト		新・基本保育シリーズ5「子ども家庭支援論」公益財団法人児童育成協会監修(中央法規)2023年					
参考書		必要時、参考資料として配布する。					
成績 評価 方法	評価項目		配分%		評価基準		
	定期試験		70%		基本事項80%・応用事項20%で構成した記述問題(一部、選択問題)		
	事前・事後学習課題		15%		自己学習で得た知識、疑問点の記載内容(1点×15回)		
	授業内小テスト		15%		各授業内容の復習テスト(選択問題)(1点×15回)		
	他()		0%		—		
	他()		0%		—		
	他()		0%		—		
合計		100%		—			
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と必要性	事前	テキストP2を読んで「子どもの家庭支援」の意義を400字程度にまとめる。		60分	
			概要	子ども家庭支援の意義と必要性について学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業中に実施した小テスト(子どもの家庭支援の意義と必要性)を見直す。		120分	
	2	子どもの家庭支援の目的と機能	事前	テキストP21の全国保育士会倫理綱領を読み感想を400字程度にまとめる。		120分	
			概要	子ども家庭支援の目的と機能、子どもの家庭支援の原則を学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業中に実施した小テスト(子どもの家庭支援の原則)を見直す。		120分	
	3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	事前	テキストP26の「子育て支援・次世代育成支援の背景」をまとめる。		120分	
			概要	少子化対策から次世代育成支援の新制度の要点を学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業中に実施した小テスト(少子化対策、次世代育成)を見直す。		120分	
	4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	事前	テキストP44, 45を読んで、事例についてまとめる。(400字程度)		120分	
			概要	社会資源の担い手、社会資源活動の現状と課題・展望を学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業中に実施した小テスト(社会資源活動)を見直す。		120分	
	5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	事前	テキストP53を読んで、保育者の専門性をまとめる。(400字程度)		120分	
			概要	保育の専門性と相談援助、専門性を活かした子育て支援のあり方。	担当	永石	
			事後	授業中に実施した小テスト(保育の専門性を活かす)を見直す。		120分	
	6	子どもの育ちの喜びの共有	事前	テキストP62～72を読み「子どもの育ちの喜びの共有」の必要性をまとめる。		120分	
			概要	子どもの育ちの喜びの共有、可視化の意味、その効果を学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業中に実施した小テスト(子どもの育ちの喜びの共有)を見直す。		120分	

授 業 計 画 等	7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	事前	テキスト P74～84 を読み、地域の子育て家庭をとりまく環境をまとめる。	120分
			概要	保育士に求められている支援、近年の子ども家庭支援の動向について学ぶ。	担当 永石
			事後	授業中に実施した小テスト（子育てを自ら実践する力）を見直す。	120分
	8	保育士に求められる基本的態度	事前	テキスト P86～96 を読み、バイステイクの7原則をまとめる。	120分
			概要	保護者との信頼関係、保育士に求められる基本的態度を学ぶ。	担当 永石
			事後	授業中に実施した小テスト（保育士に求められる基本的態度）を見直す。	120分
	9	家庭の状況に応じた支援	事前	テキスト P98～108 を読み、家庭の状況についてまとめる。（400字程度）	120分
			概要	家庭の状況に応じた支援について学ぶ。	担当 永石
			事後	授業中に実施した小テスト（家庭の状況）を見直す。	120分
	10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	事前	テキスト P110～120 を読み地域資源の活用について400字程度にまとめる。	120分
			概要	地域の多様な資源の活用と自治体・関係機関の連携・協力を学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内の小テスト（社会資源、関係機関との連携）を見直す。	120分
	11	子ども家庭支援の内容と対象	事前	テキスト P122～144 を読み、子どもの家庭支援の対象をまとめる。	120分
			概要	子ども家庭支援の具体的な対象、内容とアプローチの方法を学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内で実施の小テスト（内容と対象）の確認と修正を行う。	120分
	12	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	事前	テキスト P134～144 を読み、「保育所が行う子ども家庭支援」をまとめる。	120分
概要			保育所等を利用する子育て家庭への支援について学ぶ。	担当 永石	
事後			授業内で実施の小テスト（内容と対象）の確認と修正を行う。	120分	
13	地域の子育て家庭への支援	事前	テキスト P146～156 を読み、地域の子育て家庭への支援についてまとめる。	120分	
		概要	地域の子育て支援の家庭への支援について学ぶ。	担当 永石	
		事後	授業内で実施の小テスト（地域の子育て家庭）の確認と修正を行う。	120分	
14	要保護児童およびその家庭に対する支援	事前	テキスト P158～168 を読み、児童虐待が起こる原因についてまとめる。	120分	
		概要	要保護児童およびその家庭に対する支援について学ぶ。	担当 永石	
		事後	授業内で実施の小テスト（要保護児童）の確認と修正を行う。	120分	
15	子育て支援に関する課題と展望	事前	テキスト P170～180 を読み、「子ども食堂」について調べてまとめる。	150分	
		概要	子ども家庭支援の現状と課題について学ぶ。	担当 永石	
		事後	授業中に実施した小テスト（今後の子育て支援）の見直しを行う。	150分	
16	定期試験	筆記試験	担当 永石		
D P との関連		学習成果との関連		履修条件	受講前に学習すること
5		8) 9) 10)		なし	なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日 5 時限 場所：1 号館 2 階 永石研究室		看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、子ども家庭支援論の実践的な授業を展開する。			
その他（特記事項等）					
・事前・事後学習、小テストは、一冊のファイルにまとめて、いつでも提出できるようにしておいておく。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
7	子ども家庭支援の心理学	田中 秀明	2	30	講義	2年前期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		生涯発達に関する心理学の基礎的知識を修得し、家庭・家族の意義や家族関係を発達的な観点から理解する。さらに子育て家庭の現状と子どもの精神保健についても理解する。					
到達目標		1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を身につける。 2. 家族・家庭の意義や機能について理解している。 3. 子育て家庭をめぐる現状と子どもの精神保健について理解している。					
学習方法		1. プリント教材・DVD教材に基づく講義 2. 授業中の課題についてミニレポートの提出					
課題のフィードバック		事後学習における疑問点等は、授業内において解説する。事前学習における課題は翌授業回にコメントを付し返却する。最終課題は定期試験日に返却する。					
教員からのメッセージ		家族・家庭をめぐる様々な問題に目を向け、共に考えてみたいと思います。					
テキスト		なし					
参考書		シリーズ知のゆりかご「子ども家庭支援の心理学」青木紀久代編(みらい)2019年					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	55%	記述式問題
	事前・事後学習課題	30%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容(2点×15回)
	授業内小テスト	15%	各授業内容の復習テスト(選択問題)(1点×15回)
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容	
	1	生涯発達という視点と考え方	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。
		概要	生涯発達とは何か。また初期経験の重要性、発達課題、ライフサイクルについて学ぶ。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
2	人間の発達過程(1)乳児期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
3	人間の発達過程(2)幼児期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
4	人間の発達過程(3)学童期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
5	人間の発達過程(4)青年期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
6	人間の発達過程(5)成人期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
		概要	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。	担当 田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分

授業計画等	7	人間の発達過程 (6) 老年期	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	乳児期から老年期にいたる人間の生涯発達がどのように実現されていくかを概説する。	担当 田中
			事後	布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	8	家族・家庭の意義と機能	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	子どもが育つ場として重要な意味をもつ家族・家庭の役割について考える。	担当 田中
			事後	布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	9	親子関係・家族関係の理解	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	親子・家族の関係について理解し、家族の発達を考える。	担当 田中
			事後	布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	10	子育て家庭に関する現状と課題	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	子育てをとりまく社会的状況と子育て家庭が抱えるさまざまな課題について概説する。	担当 田中
			事後	布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	11	ライフコースと仕事・子育て	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	男女共同参画社会の実現、ワークライフ・バランスについて考える。	担当 田中
			事後	布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	12	多様な家庭とその理解	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
概要			現代の多様な家族・家庭について理解し、個別的な援助を考える。	担当 田中	
事後			布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
13	特別な配慮を要する家庭	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	病気・障害・貧困など、特別な配慮を必要とする家庭について考える。	担当 田中	
		事後	布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
14	子どもの精神保健とその課題	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	子どもの生活・生育環境とその影響について理解する。	担当 田中	
		事後	布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
15	子どもの心の健康に関わる問題	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	子どもの心の健康をとらえる視点と具体的な症状について学ぶ。	担当 田中	
		事後	布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田中		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
5		8) 9) 10)	なし		1年前期に履修した「保育・教育の心理学」の配布資料により、子どもの発達について復習しておく。
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日 5 時限 場所：2号館3階 田中研究室		該当せず			
その他 (特記事項等)					
事後学習のミニレポートは、得た知識の内容や疑問点を列記するだけでなく、保育実践と関係づけてまとめるとなお良い。(A 4用紙、横書き、手書きでも可)					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
8	子どもの保健	永石 喜代子	2	30	講義	2年前期	選択 (保必)
科目概要(講義目的)		子ども心と身体の成長発達を理解し、子どもが健やかに育つための保健活動について知識を習得できる。					
到達目標		1) 子どもの心身の健康、保健活動の意義・目的を説明できる。 2) 子どもの身体的発育・発達と保健、健康状態の把握の仕方、予防方法を説明できる。 3) 他職種間連携のもとでの適切な対応の仕方を説明できる。					
学習方法		講義を中心として、視覚教材やグループワーク等で理解を深める。 授業内での小テストは、知識の習得、理解の確認として行う。					
課題のフィードバック		事前学習、事後学習における課題は翌授業開始前にコメントを付し返却する。 最終課題、定期試験のコメントは翌週に研究室にて返却する。					
教員からのメッセージ		子ども心と身体の成長発達を理解し、子どもが健やかに育つための保健活動について一緒に学びましょう。					
テキスト		新・基本保育シリーズ 11「子どもの保健」公益財団法人児童育成協会監修(中央法規)2023年					
参考書		子どもの病気、解剖図					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		70%	基本事項80%・応用事項20%で構成した記述問題(一部、選択問題)			
	事前・事後学習課題		15%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容(1点×15回)			
	授業内小テスト		15%	各授業内容の復習テスト(選択問題)(1点×15回)			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
合計		100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	ガイダンス (子どもの保健の意義)	事前	知っている「子どもに多い病気」を1つあげて、400字程度にまとめる。			120分
			概要	統計を学び、保育士としての子どもの保健を学ぶ。担当 永石			
			事後	授業内で実施した小テスト(子どもの保健の意義)の確認と修正を行う。			120分
	2	子どもの保健の統計	事前	テキストの統計をみて、乳幼児の死亡について感想を400字程度でまとめる。			120分
			概要	健康の指針保育士の保健を学ぶ理由と成長曲線について学ぶ。担当 永石			
			事後	授業内で実施した小テスト(子どもの保健の統計)の確認と修正を行う。			120分
	3	子どもの心身の発達	事前	子どもの心の発達について調べて、400字程度にまとめる。			120分
			概要	心身の発達の原則とその評価について学ぶ。担当 永石			
			事後	授業内で実施した小テスト(子どもの心身の発達)の確認と修正を行う。			120分
	4	子どもの生理機能の発達①	事前	乳幼児の呼吸数、体温について調べて400字程度にまとめる。			120分
			概要	生体の成り立ちを学ぶ。呼吸・体温・循環の発達について学ぶ。担当 永石			
			事後	授業内で実施した小テスト(子どものバイタル)の確認と修正を行う。			120分
	5	子どもの生理機能発達②	事前	幼児期の睡眠とお昼寝について調べて400字程度にまとめる。			120分
			概要	消化吸収、排せつ、睡眠の発達について学ぶ。担当 永石			
			事後	授業内で実施した小テスト(消化・排泄・睡眠)の確認と修正を行う。			120分
	6	子どもの脳神経系の発達	事前	テキストの脳の解剖図を参考に、脳の解剖図を書いてくる。			120分
			概要	脳神経系の発達、基本的知識を学ぶ。担当 永石			
			事後	授業内で実施した小テスト(脳神経系)の確認と修正を行う。			120分

授 業 計 画 等	7	子どもの運動機能の発達	事前	四肢（手足）の解剖図を書いてくる。（A 4用紙）	120分
			概要	運動機能の発達を学び、その発達を促すことのできる保育を学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内で実施した小テスト（運動機能）の確認と修正を行う。	120分
	8	子どもの感覚の発達	事前	眼と耳の解剖図を書いてくる。（A 4用紙）	120分
			概要	視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚の発達と評価を学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内で実施した小テスト（感覚の発達）の確認と修正を行う。	120分
	9	子どもの歯の発達	事前	子どもの歯と大人の歯の解剖図を書いてくる。（A4用紙）	120分
			概要	子どもの歯の発達とケアについて学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内で実施した小テスト（子どもの歯）の確認と修正を行う。	120分
	10	子どもの病気と予防手当①	事前	インフルエンザの集団感染の予防について、400字程度でまとめる。	120分
			概要	子ども病気の特徴について学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内で実施した小テスト（集団感染）の確認と修正を行う。	120分
	11	子どもの病気と予防手当②	事前	肺、心臓の解剖図を書いてくる。（A4用紙）	120分
			概要	先天異常、呼吸器、循環器の病気について学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内で実施した小テスト（先天異常、呼吸器、肺循環）の修正を行う。	120分
	12	子どもの病気と予防手当③	事前	消化器の解剖図を書いてくる。（A4用紙）	120分
概要			血液、消化器の病気、悪性腫瘍について学ぶ。	担当 永石	
事後			授業内で実施した小テスト（血液、消化器、悪性腫瘍）の確認と修正を行う。	120分	
13	子どもの病気と予防手当④	事前	泌尿器、腎臓の解剖図を書いてくる。（A 4用紙）	120分	
		概要	脳神経系、泌尿器、生殖器、皮膚の病気を学ぶ。	担当 永石	
		事後	授業内で実施した小テスト（泌尿器、腎臓、皮膚）の確認と修正を行う。	120分	
14	子どもの病気と予防手当⑤	事前	口腔、鼻の解剖図を書いてくる。（A4用紙）	120分	
		概要	整形外科、口腔、眼、耳、鼻の病気を学ぶ。	担当 永石	
		事後	授業内で実施した小テスト（口腔、眼、耳、鼻）の確認と修正を行う。	120分	
15	子どもの病気と予防手当⑤	事前	乳幼児の予防接種について調べて、400字程度でまとめる。	120分	
		概要	内分泌の病気を学ぶ。予防接種について学ぶ。	担当 永石	
		事後	授業内で実施した小テスト（内分泌、予防接種）の確認と修正を行う。	120分	
16	定期試験	筆記試験	担当 永石		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日5時限 場所：1号館2階 永石研究室		看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、子どもの安全に考慮した授業を展開する。			
その他（特記事項等）					
<ul style="list-style-type: none"> ・解剖図はコピーして貼り付けてもよいが、A 4用紙に貼り付け、授業中に図の中に書き込みができるようにする。 ・事前・事後学習、小テストは、一冊のファイルにまとめて、いつでも提出できるようにしておくこと。 					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
9	子どもの食と栄養	水野 尚子	2	30	演習	2年後期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		子どもの栄養と食生活は、生涯にわたり健康の基礎が形成されるため食生活の意義や栄養に関する基礎的知識を学ぶ。子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、心身ともに健やかに成長できるように食育の必要性和関連させ、専門性を養う。					
到達目標		1) 子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基礎的知識、発育・発達と食生活の関係、家庭や児童福祉施設での食事と栄養について説明できる。 2) 食育の基本と内容について、保育現場を想定して実践できる。 3) 特別な配慮を要する子どもの食と栄養を理解し、基本的内容を実践できる。					
学習方法		講義及び講義内容を踏まえた調理実習・演習を行う。					
課題のフィードバック		自己学習における質問点等は授業内において解説する。 演習問題のレポートについてはコメントを付し返却する。					
教員からのメッセージ		子どもの栄養と食生活について必要な知識について共に学ぶ。					
テキスト		子育て・子育てを支援する「子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子編著 (萌文書林) (2024年)					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	70%	筆記試験
	事前・事後学習課題	30%	記述内容
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	子どもの健康と食生活の意義	事前	テキスト第1章 p1～p6 を読み子どもの食と栄養について理解する。	120分
		概要	子どもの心身と健康と食生活の関連。食生活の現状と課題について学ぶ。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
2	子どもの発育・発達と食生活	事前	テキスト第2章 p17～p31 を読み子どもの発育・発達と食について認識する。	120分	
		概要	栄養素と働きに関する基礎知識、日本人の食事摂取基準、献立の立て方について理解する。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
3	栄養に関する基礎的知識	事前	テキスト第3章 p35～p61 を読み栄養に関する基本的ちしきについて認識する。	120分	
		概要	栄養素と働きに関する基礎知識、日本人の食事摂取基準、献立の立て方について理解する。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
4	妊婦期 (胎児期) の食生活	事前	テキスト第4章 p74～p90 を読み胎児期から妊娠・授乳期の食について認識する。	120分	
		概要	妊婦期の食生活や母乳栄養・人工栄養・混合栄養の特性について理解する。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
5	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	事前	テキスト第5章 p91～p128 を読み授乳・離乳の食について認識する。	120分	
		概要	母乳・人工栄養 (育児用ミルク) の特性を知り、離乳の意義について理解する。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
6	調乳と離乳食の基本	事前	テキスト第5章 p104～p128	120分	
		概要	離乳食・幼児食を作るために調理の基礎および必要な技術を習得する。だしをとる。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	

授 業 計 画 等	7	離乳期の調理	事前	離乳期(初期・中期・後期)についてプリントを読み準備する。	120分
			概要	離乳食の進め方。離乳食の基本であるおかゆの調理を通して各期の固さについて理解する。	担当 水野
			事後	実習から学んだことをレポートにまとめる。	120分
	8	幼児期の心身と発達と食生活	事前	第6章 p131～p156を読みプリントを用いて理解を深めるために準備する。	120分
			概要	幼児期の栄養の特性を知り、食機能の発達と成長について理解する。	担当 水野
			事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分
	9	幼児期の調理	事前	テキスト p142～p149を読みプリントを用いて理解を深めるために準備する。	120分
			概要	幼児期の発育に適した幼児食について理解する。	担当 水野
			事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分
	10	幼児期の間食と弁当づくり	事前	幼児期の間食・お弁当づくりについてプリントを読み理解を深めて準備する。	120分
			概要	幼児期の発育に適した間食と弁当の選び方を学び、間食と弁当をつくる。量とバランスについて学ぶ。	担当 水野
			事後	実習から学んだことをレポートにまとめる。	120分
	11	学童期・思春期の栄養と食生活	事前	テキスト第7章 p157～p173を読み理解を深めるための準備をする。	120分
			概要	学童期・思春期の心身の特性、学校給食について理解する。	担当 水野
			事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分
	12	生涯発達と食生活	事前	テキスト第8章 p174～p179を読みプリントを用いて理解を深めるための準備する。	120分
概要			ライフステージ・成人期と高齢期の食生活について。	担当 水野	
事後			演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
13	食育の基本と内容	事前	テキスト第9章 p180～p213を読み理解を深めるための準備をする。	120分	
		概要	食を通じた養護と教育の一体性を理解する。食育媒体の作成。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	事前	テキスト第10章 p214～p247を読み理解を深めるための準備をする。	120分	
		概要	家庭での食生活のあり方と児童福祉施設での給食の役割や食生活について理解する。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	事前	テキスト第11章・12章・13章 p248～p284を読み理解を深めるための準備をする。	120分	
		概要	疾病及び体調不良の子どもへの対応、食物アレルギー、障がいのある子どもへの対応について理解する。	担当 水野	
		事後	演習問題についてテキストの該当箇所を参考に振り返る。	120分	
16	定期試験	筆記試験	担当 水野		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：授業終了後 場所：講師控室(1号館2階)		保健センターにおける乳幼児健診での栄養指導の経験を活かし、授業を展開する。			
その他(特記事項等)					
調理実習では三角巾、エプロン、マスク、手拭きが必要です。動きやすい服装で臨む。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
10	保育内容の指導法Ⅲ (言葉)	山藤 宏子	1	15	演習	2年前期	必修
科目概要(講義目的)		幼児期に育みたい資質能力について理解し、領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。					
到達目標		1) 子どもが言葉を獲得していく過程を理解する。 2) 言葉の発達に不可欠な大人の働きかけや環境について説明できる。 3) 言葉を育む児童文化財について学び、保育にとりいれる方法を説明できる。					
学習方法		教員からの講義だけではなく、質問や議論、グループワーク等を重視し、自己の考え、他者の考えを通して科目の理解を深める。					
課題のフィードバック		各回に使用するワークシートは授業終了後に回収し、次回以降の授業時にコメントを付して返却する。また、自主学习においての疑問や質問は、授業内の関連単元でクラスで共有したり、Teamsにおいて個別に対応する。					
教員からのメッセージ		保育現場における「言葉」の理解を実践を交えながら深めていきましょう。					
テキスト		新・保育実践を支える 言葉 成田朋子編著(福村出版:2018年)					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	基礎知識、応用知識に関する記述問題
	授業内ワークシートへの取り組み	50%	授業内ワークシートの提出 10点×5回
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容		90分
	1	児童文化財の特徴と意義	事前	テキスト全体に目を通し、領域「言葉」のねらいと内容について復習しておく。	
		概要	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を理解する。	担当 山藤	
		事後	テキスト4章を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
2	児童文化財の製作1	事前	テキスト4章1節を読み、児童文化財についてまとめる。	90分	
		概要	様々な児童文化財について、その重要性を理解する。	担当 山藤	
		事後	テキスト4章1節を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
3	児童文化財の製作2	事前	テキスト4章2節を読み、言語文化財についてまとめる。	90分	
		概要	軍手を使った児童文化財の製作について学ぶ。	担当 山藤	
		事後	テキスト4章2節を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
4	児童文化財の製作3	事前	テキスト4章3節を読み、保育の中での言語文化財についてまとめる。	90分	
		概要	児童文化財と言葉の関係について理解する。	担当 山藤	
		事後	テキスト4章3節を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
5	児童文化財の制作4	事前	テキスト4章4節を読み、保育現場での言語文化財の活用についてまとめる。	90分	
		概要	現場での児童文化財の活用について理解し実践する。	担当 山藤	
		事後	テキスト4章4節を参考に、授業内で使用したレジュメを完成させる。	120分	
6	保育の中で育つ言葉 3歳児の保育指導案	事前	テキスト6章1節を読み、3歳児の保育についてイメージをまとめる。	120分	
		概要	言葉の発達、遊びの発達の様相を踏まえ、保育者との関りを想像しながら3歳児に相応しい指導案を理解する。	担当 山藤	
		事後	授業内で作成した指導案を見直し、完成させる。	120分	

授 業 計 画 等	7	保育の中で育つ言葉 4歳児の保育指導案	事前	テキスト6章2節を読み、4歳児の保育についてイメージをまとめる。	120分
			概要	言葉の発達、遊びの発達の様相を踏まえ、保育者との関りを想像しながら4歳児に相応しい指導案を理解する。	担当 山藤
			事後	授業内で作成した指導案を見直し、完成させる。	120分
8	保育の中で育つ言葉 5歳児の保育指導案	事前	テキスト6章3節を読み、5歳児の保育についてイメージをまとめる。	120分	
		概要	言葉の発達、遊びの発達の様相を踏まえ、保育者との関りを想像しながら5歳児に相応しい指導案を理解する。	担当 山藤	
		事後	授業内で作成した指導案を見直し、完成させる。	120分	
9	定期試験	筆記試験	担当 山藤		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 山藤研究室		保育現場経験および、NPO 法人において子どもを中心とした人と人とを繋ぐ活動に携わった経験を踏まえ、子どもにとっての言語の重要性を示す授業を行う。			
その他（特記事項等）					
毎回の授業で配布する授業レジュメは、自分が理解したことを記入しながら活用し、順にファイルなどに保存することを推奨する。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
11	子どもと造形表現	米窪 洋介	1	15	演習	2年前期	必修

科目概要（講義目的）	子どもたちが安心して自己表現できるように多様な表現方法を学び、安全に配慮しながら造形活動を展開するための指導法を習得する。
到達目標	1. 子どもたちが安心して自己表現をし、感性と創造性を豊かにするための活動を展開できる。 2. 造形表現活動に必要な道具の扱い方と手法について理解し、指導することができる。
学習方法	1. 課題ごとに製作を行う。 2. 授業内容をプリントにまとめる。
課題のフィードバック	授業における課題については、随時コメントを行う。
教員からのメッセージ	造形活動の魅力を再確認し、子どもたちと様々な活動を行えるようになりましょう。
テキスト	佐善圭『造形のじかん』（銀河書籍）2024年
参考書	なし

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	学びの理解度（レポート）
	事前・事後学習課題	30%	課題の達成度
	授業の課題	20%	課題の達成度
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	合計	100%	—

授 業 計 画 等	回	項目	内容	
	1	オリエンテーション 造形あそび①	事前	教科書 p.36 を読んでマーブリングの技法について予習を行う。
		概要	授業の進め方と到達目標を確認する。 マーブリングの技法について学ぶ。	担当 米窪
		事後	マーブリングの技法を用いた遊びと活動の展開をまとめる。	150分
2	造形あそび②	事前	教科書 p.31、38 を読んでデカルコマニーとドリッピングの技法について予習を行う。	90分
		概要	デカルコマニー・ドリッピングの技法を学ぶ。	担当 米窪
		事後	デカルコマニー・ドリッピングの技法を用いた遊びと活動の展開をまとめる。	150分
3	造形あそび③	事前	教科書 p.54 を読んで切り紙の技法について予習を行う。	90分
		概要	切り紙の技法について学ぶ。	担当 米窪
		事後	切り紙の技法を用いた遊びと活動の展開をまとめる。	150分
4	造形あそび④	事前	教科書 p.55 を読んで染め紙の技法について予習を行う。	90分
		概要	染め紙の技法について学ぶ。	担当 米窪
		事後	染め紙の技法を用いた遊びと活動の展開をまとめる。	150分
5	造形あそび⑤	事前	教科書 p.29 を読んでスタンピングの技法について予習を行う。	90分
		概要	スタンピングの技法を学ぶ。	担当 米窪
		事後	スタンピングの技法を用いた遊びと活動の展開をまとめる。	150分
6	造形あそび⑥	事前	教科書 p.56、57 を読んでポップアップの技法について予習を行う。	90分
		概要	ポップアップの技法を学ぶ。	担当 米窪
		事後	ポップアップの技法を用いた遊びと活動の展開をまとめる。	150分

授 業 計 画 等	7	造形あそび⑦	事前	教科書 p.,70 を読んで壁面構成について予習を行う。	90 分	
			概要	壁面構成について学ぶ。	担当	米窪
			事後	考案した遊びのまとめ活動の展開を考える。	120 分	
8	造形あそび⑧	事前	教科書 p.18、19 を読んで展示方法の種類について予習を行う。	90 分		
		概要	壁面構成の作成と展示。	担当	米窪	
		事後	考案した遊びのまとめと活動の展開をまとめる。	120 分		
9	定期試験	筆記試験	担当	米窪		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし		なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 米窪研究室		該当せず				
その他（特記事項等）						
・絵の具などを使うため、服装に気をつけて下さい。						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
12	乳児保育Ⅱ	高橋 典子	1	15	演習	2年前期	選択 (保必)
科目概要(講義目的)		3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた保育者の関わりの基本を理解し、生活や遊びを通して展開される保育の実際を知る。					
到達目標		3歳未満児の発育・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりについての基本的な考え方、養護及び教育の一体性を踏まえた3歳未満児の生活や遊び、保育環境とその配慮、及び係る保育計画について具体的に理解できる。					
学習方法		テキスト・配布資料による講義及び個人ワーク・グループワークを主とした演習を行う。					
課題のフィードバック		次回授業内にて解説を行う。					
教員からのメッセージ		乳児保育Ⅰの学びを基に、未満児保育の遊びと環境(人的・物的)について具体的に学びましょう。					
テキスト		改定乳児保育の基本 阿部和子編 萌文書林:2019(乳児保育Ⅰ使用と同じ)					
参考書		なし					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		50%	論述試験			
	授業での制作発表		50%	授業内容及びテーマに合った内容			
	他()		0%	—			
	他()		0%	—			
	他()		0%	—			
	他()		0%	—			
合計		100%	—				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	保育マップ①	事前	乳児保育Ⅰにおいて作成した発達マップを見直す。			60分
			概要	乳幼児の発達過程と保育者の援助を理解する。①		担当	高橋
			事後	保育者の支援について具体的な方法を調べ保育マップに記す。			120分
	2	保育マップ②	事前	保育者の支援について具体的な方法を調べ保育マップに記す。			120分
			概要	乳幼児の発達過程と保育者の援助を理解する。②		担当	高橋
			事後	保育マップを完成させる。			120分
	3	乳児保育の遊びと環境① 個人ワーク	事前	手指を使う遊びを調べる。			120分
			概要	未満児が楽しむ手指を使う遊びとその遊び方を考える。		担当	高橋
			事後	遊び方について表にまとめる。			120分
	4	乳児保育の遊びと環境② 個人ワーク	事前	手指を使う遊びに必要な環境を考え材料を準備する。			120分
			概要	遊びに必要な環境を理解し作成する。		担当	高橋
			事後	環境の見直し、修正をする。			120分
	5	乳児保育の遊びと環境③ グループワーク	事前	ごっこ遊びについて調べる。			120分
			概要	未満児が楽しむごっこ遊びとその遊び方を考える。		担当	高橋
			事後	遊び方について表にまとめる。			120分
	6	乳児保育の遊びと環境④ グループワーク	事前	ごっこ遊びに必要な環境を考え材料を準備する。			120分
			概要	遊びに必要な環境を理解し作成する。		担当	高橋
			事後	環境の見直し、修正をする。			120分

授 業	7	乳児保育の遊びと環境⑤ グループワーク	事前	ごっこ遊びに必要な環境を考える。	120分	
			概要	遊びに必要な環境を理解し作成する。	担当	高橋
			事後	環境の見直し、修正をする。	120分	
計 画 等	8	乳児保育の遊びと環境⑥ グループワーク	事前	遊びの目的と工夫した環境についてまとめる。	120分	
			概要	未満児が楽しむ遊びと必要な環境について発表する。	担当	高橋
			事後	グループワークの振り返りをする。	60分	
	9	定期試験	論述試験	担当	高橋	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし		1年次に作成した発達マップを見直しておきましょう。	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日 5 限 場所：2号館3階 高橋研究室		公立保育園における保育士・園長としての勤務経験を基に、乳児保育についての実践的な授業を行う。				
その他（特記事項等）						
なし						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
13	子どもの健康と安全	永石 喜代子	1	15	演習	2年前期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		子どもが健やかで安全に生活できる保育環境を理解し、適切な保育環境を展開する技術を習得する。					
到達目標		1) 保護的観点を踏まえた保育の環境構成や子どもへの援助を実践できる。 2) 健康・安全管理、体調不良・感染症等への具体的な対応・対策方法を実践できる。 3) 健康・安全管理の実施体制を説明できる。					
学習方法		演習を中心として、視覚教材やグループワーク等にて理解を深める。 授業内でのグループ発表や、小テストで実技、知識の習得を確認を行う。					
課題のフィードバック		事前学習、事後学習における課題は翌授業開始前にコメントを付し返却する。 最終課題、定期試験のコメントは翌週に研究室にて返却する。					
教員からのメッセージ		子どもの健康と安全について一緒に学びましょう。					
テキスト		新・基本保育士ルーズ 16「子どもの保健と安全」公益財団法人児童育成協会監修 (中央法規) 2024年					
参考書		必要時、資料を配布する。					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	基本事項 80%・応用事項 20%で構成した記述問題 (一部、選択問題)
事前・事後学習課題	16%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容 (2点×8回)	
授業内小テスト	24%	各授業内容の復習テスト (選択問題) (3点×8回)	
リアクションペーパー	10%	授業終了後提出した内容 (2点×5回)	
他 ()	0%	—	
他 ()	0%	—	
	合計	100%	—

授業計画等	回	項目	内容			
	1	ガイダンス (方法と課題の説明) 保育環境管理：自己管理	事前	シラバスの確認と「自分の健康管理」について 400 字程度にまとめる。	60 分	
概要			保育環境とは何かを理解する。自己管理 (バイタルサイン)	担当	永石	
事後			授業中に行った小テストの確認と修正をする。	60 分		
2		保育における健康と安全の管理	事前	テキスト P40、41 の「保育室と園庭」の図から、危険な箇所と改善策を書く。	120 分	
			概要	健康で安全な環境について学ぶ。(施設内の何全管理)	担当	永石
			事後	授業内の小テストの確認と修正をおこなう。	120 分	
3	子どもの体調不良とけがの対応	事前	テキスト P19 の「子どもの症状の観察するポイント」をテキストに書き込む。	120 分		
		概要	体調不良の対応とけがの応急処置について学ぶ。(応急処置)	担当	永石	
		事後	授業内の小テスト「子どもの観察と応急処置」を振り返り、確認と修正を行う。	120 分		
4	事故発生時の対応	事前	最近の「乳幼児の事故」のニュースを 1 つあげ、400 字程度にまとめる。	120 分		
		概要	救急処置法を習得する。災害時の対応を学ぶ。(心肺蘇生、AED)	担当	永石	
		事後	心肺蘇生技術 (小テスト) を振り返り、技術の自己確認を行う。	120 分		
5	子どもの感染症対策	事前	感染症ガイドラインを読み、重要な点を 200 字程度にまとめる。	120 分		
		概要	感染症対策ガイドラインに基づく予防と対策 (手洗い、嘔吐の対応)	担当	永石	
		事後	手洗い、嘔吐の対応、感染症に関する小テストを振り返り、修正を行う。	120 分		
6	3歳未満児への適切な対応	事前	テキスト P116 の事例を呼んで、成長曲線を書く。(成長曲線用紙は配布)	120 分		
		概要	3歳未満児への対応について学ぶ。(乳幼児の体重、身長測定)	担当	永石	
		事後	授業で測定した成長曲線を作成する。(成長曲線用紙は配布)	120 分		

授 業 計 画 等	7	保健的配慮を要する子どもへの対応①（食物アレルギー・慢性疾患）	事前	テキスト P122～125 を読み、食物アレルギーについて 400 字程度にまとめる。	120 分	
			概要	アレルギー性疾患、慢性疾患の対応について学ぶ。 エピペン演習。	担当 永石	
			事後	授業中で行った小テスト（エピペンの使用）の確認と修正を行う。	120 分	
	8	子どもの保健指導と保健活動（医療的ケア児の観察）	事前	テキスト P128、129 の医療的ケア児に関する項目を読み、400 字にまとめる。	120 分	
			概要	医療的ケア児の対応と観察の演習、「ほけんだより」作成。	担当 永石	
			事後	授業で作成した「ほけんだより」を完成し提出する。	120 分	
	9	定期試験	筆記試験	担当 永石		
	D P との関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
	2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週月曜日 5 時限 場所：1 号館 2 階 永石研究室		看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、子どもの健やかで安全な生活について実践的な授業を展開する。				
その他（特記事項等）						
<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習、小テストは、一冊のファイルにまとめて、いつでも提出できるようにしておく。 ・演習が出来る服装で参加する。（動けるような服装） 						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
14	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	永石 喜代子	2	30	演習	2年後期	必修
科目概要（講義目的）		<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする幼児の障害像を理解する。 ・様々な事例を通して「気になる子」の保育実践を知る。 ・保護者や関係機関との連携の仕方を学ぶ。 					
到達目標		1) 障害児保育の理念や歴史を概説できる。 2) 健康・安全管理、体調不良・感染症等への具体的な対応・対策方法を実践できる。 3) 子どもの特性・心身発達に応じた保育計画の作成、保育方法、家庭支援や関係機関との連携・協働について説明できる。					
学習方法		演習を中心として、視覚教材やグループワーク等で理解を深める。 授業内での小テストは、知識の習得、理解の確認として行う。					
課題のフィードバック		事前学習、事後学習における課題は翌授業開始前にコメントを付し返却する。 最終課題、定期試験のコメントは翌週に研究室にて返却する。					
教員からのメッセージ		「気になる子どもとは？」「特別な支援とは？」一緒に考えましょう。					
テキスト		気になる子どもの「インクルーシブ」教育・保育：野内友規・線引清勝（中央法規）2022年					
参考書		「特別な支援を必要とする子どもの理解」共に育つ保育を目指して：勝浦真二（編集）ナカニシ出版					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	70%	基本事項80%・応用事項20%で構成した記述問題（一部、選択問題）				
	事前・事後学習課題	15%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容（1点×15回）				
	授業内小テスト	15%	各授業内容の復習テスト（選択問題）（1点×15回）				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
合計		100%	—				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	特別支援養育について	事前	特別支援教育の理念（テキストP2）について、400字程度にまとめる。	60分		
			概要	特別支援教育の歴史、障害児保育とインクルーシブを学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業内の小テスト（特別支援）の確認と修正を行う。	120分		
	2	障害の理解と支援	事前	テキストP6、図1-1-1とP7の図1-1-2を書いてくる。（A4用紙）	120分		
			概要	ICFとICIDHのちがいを。合理的配慮の理解を学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業内の小テスト（ICIDHからICFと合理的配慮）の確認と修正を行う。	120分		
	3	障害の理解と支援（視覚障害）	事前	テキストP14～17を読み、視覚障害の特徴と支援を400字程度にまとめる。	120分		
			概要	視覚障害の理解と支援、幼児期の支援のポイントを学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業内の小テスト（視覚障害）の確認と修正を行う。	120分		
	4	障害の理解と支援（聴覚障害）	事前	テキストP18～21を読み、図1-2-2耳の構造を書いてくる。（A4用紙）	120分		
			概要	聴覚障害の理解と支援。聴覚障害児の心理特性を学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業内の小テスト（聴覚障害）の確認と修正を行う。	120分		
	5	障害の理解と支援（知的障害）	事前	テキストP25、26を読み、病理型知的障害児「ダウン症」についてまとめる。	120分		
			概要	知的障害の理解と支援。「ダウン症」の理解を深める。	担当	永石	
			事後	授業内の小テスト（知的障害）の確認と修正を行う。	120分		
	6	障害の理解と支援（肢体不自由）	事前	テキストP27～30を読み、「肢体不自由」について200字程度にまとめる。	120分		
			概要	肢体不自由の理解と支援。脳性麻痺、二分脊椎症、ALSを学ぶ。	担当	永石	
			事後	授業内の小テスト（肢体不自由）の確認と修正を行う。	120分		

授 業 計 画 等	7	障害の理解と支援（病弱・身体虚弱）	事前	テキストP31～34を読んで悪性新生物（小児がん）を400字程度にまとめる。	120分
			概要	小児がん、糖尿病、気管支喘息、先天性心疾患の理解と支援。	担当 永石
			事後	授業内の小テスト（病弱・身体虚弱）の確認と修正を行う。	120分
	8	発達障害の理解と支援	事前	テキストP36～37を読んで、発達障害の定義を400字程度にまとめる。	120分
			概要	発達障害の定義、支援、幼児期の支援。	担当 永石
			事後	授業内の小テスト（発達障害）の確認と修正を行う。	120分
	9	学習障害の理解と支援	事前	テキストP38～41を読んで学習障害（LD）を400字程度にまとめる。	120分
			概要	学習障害の理解と支援を学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内の小テスト（学習障害）の確認と修正を行う。	120分
	10	意欠如・多動性/注意欠如・多動性障害の理解と支援	事前	テキストP42～47を読み、ADHDについて400字程度にまとめる。	120分
			概要	注意欠如・多動性/注意欠如・多動性障害の理解と支援を学ぶ。	担当 永石
			事後	授業内の小テスト（ADHD）の確認と修正を行う。	120分
	11	自閉スペクトラム/自閉症スペクトラム障害の理解と支援	事前	テキストP48～51を読み、ASDの定義について400字程度にまとめる。	120分
			概要	自閉スペクトラム/自閉症スペクトラム障害の理解と支援。	担当 永石
			事後	授業内の小テスト（注意欠如）の確認と修正を行う。	120分
	12	発達性協調運動症/発達性協調運動障害の理解と支援	事前	テキストP52～56のDCDの定義について400字程度にまとめる。	120分
概要			発達性協調運動症/発達性協調運動障害の理解と支援	担当 永石	
事後			授業内の小テスト（DCD）の確認と修正を行う。	120分	
13	多様な教育的ニーズの理解と支援	事前	テキストP58～72を読み、医療的ケア児について400字程度にまとめる。	120分	
		概要	言語障害、情緒障害、多様なニーズ、医療的ケア児の理解と支援。	担当 永石	
		事後	業内の小テスト（医療的ケア児）の確認と修正を行う。	120分	
14	個別の指導計画・個別の教育支援計画	事前	テキストP108～118を読み、気になる子について、400字程度にまとめる。	120分	
		概要	気になる子の早期発見、個別の指導計画・個別の教育支援計画。	担当 永石	
		事後	授業内で作成した個別の指導計画書の確認と修正を行う。	120分	
15	関係機関や保護者との連携	事前	テキストP136の子どもにとっての「健康」について400字程度にまとめる。	150分	
		概要	就学に向けた関係機関や保護者との連携の必要性	担当 永石	
		事後	業内の小テスト（連携）の確認と修正を行う。	150分	
16	定期試験	筆記試験	担当 永石		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
4		6) 7)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日5時限 場所：1号館2階 永石研究室		看護師・養護教諭養成教育の勤務経験を活かし、特別な支援を必要とする子どもと保護者への支援について実践的な授業を展開する。			
その他（特記事項等）					
事前・事後学習、小テストは、一冊のファイルにまとめて、いつでも提出できるようにしておく。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
15	子育て支援	田岡 紀美子	1	30	演習	2年後期	選択 (保必)
科目概要 (講義目的)		子育て家庭が抱える課題や困りごとを理解し、実際に保育者として保護者への支援が出来るように、ソーシャルワークの技術の修得をする。さらに、子育て支援を行なう上で必要となる理論の構築を促す。					
到達目標		1) 保育士の専門性を背景とした保護者支援の特性と展開方法を理解できる。 2) 保育士が行なう子育て支援について、実践事例などを交えながら、様々な場面や対象に即した支援内容と方法を理解し、基本技術を扱うことができる。					
学習方法		テキスト・配布資料を基に、演習形式で展開する。また、理解を深めるために視聴覚教材や事例検討、グループワークも取り入れていきます。					
課題のフィードバック		授業資料、課題などは、teams で当該科目のクラスを作成し、データ (主に PDF) をアップロードします。また、課題は授業内で返却し、フィードバックを行ないます。質問等に関しては、teams 内で作成した、クラスにて受け付けるとともに、返答も個々に行ないます。また、質問に関しては、k.taoka ★ matsutan.ac.jp (★を@に変更して下さい) でも受け付けます。					
教員からのメッセージ		グループワークやロールプレイなど実践をイメージした授業展開をするので、積極的に参加して下さい。					
テキスト		公益社団法人児童育成協会 (監修) 西村重稀・青井夕貴 (編集) 「新基本保育シリーズ 19 子育て支援」中央法規 (2019)					
参考書		特になし。必要なものは授業内で配布します。					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	60%	レポート試験
	グループワーク等	10%	ロールプレイ及びグループワークの内容
	事前課題	30%	提出の有無と成果
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
	他 ()	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	1	保護者支援とは	事前	シラバスの確認 テキスト p6～7 にある演習課題を完了させる。
概要				保護者支援について。	担当 田岡
事後				講義内容の振り返り。	15分
2		保護者とのコミュニケーションと信頼関係の形成	事前	テキスト p20～21 にある演習 2 「保育者として活用するバイステックの 7 原則」を完成させ、授業で取り組む演習の準備をする。	30分
			概要	保護者との信頼関係を形成するための保育者の基本的態度について。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
3		保護者 (家庭) のニーズと多面的理解について	事前	テキスト第 3 講を通読する。	30分
			概要	保護者の状況に配慮して個別支援について。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
4		子ども及び保護者の状況・状態の把握について	事前	テキスト p40 「演習 1」と p42～43 「演習 3」を完成させておく。	60分
			概要	子育て支援におけるプロセスの理解とアセスメント方法について。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
5		支援計画と環境の構成について	事前	テキスト p50～52 「演習 1 事例をもとに、保育所を利用する保護者の支援計画を立てよう」を完成させておく。	60分
			概要	支援内容や方法の計画の立案方法をについて (目標の設定を含む)	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
6		支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて	事前	テキスト p66～67 「演習 2 記録を書くための練習をしてみよう」と 「演習 3 事例を読んでモニタリング・評価シートを記入してみよう」を完成させておく。	60分
			概要	計画に基づいた支援の実践について (保育の専門知識・技術の活用) (PDCA サイクルの理解)	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りを行う。	15分

授 業 計 画 等	7	職員間の連携・協働について	事前	テキスト p76～77「演習1 保育実習を行った保育所における職員間の連携・協働を振り返ってみよう」の(1)準備するもの(図表7-3)を作成する。	60分
			概要	職員間の連携・協働のあり方について。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りを行なう。	15分
	8	保育所等における支援について	事前	テキスト p100～101の演習1を完成させておく。	60分
			概要	保護者の子育てに関する悩みや子育て支援の内容について。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
	9	地域の子育て家庭に対する支援について	事前	テキスト p114～115の演習2を完成させる。	30分
			概要	地域の子育てのニーズについて。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
	10	障がいのある子ども及びその家庭に対する支援について	事前	テキスト第11講を通読する。	60分
			概要	障がいのある子どもの理解と保護者に対する支援。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
	11	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援について	事前	テキスト p136～139「演習2つの事例から、実際の現場で何ができるのか、子どもの立場に立って考えてみよう」を完成させておく。	30分
			概要	家庭や保護者に配慮が必要な場合の理解。	担当 田岡
			事後	講義内容の振り返りをする。	15分
	12	要保護児童等の家庭に対する支援について	事前	テキスト p163「演習2 親子関係を再構築するための支援を学ぼう」について通読しておく。	30分
概要			児童問題の背景を理解した上で、親子関係の再構築に向けた支援について理解する。	担当 田岡	
事後			講義内容の振り返りを行なう。	15分	
13	多様な支援ニーズを抱える子育て支援家庭の理解	事前	テキスト第15講を通読する。	30分	
		概要	多文化共生に関する理解と多文化保育に関する考え方を理解する。	担当 田岡	
		事後	講義内容の振り返りをする。	15分	
14	多文化保育概念について	事前	テキスト p173「演習2 多文化保育に関する理論的な理解と保育実践について考えてみよう」を完成させておく。	30分	
		概要	社会福祉に関わる専門職と社会福祉専門職としての保育士について理解する。	担当 田岡	
		事後	自身が取り上げた絵本について、紹介カードを作成する。	30分	
15	多文化・多様性を理解するための支援	事前	絵本の紹介カードを完成させる。	30分	
		概要	多文化保育内容を理解し、保育実践活動について考える。	担当 田岡	
		事後	これまでの振り返りを行ない、試験に備える。	15分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田岡		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
5		8) 9) 10)	保育士資格取得希望者は必須	保育実習で得られた内容を振り返っておく。	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日5時限 場所：2号館3階 田岡研究室		該当せず			
その他(特記事項等)					
資料をteamsで配布するので、できるだけ自身のPCに配布資料をダウンロードして、授業で活用してください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
16	いのちと環境	米窪 洋介	2	30	演習	2年前期	選択 (保選)
科目概要(講義目的)		子どもの成長および発達における自然環境との関わりについて理解を深め、自然と関わるための保育実践力を身につける。					
到達目標		1. 子どもの成長・発達における自然環境との関わりを説明できる。 2. 子どもと自然とのかかわりを想定した保育実践力を身につける。					
学習方法		主題に応じた講義と演習を行います。					
課題のフィードバック		課題に応じてコメントを返します。					
教員からのメッセージ		身のまわりの自然について理解を深め、保育の中で活かせる力を身に付けましょう。					
テキスト		なし					
参考書		適宜紹介					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		50%	学びの理解度(レポート)			
	事前・事後学習課題		30%	課題の達成度			
	授業の課題		20%	課題の達成度			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
合計		100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション 子どもの育ちと環境	事前	保育における環境について要領・指針を確認する。			90分
			概要	授業の進め方と到達目標を確認する。 様々な環境が子どもに与える影響について学ぶ。		担当	米窪
			事後	保育における環境についてまとめる。			150分
	2	「いのち」について	事前	身の回りの命について考えをまとめる。			90分
			概要	命と食について学ぶ。		担当	米窪
			事後	保育において関わる、命についてまとめる。			150分
	3	自然とのかかわり①	事前	配布資料を元に、信州やまほいくについて予習する。			90分
			概要	自然保育について学ぶ。		担当	米窪
			事後	自然保育についてまとめる。			150分
	4	自然とのかかわり②	事前	配布資料を元に「山」について予習する。			90分
			概要	保育における「土」との関わりについて学ぶ。		担当	米窪
			事後	保育における「土」との関わりについてまとめる。			150分
	5	自然とのかかわり③	事前	配布資料を元に「植物」について予習する。			90分
			概要	保育における「植物」との関わりについて学ぶ。		担当	米窪
			事後	保育における「植物」との関わりについてまとめる。			150分
	6	自然とのかかわり④	事前	配布資料を元に「空・天候」について予習する。			90分
			概要	保育における「空・天候」との関わりについて学ぶ。		担当	米窪
			事後	保育における「空・天候」との関わりについてまとめる。			150分

授 業 計 画 等	7	自然とのかかわり⑤	事前	配布資料を元に「生き物」について予習する。	90分
			概要	保育における「生き物」との関わりについて学ぶ。担当	米窪
			事後	保育における「生き物」との関わりについてまとめる。	150分
	8	自然とのかかわり⑥	事前	配布資料を元に「花・草・木」について予習する。	90分
			概要	保育における「花・草・木」との関わりについて学ぶ。担当	米窪
			事後	保育における「花・草・木」との関わりについてまとめる。	150分
	9	自然とのかかわり⑦	事前	配布資料を元に「水」について予習する。	90分
			概要	保育における「水」との関わりについて学ぶ。担当	米窪
			事後	保育における「水」との関わりについてまとめる。	150分
	10	自然とのかかわり⑧	事前	配布資料を元に「火」について予習する。	90分
			概要	保育における「火」との関わりについて学ぶ。担当	米窪
			事後	保育における「火」との関わりについてまとめる。	150分
	11	自然とのかかわり⑨	事前	配布資料を元に「人・地域・文化」について予習する。	90分
			概要	保育における「人・地域・文化」との関わりについて学ぶ。担当	米窪
			事後	保育における「人・地域・文化」との関わりについてまとめる。	150分
	12	野外保育活動①（学外）	事前	配布した資料を読み、工作道具の扱い方について予習する。	90分
概要			自然の素材を用いた工作について学ぶ。担当	米窪	
事後			自然素材を用いた工作についてまとめる。	150分	
13	野外保育活動②（学外）	事前	配布した資料を読み、火おこしの方法について予習する。	90分	
		概要	薪を用いた火おこしの方法を学ぶ。担当	米窪	
		事後	火おこしの方法や注意事項をまとめる。	150分	
14	野外保育活動③（学外）	事前	配布した資料を読み、飯盒の使用方法について予習する。	90分	
		概要	飯盒炊飯の方法、食について学ぶ。担当	米窪	
		事後	食についてまとめる。	150分	
15	野外保育活動④（学外）	事前	配布した資料を読み、森林について予習する。	90分	
		概要	森林を散策する中で、自然との関わりを学ぶ。担当	米窪	
		事後	自然との関わりについてまとめる。	150分	
16	定期試験	レポート	担当	米窪	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 米窪研究室		該当せず			
その他（特記事項等）					
・学外授業における工作の材料代・昼食代がかかります。（1,000 円程度）					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
17	保育・教育相談	田中 秀明	2	30	講義	2年後期	選択 (免必・保選)
科目概要（講義目的）		保育・教育相談の意義・基礎的理論を学び、ロールプレイなどを通してカウンセリング技法を身につける。さらに子どもの不適応・問題行動の事例をとりあげ保育場面での展開を考える。					
到達目標		1. 子どもの心理的特質や教育的課題について理解している。 2. カウンセリングの理論・基本的な技法を身につける。					
学習方法		1. プリント教材・DVD教材に基づく講義 2. 授業中の課題についてミニレポートの提出					
課題のフィードバック		事後学習における疑問点等は、授業内において解説する。事前学習における課題は翌授業回にコメントを付し返却する。最終課題は定期試験日に返却する。					
教員からのメッセージ		ケアスペシャリストとしての力を高めるため、カウンセリングの基礎技法を身につけましょう。					
テキスト		なし					
参考書							

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	55%	記述式問題
	事前・事後学習課題	30%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容（2点×15回）
	授業内小テスト	15%	各授業内容の復習テスト（選択問題）（1点×15回）
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
	他（ ）	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		90分
	1	保育・教育場面における現代的課題	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	
		概要	子ども・子育て環境の変化から生じた保育・幼児教育に関わる課題を学ぶ。	担当	田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
2	保育・教育相談の意義	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	保育・教育場面におけるさまざまな課題を理解し、保育・教育相談の目的・意義を学ぶ。	担当	田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
3	保育者に求められるカウンセリングマインド	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	保育者に求められるカウンセリングマインドとは何か、またその必要性について学ぶ。	担当	田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
4	カウンセリングに関わる基礎的な理論	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	保育・教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を学ぶ。	担当	田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
5	カウンセリングにおける3つの条件	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	カウンセリングの基礎理論を学び、3つの基本的条件を理解する。	担当	田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
6	コミュニケーションの基礎① 話す・きく	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	コミュニケーションの基礎となる話す力・きく力の重要性について学び、ロールプレイを通して高める。	担当	田中
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べる。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	

授 業 計 画 等	7	コミュニケーションの基礎② みる	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	ノンバーバル・コミュニケーションの重要性を理解し、みる力を高める。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	8	傾聴とは	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	カウンセリングにおける傾聴と助言、さまざまな技法についてロールプレイを通して体験的に学ぶ。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	9	受容と共感	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	カウンセリングにおける基本的姿勢と技法について学ぶ。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	10	保育・教育相談の進め方	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	子どもや保護者に対する相談を行う際の目標の立て方や進め方を学ぶ。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	11	子どもの不適応・問題行動の 捉え方	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	子どもの不適応・問題行動の意味、子どもの発するシグナルに気づく方法について学ぶ。	担当 田中
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分
	12	子どもに対する支援の実際(事 例をよむ)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
概要			子どもの発達段階や発達課題に応じた相談の進め方を事例を通して学ぶ。	担当 田中	
事後			配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
13	保護者に対する支援の実際(事 例をよむ)	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	保護者が抱えるさまざまな問題、親子関係から生ずる子どもの問題について事例を通して学ぶ。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
14	保育者の連携・チームワーク による支援体制	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	相談計画の作成や必要な園内体制の整備など、組織的な取りくみの必要性を学ぶ。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
15	地域の専門機関との連携	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性について学ぶ。	担当 田中	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。自分なりに深めたテーマについての自主レポートを提出することを推奨する。	150分	
16	定期試験	筆記試験	担当 田中		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし	実習などで出会った子どものつまずきに関する事例について振り返ってみる。	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週月曜日5時限 場所：1号館3階 田中研究室		該当せず			
その他(特記事項等)					
事後学習のミニレポートは、得た知識の内容や疑問点を列記するだけでなく、保育実践と関係づけてまとめるとなお良い。(A4用紙、横書き、手書きでも可)					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
18	子どもの音楽Ⅱ	齋藤 博紀	1	15	演習	2年前期	選択 (保選)
科目概要(講義目的)		保育現場での総合的な音楽表現活動に対応するために、打楽器奏法、歌唱、アンサンブル、創作等の技術を習得する。また子どもの発達に必要な音楽教材の選び方、教材の作成を通し、より良い環境について理解する。					
到達目標		保育現場での総合的な音楽表現活動に対応するためにリズム楽器を用い、ピアノを中心としたアンサンブル演奏ができる。また子どもの発達に必要な音楽教材の選び方や、教材の制作を通し、より良い音楽環境を作ることができる。					
学習方法		演習形式で授業を行い、振り返りをレポートにまとめる。					
課題のフィードバック		事前・事後学習課題については、授業の際に随時コメントする。 最終課題については、コメントを付して返却する。					
教員からのメッセージ		仲間と音楽を創造する楽しさと達成感を味わいましょう。					
テキスト		「保育のピアノ伴奏」阿部直美監修(日本文芸社) 「幼稚園の子ども歌 長野県編」山田真治・齋藤博紀 共著(学術文芸出版)					
参考書		「幼児の歌110曲集」(ATM出版)					
成績評価方法	評価項目		配分%		評価基準		
	定期試験		50%	幼児期のアンサンブル活動の意義とその指導方法についてまとめられているか。			
	事前・事後学習課題		30%	得られた知識と自己の振り返り等の記載内容			
	毎時の課題		20%	表現の創意工夫とそれを実現するための技能			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
合計			100%	-			
授業計画等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション	事前	シラバスを読み、演習内容を確認する。			20分
			概要	授業の進め方と到達目標を確認する。		担当	齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめておくこと。			100分
	2	分担奏による音楽表現① ハンドベル	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。 授業内容に関連した演奏動画を紹介するため、視聴しておくこと。			120分
			概要	ハンドベルの奏法を学び、保育における活用方法を理解する。		担当	齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめておくこと。			120分
	3	分担奏による音楽表現② ブームワッカー	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。 授業内容に関連した演奏動画を紹介するため、視聴しておくこと。			120分
			概要	ブームワッカーの奏法を学び、保育における活用方法を理解する。		担当	齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめておくこと。			120分
	4	身体を使った音楽表現① ヴォイスアンサンブル	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。 授業内容に関連した演奏動画を紹介するため、視聴しておくこと。			120分
			概要	ヴォイスアンサンブルを実践し、保育における活用方法を理解する。		担当	齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめておくこと。			120分
	5	身体を使った音楽表現② ボディパーカッション	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。 授業内容に関連した演奏動画を紹介するため、視聴しておくこと。			120分
			概要	ボディパーカッションを実践し、保育における活用方法を理解する。		担当	齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめておくこと。			120分
	6	器楽アンサンブル① リズム楽器の奏法と特性	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。 授業内容に関連した演奏動画を紹介するため、視聴しておくこと。			120分
			概要	リズム楽器の奏法と特性を学び、保育における活用方法を理解する。		担当	齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめておくこと。			120分

授 業 計 画 等	7	器楽アンサンブル② リズムと拍	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。 授業内容に関連した演奏動画を紹介するため、視聴しておくこと。		120分
			概要	リズムや拍の違いを利用した音楽表現を試みる。	担当	齋藤
			事後	授業内容をプリントにまとめておくこと。		120分
8	器楽アンサンブル③ ダイナミックとアゴーギク	事前	授業内容とキーワードを予告するため、それらについて調べておくこと。 授業内容に関連した演奏動画を紹介するため、視聴しておくこと。		120分	
		概要	ダイナミックとアゴーギクを利用した音楽表現を試みる。	担当	齋藤	
		事後	授業内容をプリントにまとめておくこと。		120分	
9	定期試験	筆記試験		担当	齋藤	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし		なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 齋藤博紀研究室		中学校での教員経験を踏まえ、幼児の音楽表現の環境構成及び音楽表現活動の支援方法と理解について講義と演習を行う。				
その他（特記事項等）		なし				

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
19	子どもと絵本	生田 恵津子	1	15	演習	2年前期	選択 (保選)
科目概要 (講義目的)		児童文化の一つである絵本を取り上げ、作品分析、作者分析を通して、その魅力を探る。また、絵本が子どもの心身の発達にどのように寄与するのか、ディスカッションやグループワークを通して理解を深める。					
到達目標		1) 子どもの発達に合わせた絵本の選び方を学び実践に生かすことができる。 2) 絵本ができあがる過程を知り、作者や編集者が子どもたちに伝えたい思いを考えたり、読み方や与え方について説明できる。					
学習方法		講義、グループワーク、読み聞かせプログラムの実践などを行う。					
課題のフィードバック		提出課題等は授業内でフィードバックする。 最終課題は teams にてコメントを付す。					
教員からのメッセージ		毎回1冊の絵本を紹介します。絵本は他の文学と比べて文字数もページ数も少ないですが、他の文学に勝るとも劣らないメッセージ性を内包しており、子どものためだけにあるものでもありません。一緒に絵本の世界を楽しみましょう。					
テキスト		なし					
参考書		絵本力 (ミネルヴァ書房) こどもの本のよあけ (塾員館書店) 絵本のよるこび (NHK 出版) 本・こども・絵本 (大和書房) 絵本はともだち (福音館書店) 絵本の力 (岩波書店) 絵本を見る眼 (日本エディタースクール)					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		60%	レポート論述試験 子どもの発達と絵本についての理解を問う			
	事前・事後学習課題		40%	自己学習で得た知識、疑問点等の記載内容 (5×8回)			
	授業内小テスト		0%	—			
	他 ()		0%	—			
	他 ()		0%	—			
	他 ()		0%	—			
合計		100%	—				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	絵本の入り口	事前	絵本にまつわる思い出を書き、(1200 字程度) 選んだ絵本を持参する。			120 分
			概要	絵本を選んだ理由と、その絵本にまつわるエピソードを話すことができる。	担当	生田	
			事後	ブックスタートなどの読書啓発活動について調べ、まとめる。			120 分
	2	子どもにとって絵本とは	事前	子どもにとって絵本はどのような意味をもつのか自身の考えをまとめる。			120 分
			概要	絵本論をいくつか取り上げながら、絵本の選び方や与え方について講義する。	担当	生田	
			事後	授業内で取り上げた絵本論から 1 冊を選んで読む。			180 分
	3	ビブリオバトル	事前	自身が選んだ絵本論の感想を書く。			120 分
			概要	絵本論の感想を発表し合い、共有することができる。	担当	生田	
			事後	ビブリオバトルで読みたいと思った本を図書館で借りて読む。			120 分
	4	編集の現場から	事前	編集者の仕事 (絵本編集に特化して) について調べ、まとめる。			120 分
			概要	編集者から 1 冊の絵本が出来上がるまでの様子を聞く。	担当	生田	
			事後	絵本作りに対して感じたことを含め、お礼状を書く。			60 分
	5	子どもの発達と絵本① 0,1 歳児	事前	「乳児保育 1」の学びを振り返り、0,1 歳児の心と体の発達をまとめる。			120 分
			概要	グループで 0,1 歳児の発達に合わせた絵本を選びパワーポイントにする。	担当	生田	
			事後	グループ制作の分担箇所を仕上げる。			120 分
	6	子どもの発達と絵本② 2 歳児	事前	「乳児保育 1」の学びを振り返り、2 歳児の心と体の発達をまとめる。			120 分
			概要	グループで 2 歳児の発達に合わせた絵本を選びパワーポイントにする。	担当	生田	
			事後	グループ制作の分担箇所を仕上げる。			120 分

授 業 計 画 等	7	子どもの発達と絵本③ 3～5歳児	事前	3～5歳児までの心と体の発達について、グループ内で分担を決め、まとめる。	120分
			概要	グループ内で、調べてきたものをひとつにまとめる。	担当 生田
			事後	パワーポイントを仕上げ、teams にアップする。	60分
8	保育に生かす絵本	事前	他のグループのパワーポイントを見て、質問箇所を書き出す。	120分	
		概要	全体発表の後、保育の中の絵本の存在について講義を行う。	担当 生田	
		事後	自身のパワーポイントの修正加筆を行い、講義内容を復習する。	60分	
9	定期試験	筆記試験	担当 生田		
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
3		5)	なし		なし
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5時限 場所：2号館3階 生田研究室		保育現場での経験と、児童書出版社の地域講師としての経験を活かし、講義を行う。			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
20	生涯スポーツⅡ	古屋 顯一	1	15	演習	2年後期	選択 (保選)
科目概要(講義目的)		フライングディスク(いわゆるfrisbee)やスノースポーツを安全に楽しく行う能力を身につけ、生涯にわたってスポーツを楽しむ能力を育成する。					
到達目標		「それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも・どこでも・いつまでもスポーツに親しむことができる」ために、校内環境や季節の特徴に応じたスポーツ種目の学習を通して、実践力を身につける。					
学習方法		チーム・グループを適宜編成し、自己評価カードを用いて運動の理解度を確認する。					
課題のフィードバック		自己評価カードにコメントを付して返却する。					
教員からのメッセージ		ケガをしないように取り組みましょう。					
テキスト		必要に応じてプリントを配布する。					
参考書		なし					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		50%	レポート			
	事前・事後学習課題		0%	-			
	授業内小テスト		0%	-			
	演習(知識・技術)		50%	知識と技術の習熟度			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
合計		100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーションとフライングディスクの特性やルールについて理解Ⅰ	事前	フライングディスクおよびスノーボードの技術について各自調べる。			180分
			概要	授業の進め方の説明とフライングディスクの投げ方の学習。			担当 古屋
			事後	フライングディスクの投げ方、およびスノーボードの技術についての復習。			180分
	2	フライングディスクの特性の理解Ⅱ	事前	アルミットのルールの確認、およびスノーボードの技術についてさらに各自学習。			180分
			概要	フライングディスクのゲームの一つのアルミットのルールを理解する。			担当 古屋
			事後	アルミットのルール、およびスノーボードの技術についての復習。			180分
	3	アルミットの基礎的技術の理解	事前	アルミットの特性に合ったディスクの投げ方、およびスノーボードの技術の予習。			180分
			概要	パス・キャッチングなどに必要な技術の理解とゲームの実施。			担当 古屋
			事後	アルミットの戦術、およびスノーボードの技術について各自学習。			180分
	4	スノースポーツ学修(集中1)	事前	実施計画を熟読し、各自準備品を確認。			300分
			概要	グループ毎のスノーボード学習の実施。			担当 古屋
			事後	自主練習後の、けが防止のための体調確認。			15分
	5	スノースポーツ学修(集中2)	事前	アルミットの特性に合ったディスクの投げ方、およびスノーボードの技術の予習。			15分
			概要	グループ毎のスノーボード安全性と応用技術の実施。			担当 古屋
			事後	アルミットの戦術、およびスノーボードの技術について各自学習 体調確認。			15分
	6	スノースポーツ学修(集中3)	事前	アルミットの特性に合ったディスクの投げ方、およびスノーボードの技術の予習。			15分
			概要	グループ毎のスノーボードの応用技術の実施。			担当 古屋
			事後	スノーボードの技術についての復習と体調確認。			15分

授 業	7	スノースポーツ学修（集中4）	事前	アルペットの戦術の確認。		15分
			概要	グループ毎の、スノーボードの応用技術の実施。	担当	古屋
			事後	スノーボード振り返りと課題 体調確認。		15分
計 画 等	8	スノースポーツ学修（集中5）	事前	スノーボード実習振り返り。		15分
			概要	スノーボード実習の振り返りを踏まえて、総まとめ。	担当	古屋
			事後	スノーボード演習の復習と、基礎と応用、安全についてまとめる。		270分
	9	定期試験	レポート試験	担当	古屋	
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
1		1) 2)	なし		なし	
オフィスアワー			実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日5時限 場所：古屋研究室（体育館脇）			大学での教員経験を踏まえ、各種も特製の知識、安全に楽しむ資質や能力をいくつかの種目の演習により習得する。			
その他（特記事項等）						
なし						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
21	子どもと造形表現論	米窪 洋介	2	30	講義	2年後期	選択 (保選)
科目概要(講義目的)		子どもの造形活動について、表現の意義や目的を理解すると共に、多様な表現方法を学び、表現を通じた子どもの育ちについて考える。					
到達目標		1. 子どもの造形活動における表現の意義や目的を説明することができる。 2. さまざまな表現を通じた子どもの育ちについて説明することができる。					
学習方法		主題に応じた講義とアクティブラーニングによる実践を行う。					
課題のフィードバック		課題に応じてコメントを返します。					
教員からのメッセージ		子どもの造形表現について理解を深め、子ども理解に繋がましょう。					
テキスト		佐善圭『新造形のじかん』(銀河書籍) 2004年					
参考書		適宜紹介					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		50%	学びの理解度(レポート)			
	事前・事後学習課題		30%	課題の達成度			
	授業の課題		20%	課題の達成度			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
合計		100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション	事前	教科書 p.12-13 を読んで子どもの造形的発達について予習を行う。			90分
			概要	授業の進め方と到達目標について確認する。子どもの造形表現について意義や目的を理解する。		担当	米窪
			事後	子どもの造形表現について意義や目的についてまとめる。			150分
	2	あそびと表現①	事前	教科書 p.32、p.39 を読んでスパッタリングとストリングデザインについて予習を行う。			90分
			概要	絵の具を用いた表現方法について学ぶ。		担当	米窪
			事後	スパッタリングとストリングデザインについてまとめ、遊びの展開を考える。			150分
	3	あそびと表現②	事前	教科書 p.33、p.35 を読んでフロッタージュとステンシルについて予習を行う。			90分
			概要	色鉛筆を用いた表現方法について学ぶ。		担当	米窪
			事後	フロッタージュとステンシルについてまとめ、遊びの展開を考える。			150分
	4	あそびと表現③	事前	教科書 p.96 を読んでシャボン玉あそびについて予習を行う。			90分
			概要	シャボン玉を用いた表現方法について学ぶ。		担当	米窪
			事後	シャボン玉あそびについてまとめ、遊びの展開を考える。			150分
	5	あそびと表現④	事前	教科書 p.29 を読んでフィンガーペインティングについて予習を行う。			90分
			概要	小麦粉を用いた表現方法について学ぶ。		担当	米窪
			事後	フィンガーペインティングについてまとめ、遊びの展開を考える。			150分
	6	あそびと表現⑤	事前	教科書 p.35、p.37 を読んでパチックとスクラッチについて予習を行う。			90分
			概要	クレヨンを用いた表現方法について学ぶ。		担当	米窪
			事後	パチックとスクラッチについてまとめ、遊びの展開を考える。			150分

授 業 計 画 等	7	あそびと表現⑥	事前	教科書 p.59 を読んで紙を立体で表す方法について予習を行う。	90 分
			概要	紙を立体にする表現方法について学ぶ。	担当 米窪
			事後	紙を立体で表す方法についてまとめる。	150 分
	8	あそびと表現⑦	事前	教科書 p.64-65 を読んで張子について予習を行う。	90 分
			概要	張子の技法を用いた表現方法について学ぶ。	担当 米窪
			事後	張子についてまとめ、遊びの展開を考える。	150 分
	9	あそびと表現⑧	事前	教科書 p.44 を読んで紙版画について予習を行う。	90 分
			概要	版画の技法を用いた表現方法について学ぶ。	担当 米窪
			事後	紙版画についてまとめ、遊びの展開を考える。	150 分
	10	あそびと表現⑨	事前	教科書 p.43 を読んで、版画について予習を行う。	90 分
			概要	印刷の技法を用いた表現方法について学ぶ。	担当 米窪
			事後	印刷の技法を用いた表現方法についてまとめ、遊びの展開を考える。	150 分
	11	あそびと表現⑩	事前	教科書 p.124-125 を読んで粘土について予習を行う。	90 分
			概要	粘土を用いた表現方法について学ぶ。	担当 米窪
			事後	粘土を用いた表現方法についてまとめ、遊びの展開を考える。	150 分
	12	あそびと表現⑪	事前	教科書 p.136-137 を読んで自然と関わる遊びについて予習を行う。	90 分
概要			自然素材を持ちた表現方法について学ぶ。	担当 米窪	
事後			自然素材を持ちた表現方法についてまとめ、遊びの展開を考える。	150 分	
13	あそびと表現⑫	事前	教科書 p.72-73 を読んでダンボールを用いた遊びについて予習を行う。	90 分	
		概要	廃材を用いた表現方法について学ぶ。	担当 米窪	
		事後	廃材を用いた表現方法についてまとめ、遊びの展開を考える。	150 分	
14	あそびと表現⑬	事前	教科書 p.43 を読んで、ローラーあそびについて予習を行う。	90 分	
		概要	ローラーを用いた表現方法について学ぶ。	担当 米窪	
		事後	ローラーを用いた表現方法についてまとめ、遊びの展開を考える。	150 分	
15	あそびと表現⑭	事前	教科書 p.66 を読んで、モビールについて予習を行う。	90 分	
		概要	動きを伴う表現方法について学ぶ。	担当 米窪	
		事後	動きを伴う表現方法についてまとめ、遊びの展開を考える。	150 分	
16	定期試験	レポート	担当 米窪		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
2		3) 4)	なし		なし
オフィスアワー			実務経験と授業科目との関連性		
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 米窪研究室		該当せず			
その他（特記事項等）					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
22	幼児保育特講	米窪 洋介	2	30	演習	2年前期	選択 (保選)
科目概要(講義目的)		保育現場で役立つ知識・技術を修得し、模擬保育を行うことで実践力を身につける。					
到達目標		1. 保育の知識・技術を仲間へ伝えあい、応用することができる。 2. 保育実践に伴う協働作業へ積極的に取り組むことができる。 3. 実践の場で、保育者の立場を意識しながら子どもや保育者と関わることができる。					
学習方法		主題に応じた演習を行います。					
課題のフィードバック		課題に応じてコメントを返します。					
教員からのメッセージ		模擬保育による実践を通した学びから、保育の知識と技術を高める授業です。					
テキスト		なし					
参考書		適宜紹介					
成績 評価 方法	評価項目		配分%	評価基準			
	定期試験		50%	学びの理解度(レポート)			
	事前・事後学習課題		30%	課題の達成度			
	授業の課題		20%	課題の達成度			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
	他()		0%	-			
合計		100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	オリエンテーション ペープサートについて①	事前	ペープサートの動画を視聴し、ペープサートについて理解を深める。			90分
			概要	授業の進め方と到達目標を確認する。ペープサートについて理解を深め、物語の構成を考える。			担当 米窪
			事後	ペープサートの動画を視聴し、物語の進行方法をまとめる。			150分
	2	ペープサートについて②	事前	ペープサートの動画を視聴し、デザインについて調べる。			90分
			概要	パネル人形のデザインについて学ぶ。			担当 米窪
			事後	パネル人形のデザインを考える。			150分
	3	ペープサートについて③	事前	パネル人形のデザインを考える。			90分
			概要	パネル人形の作り方を学ぶ。			担当 米窪
			事後	パネル人形の制作。			150分
	4	ペープサートについて④	事前	パネル人形の制作。			90分
			概要	パネル板の作り方を学ぶ。			担当 米窪
			事後	発表のための練習を行う。			150分
	5	ペープサートについて⑤	事前	発表のための練習を行う。			90分
			概要	完成したペープサートを発表し合うことで、表現方法について理解を深める。			担当 米窪
			事後	発表を振り返り、改善点などをまとめる。			150分
	6	模擬保育①	事前	模擬保育についての企画を考える。			90分
			概要	模擬保育の企画と役割分担を決める。			担当 米窪
			事後	模擬保育の企画と役割についてまとめる。			150分

授 業 計 画 等	7	模擬保育②	事前	クループの活動内容について案を考える。		90分
			概要	グループごとに活動内容を計画する。	担当	米窪
			事後	個人の役割についてまとめ、今後のスケジュールを立てる。		150分
	8	模擬保育③	事前	教材の案を考える。		90分
			概要	グループごとに模擬保育で用いる教材の試作を行う。	担当	米窪
			事後	教材の改善点をまとめる。		150分
	9	模擬保育④	事前	材料の準備を行う。		90分
			概要	グループごと試作した教材の改善を行い、材料等の準備を行う。	担当	米窪
			事後	材料の準備を行う。		150分
	10	模擬保育⑤	事前	材料の準備を行う。		90分
			概要	模擬保育の指導法方について確認を行う。	担当	米窪
			事後	指導方法について修正や改善点をまとめる。		150分
	11	模擬保育⑥	事前	装飾のデザインを考える。		90分
			概要	夏祭りの会場の装飾を製作する。	担当	米窪
			事後	装飾の準備を行う。		150分
	12	模擬保育⑦	事前	装飾の準備を行う。		90分
概要			全体の進行を確認し、模擬保育の最終確認を行う。	担当	米窪	
事後			全体として必要なものの準備を行う。		150分	
13	保育実践①	事前	模擬保育の準備を行う。		90分	
		概要	会場の飾り付けと最終の準備を行う。	担当	米窪	
		事後	模擬保育の準備を行う。		150分	
14	保育実践②	事前	模擬保育の準備を行う。		90分	
		概要	園児を招いて模擬保育を実践する。	担当	米窪	
		事後	片付けと個人の振り返りを行う。		150分	
15	保育実践③	事前	模擬保育における個人の振り返りをまとめる。		90分	
		概要	模擬保育の振り返り。(全体)	担当	米窪	
		事後	模擬保育の反省と改善点をまとめる。		150分	
16	定期試験	レポート		担当	米窪	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
2		3) 4)	なし		なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 米窪研究室		該当せず				
その他 (特記事項等)						
・ペーパーサートの作成に 2,000 円程度の材料費がかかります。						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
23	教育実習指導	高橋 典子 齋藤 博紀	1	30	演習	1年後期 2年前期	選択 (免必)
科目概要(講義目的)		1) 幼児教育に関する理論と実践を統合的に理解し、幼稚園教諭等の職に就くことに向けての自己課題を知る。 2) 実習という具体的な経験を通して幼児教育を学ぶことを理解し、保育実践に必要な知識や方法を身に付ける。 3) 子どもの発達過程や興味関心に合わせた指導計画の立案方法を身に付け、責任実習に基づく省察・自己評価について理解する。					
到達目標		幼稚園・認定こども園における教育を理解できる。 実習記録の書き方や指導計画の立て方について理解し、実践できる。 実習を振り返り自己課題を追求できる。					
学習方法		テキスト・配布資料等をもとに、講義および演習形式で授業を行う。 1年次に1回から7回、2年次に8回から15回の授業を行う。					
課題のフィードバック		各自の課題に解説を記し、後日の授業内において返却および口頭で解説を行う。					
教員からのメッセージ		実習は、現場でしか出会うことのできない事柄から学ぶ場です。自信を持って臨めるようにしっかりと準備をしていきましょう。					
テキスト		保育・教育実習スタートブック 生田恵津子他著 ふくろう出版：2024 これからの時代の保育者養成・実習ガイド 大豆生田啓友他編 中央法規：2020					
参考書		なし					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	50%	レポート論述試験
事前・事後学習課題	50%	授業内および自己学習で得た知識等の記載内容	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
他()	0%	—	
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		時間
	1	教育実習の意義と目的 自己課題	事前	幼稚園教育要領第一章総則 保育・教育実習スタートブックを読む。	
概要			教育実習の意義と目的、計画、手続き等について理解する。	担当 高橋 齋藤	
事後			必要書類の清書をする。		30分
2	オリエンテーションについて 子ども理解	事前	テキスト P36-48 を読み、自分自身に必要なことを書き出す。		30分
		概要	オリエンテーションの内容を確認し理解する。 子どもの姿から学ぶ意味を理解する。	担当 高橋 齋藤	
		事後	巡回指導依頼書を書く。		30分
3	子ども理解と実習記録	事前	テキスト P49-61 の事例にある子どもの思いについてまとめる。		30分
		概要	子どもの様子からその思いを理解する。 実習記録の記述方法を理解する。	担当 高橋 齋藤	
		事後	授業で行った実習記録演習の書き直しをする。		30分
4	部分実習について 指導計画の意味	事前	絵本の選定をし、読み聞かせの練習を10回以上行う。		30分
		概要	具体的な保育方法を理解し身に付ける。(絵本の読み方) 指導計画の必要性について理解する。	担当 高橋 齋藤	
		事後	各年齢に合った絵本を選定し、読み聞かせ練習を10回以上行う。		30分
5	指導計画の作成	事前	部分実習の指導計画を作成する②		30分
		概要	ふさわしい指導計画の記述方法を理解する。	担当 高橋 齋藤	
		事後	部分実習の指導計画を作成する③		30分
6	教育実習1年次事後指導① 実習の振り返り	事前	実習評価表による自己評価を行う。		30分
		概要	園からの評価を通して実習内容を振り返る。	担当 高橋 齋藤	
		事後	実習記録の見直しをする。		30分

授 業 計 画 等	7	教育実習1年次事後指導② 実習の振り返り	事前	実習報告書を書く。	30分
			概要	実習報告書から実習成果と今後の課題を明確にする。	担当 高橋 齋藤
			事後	次回教育実習での実習目標を設定する。	30分
	8	教育実習の意義と目的 自己課題	事前	幼稚園教育要領第一章総則 保育・教育実習スタートブックを読む。 前回教育実習振り返りからの実習目標を見直す。	30分
			概要	教育実習の意義と目的、計画、手続き等について理解する。 自己課題を設定する。	担当 高橋 齋藤
			事後	必要書類の清書をする。	30分
	9	オリエンテーションについて 子ども理解	事前	テキスト P36-48 を読み、自分自身に必要なことを書き出す。	30分
			概要	オリエンテーションの内容を確認し理解する。 子どもの姿から学ぶ意味を理解する。	担当 高橋 齋藤
			事後	巡回指導依頼書を書く。	30分
	10	子ども理解と実習記録	事前	1年次教育実習記録を読み返す。	30分
			概要	子どもの様子からその思いを理解し保育者のかかわりの意図を 理解する。実習記録の記述方法（エピソード記述）を理解する。	担当 高橋 齋藤
			事後	授業で行った実習記録演習の書き直しをする。	30分
	11	子ども理解と指導計画作成①	事前	部分実習の指導計画を作成する。	30分
			概要	部分実習の指導計画を見直し修正する。	担当 高橋 齋藤
			事後	主活動の内容を考える。必要な環境構成について考え準備する。	30分
	12	子ども理解と指導計画作成②	事前	主活動の内容を考える。必要な環境構成について考え準備する ①	30分
概要			主活動の指導計画作成にあたり必要な環境につい て準備をする①	担当 高橋 齋藤	
事後			主活動の指導計画を作成する①	30分	
13	子ども理解と指導計画作成③	事前	主活動の内容を考える。必要な環境構成について考え準備する ②	30分	
		概要	主活動の指導計画作成にあたり必要な環境につい て準備をする②	担当 高橋 齋藤	
		事後	主活動の指導計画を作成する②	30分	
14	教育実習2年次事後指導① 実習の振り返り	事前	実習評価表による自己評価を行う。	30分	
		概要	園からの評価を通して実習内容を振り返る。	担当 高橋 齋藤	
		事後	実習報告書を書く。	30分	
15	教育実習2年次事後指導① 実習の振り返り	事前	実習報告書から実習成果と今後の課題を明確にする。	30分	
		概要	幼稚園教諭等としての倫理観、使命感、役割につ いて理解する。	担当 高橋 齋藤	
		事後	振り返りレポートを記述する。	30分	
16	定期試験	レポート論述試験	担当 高橋 齋藤		
D P との関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
3		5)	なし		幼稚園教育要領 第一章総則を読む。 保育・教育実習スタートブックに目を通す。
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：高橋研究室 齋藤研究室		幼稚園現場経験を踏まえ、実習に必要な事項について具体的指導を行う。 (高橋)			
その他(特記事項等)					
なし					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
24	教育実習	山田 生田 永石 田中 山藤 米窪 高橋 黒田 田岡 齋藤 (博)	4	180	実習	1年後期 2年通年	選択 (免必)
科目概要 (講義目的)		1) 幼児教育に関する理論と実践を統合的に理解する。 2) 幼児の発達過程や興味関心に合わせた指導計画の立案と実践について理解する。 3) 責任実習に基づく省察・自己評価等について具体的に理解する。 4) 幼稚園教諭等としての倫理観、使命感を体験的に学ぶ。 5) 幼稚園教諭等の職に就くことに向けての自己課題を明確にする。					
到達目標		幼稚園・認定こども園の保育の実際、保育者の仕事について理解できる。 観察・参加・責任実習等、具体的な経験を通して、理論と実践を繋ぐ幼児教育の内容・方法や、保育者に求められる資質や専門性について理解できる。					
学習方法		幼稚園・認定こども園 (幼保連携型又は幼稚園型) において 10 日間の実習を行う。					
課題のフィードバック		実習園において担当保育者より指導を受ける。 教育実習指導振り返り授業内において解説を行う。					
教員からのメッセージ		自己課題を明確にし、実習に臨みましょう。 幼稚園教諭等の職に就くイメージが持てるよう、多くの経験をし学んできてください。					
テキスト		保育・教育実習スタートブック 生田恵津子他著 ふくろう出版：2024 これからの時代の保育者養成・実習ガイド 大豆生田啓友他編著 中央法規：2020					
参考書		なし					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	実習園評価	80%	実習評価表による 5 段階評価				
	巡回指導者評価	20%	実習訪問記録による 3 段階評価				
	他 ()	0%	—				
	他 ()	0%	—				
	他 ()	0%	—				
合計		100%	—				
教育内容等	1) 2 年次での実習課題を明確にし、次週課題に取り組む。 2) 次週記録の書き方や指導計画の立て方について理解し、実践する。 3) 観察及び参加実習に加え、責任実習 (部分実習、全日実習) に取り組む。 4) 実習生としての自覚や責任感を持って実習に取り組む。 5) 実習後の振り返りを通して、今後の学習課題を明確にする。 ※上記について、文部科学省基準に基づき、幼稚園・認定こども園 (幼保連携型又は幼稚園型) において 10 日間の実習を行う。						

実施については実習生受け入れ施設の実習指導計画に基づく。

授
業
計
画
等

DPとの関連	学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること
3	5)	実習指導科目の別規定に拠る。	各自の実習園について調べ、特色を知っておく。 1年次教育実習において得た自己課題を明確にし、本実習の目標をたてる。
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性	
各教員のオフィスアワーを確認すること。		各教員の実務経験に拠る。	
その他（特記事項等）			
なし			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
25	保育実習指導Ⅱ	生田 惠津子 高橋 典子	1	15	演習	2年前期	選択 (保選必)
科目概要(講義目的)		保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、既修得科目で得た知見や実習経験を生かし、指導計画の立案、実践ができるようになるとともに、自己の課題を明確化できる。					
到達目標		1) 既修得科目やこれまでの教育・保育実習、園交流などでの学びをもとに指導計画が立案できる。 2) 実践を可能とする保育の知識・技術を身につける。 3) 保育の今日的課題に目を向け説明できる。					
学習方法		実習先の確保、オリエンテーションなど保育実習Ⅰと同様の手続きを進める。 実践に向け、指導計画を立案し、模擬保育を通して修正力や応用力を身につける。					
課題のフィードバック		授業資料、課題などはteamsに当該科目のクラスを作成し、データをアップロードします。 連絡・質問・返答などは、teamsのchatを使います。個々の相談はe.ikuta@matsutan.ac.jpでも受け付けます。					
教員からのメッセージ		キャリアを見据えての選択です。実習の先に子ども達がいることをしっかり自覚して臨んでください。 授業コマ数が少ないので、実践的取り組みが中心になりますが、相談は授業外でも受けますから安心してください。					
テキスト		保育・教育実習スタートブック(ふくろう出版 2024) これからの時代の保育者養成・実習ガイド(中央法規 2020)					
参考書		保育所保育指針(フレーベル館) 遊びの指導(同文書院)					
成績 評価 方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	30%	調べ学習の成果など				
	受講状況	40%	グループワークの準備と参加状況				
	提出物	30%	実習に関する書類の準備、期限内の提出など				
	他()	0%	-				
	他()	0%	-				
	他()	0%	-				
	合計	100%	-				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
	1	保育実習Ⅱの意義と目的	事前	実習希望園を3か所選び、保育内容や環境について調べる。			100分
			概要	保育実習Ⅱの目的を理解し、実習先確保・調整をする。			担当 生田・高橋
			事後	実習申込書を作成する。			120分
	2	実習先の確保	事前	実習依頼をする。			100分
			概要	自治体や園、保育所・認定こども園による違いを理解し準備する。			担当 生田・高橋
			事後	決定した園について調べる。			100分
	3	指導計画①(部分実習)	事前	部分実習の指導計画を立てる。			100分
			概要	指導計画を発表し、内容別グループを作る。			担当 生田・高橋
			事後	模擬保育用の指導計画を作る。			120分
	4	模擬保育	事前	模擬保育の準備をする。			60分
			概要	グループ発表(模擬保育)			担当 生田・高橋
			事後	3つの模擬保育を指導計画に起こす。			180分
	5	指導計画②(主活動)	事前	主活動の指導計画を立てる。			160分
			概要	グループに分かれて、模擬保育の進め方を決める。			担当 生田・高橋
			事後	オリエンテーション報告書作成。			60分
	6	模擬保育	事前	模擬保育準備。			60分
			概要	グループ発表(模擬保育)			担当 生田・高橋
			事後	3つの模擬保育を指導計画に起こす。			180分

授 業 計 画 等	7	実習直前指導	事前	実習に必要なものを確認しておく。		60分
			概要	実習直前の確認/ 日誌・出勤簿・検温表・細菌検査結果・持ち物等	担当	生田・高橋
			事後	確認不足の無いよう準備する。		60分
8	実習事後指導	事前	実習報告書作成。		180分	
		概要	実習の振り返り発表。	担当	生田・高橋	
		事後	自己課題を明確にし、今後の学びの計画を立て提出する。		180分	
9	定期試験	筆記試験		担当	生田・高橋	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
3		5)	保育実習指導 I、保育実習 I の単位を修得済みであること。		保育実習 I の振り返りをし、課題を明確化しておく。	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性				
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 生田研究室		保育士、園長として保育実習生受け入れ経験を持つ教員が、保育所実習について具体的に教授する。				
その他（特記事項等）						
teams のクラス内で、資料の共有や連絡を行います。できるだけ自身の PC を授業で活用できるよう準備してください。						

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
26	保育実習Ⅱ	山田 生田 永石 田中 古谷 山藤 米窪 高橋 黒田 田岡 齋藤	2	90	実習	2年前期	選択 (保選必)
科目概要（講義目的）		1) 保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 2) 子どもの観察や関わりについて、具体的な実践を通して理解を深める。 3) 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に理解する。 4) 保育の計画・実践・観察記録および自己評価などに、実際に取り組み、理解を深める。 5) 保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践と結びつけて理解する。 6) 実習における自己の課題を明確にする。					
到達目標		1) これまでの学びの上に、実際の場面を通して、子どもの捉え方、子ども理解について学び、適切な子どもとの関わりや援助の仕方を身につける。 2) 保育の計画・実践・記録・省察の中から、自己評価に基づく自己の課題を説明できる。					
学習方法		保育計画をもとに、部分実習・主活動・一日実習等を行う。					
課題のフィードバック		実習前後に別途時間を設け事前の必要な指導及び事後に個々へのフィードバックと全体での実習報告会を行う。					
教員からのメッセージ		進路を見据え、自己の課題を明確にしてほしいと思います。					
テキスト		なし					
参考書		保育・教育実習スタートブック（ふくろう出版 2024）これからの時代の保育者養成・実習ガイド（中央法規 2020）					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	実習園評価	80%	実習評価表による				
	巡回指導者評価	20%	実習訪問記録による				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
合計		100%	—				
教育内容等	1、保育所の役割や機能を具体的に学ぶ （1）養護と教育が一体的に展開される保育の実際を学ぶ （2）保育所の社会的役割と責任を知る 2、観察に基づいた保育の理科を学ぶ （1）子どもの心身の状態や活動の観察をする （2）保育士等の援助や関わりを学ぶ （3）保育所の生活の流れや、展開を把握する 3、子どもの保育及び保護者支援、地域との連携を知る （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に展開される保育の実際を学ぶ （2）保護者に対する子育て支援や地域との関わりの様子を観察する 4、指導計画の立案・実践・観察・記録・評価について学ぶ （1）全体的な計画に基づく指導計画の実際を知る （2）作成した指導計画に基づく保育実践とその評価をする 5、保育士の業務と職業倫理について理解する （1）多様化する保育ニーズについて知り、保育士の業務を知る （2）多様な保育の展開と、求められる保育士の職業倫理について理解する 6、自己課題を明確化する ※上記について、保育実習実施基準に基づき、保育所・認定こども園（幼保連携型または保育所型）において10日間の実習を行う。						

実施については、実習生受け入れ施設の実習指導計画に基づき実施する。

授
業
計
画
等

DPとの関連	学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること
3	5)	保育実習Ⅰの単位を取得済みであること。	保育実習指導Ⅱ 実習事前学習
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性	
各教員のオフィスアワーを確認すること。		該当せず	
その他（特記事項等）			
なし			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
27	保育実習指導Ⅲ	田岡 紀美子	1	15	演習	2年前期	選択 (保選必)
科目概要(講義目的)		保育実習を行う意義等を理解し、実習に必要な準備を行う。加えて、既習教科での知見を活かして個別支援計画及び自立支援計画等の立案、展開方法等を理解する。事後指導では、振り返りを通して施設保育士の専門性や職業倫理を理解するとともに、自身の課題等を明確にする。					
到達目標		子ども(利用者)の状態に応じた適切な関わりや保育の全体計画に基づく具体的否計画と実践などを理解している。また実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にできる。					
学習方法		テキストや配布資料、保育・教育実習スタートブックなどをもとに、演習形式で展開する。					
課題のフィードバック		授業資料、課題などは、teamsで当該科目のクラスを作成し、データ(主にPDF)をアップロードします。また、課題は授業内で返却し、フィードバックを行ないます。質問等に関しては、teams内で作成した、クラスにて受け付けるとともに、返答も個々に行ないます。また、質問に関しては、k.taoka★matsutan.ac.jp(★を@に変更して下さい)でも受け付けます。					
教員からのメッセージ		保育実習Ⅰ(施設)での経験・体験を活かしながら、高度な専門性が身につけられるように取り組みましょう。					
テキスト		生田恵津子他「保育・教育実習スタートブック」ふくろう出版(2024)					
参考書		なし					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	50%	レポート試験				
	実習事前提出物	30%	実習に必要な様式等				
	実習事後レポート	20%	実習報告				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	合計	100%	—				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	保育実習Ⅲの目的①(実習席の選定を含む)	事前	実習を希望する施設の種別、依頼したい施設について調べておく。			60分
			概要	既習科目の内容を踏まえた実習の意義を理解する。また、実習希望施設への依頼調整を行う。			担当 田岡
			事後	実習希望先に連絡、実習依頼を行う。			60分
	2	保育実習Ⅲの目的②(実習希望先の施設で何を学ぶのか)	事前	実習申込書に必要事項を記入し、提出の準備をする。			60分
			概要	保育実習Ⅲで実習可能となる施設の理解と自身が希望する施設の概要を理解する。			担当 田岡
			事後	実習施設の概要を調べ、実習概要書を記入する。			120分
	3	実習の各段階と実習内容	事前	保育・教育実習スタートブックの実習基本計画を確認し、実習内容を理解する。			60分
			概要	保育実習Ⅲの実習初期・中期・後期における学習内容について学ぶ。			担当 田岡
			事後	実習内容を確認し、実習課題・実習行動計画を考える。			180分
	4	実習課題の設定	事前	実習目標を明確にし、実習行動計画を決定する。			60分
			概要	実習目標及び、各々の実習達成方法や事前学習の内容等を設定する。			担当 田岡
			事後	実習施設の種別に合わせた文献を読み、レポートにまとめる。			180分
	5	個別(自立)支援計画・指導案(レクリエーション企画案)について	事前	既習科目を思い出し、個別(自立)支援計画もしくは指導案の作成方法を復習しておく。			180分
			概要	各実習種別に合わせて、個別(自立)支援計画もしくは指導案の作成準備をする。			担当 田岡
			事後	配布された事例をもとに個別(自立)支援計画もしくは指導案を作成する。			180分
	6	実習に際しての留意事項	事前	保育・教育実習スタートブック及びこれまでに配布された資料を確認する。			60分
			概要	実習中の心構え他、守秘義務について理解する。また、オリエンテーションを受ける準備をする。			担当 田岡
			事後	オリエンテーション日程の調整をする。オリエンテーションの際に確認する事項を振り返る。			120分

授 業	7	実習直前指導	事前	実習に必要な書類等の確認をする。必要書類が整っていない場合は、整える。	120分
			概要	保育・教育実習スタートブックに添いながら、重要事項の最終確認等を行う。	担当 田岡
			事後	実習に向けて必要なものを整える。	120分
計 画 等	8	事後指導・実習の総括と課題の明確化	事前	実習報告書、課題書、自己評価を作成する。	120分
			概要	実習後の各取り組みの内容を整理して、総括として実習報告書を作成する。	担当 田岡
			事後	実習評価を確認し、自身の課題を明確にする。	120分
	9	定期試験	筆記試験	担当 田岡	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること
3		5)	保育実習指導 I ・保育実習 I が履修済みであること。		保育実習 I (施設) の振り返りを行い、自身の課題を明確にしておくこと。
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
日時：毎週木曜日 5 時限 場所：2 号館 3 階 田岡研究室		該当せず			
その他 (特記事項等)					
資料を teams で配布するので、できるだけ自身の PC に配布資料をダウンロードして、授業で活用してください。					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
28	保育実習Ⅲ	山田・生田・永石・田中山藤・米窪・高橋・黒田田岡・齋藤	2	90	実習	2年前期	選択 (保選必)
科目概要(講義目的)		既習科目や保育士体験・保育実習Ⅰ・園交流などでの学びの上に子どもの姿の捉え方と、そこから始まる保育計画、その実践を可能にする保育の知識、技術を学ぶ。また、保育の今日的課題に触れることで、自身の将来の目標などについて考える機会とする。					
到達目標		保育所以外の児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解している。特に、家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断能力を修得している。					
学習方法		社会福祉施設等での実践					
課題のフィードバック		実習前後に別途時間を設け事前の必要な指導及び事後に個々へのフィードバックと全体での実習報告会を行う。					
教員からのメッセージ		実習を通して、保育士に求められる技術、専門職倫理について学ぶことを期待しています。					
テキスト		なし					
参考書		生田恵津子他「保育・教育実習スタートブック」(ふくろう出版)(2024)					
成績 評価 方法	評価項目	配分%	評価基準				
	実習施設の評価	80%	実習先からの評価				
	巡回指導者の評価	20%	実習巡回指導者の評価				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	他()	0%	—				
	合計	100%	—				
授 業 計 画 等	回	項目	内容				
		1. 養護全般に参加し、援助技術を修得する。					
		(1) 保育士の職務を理解し、日々の生活を通してその役割を学ぶ。					
		2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を修得する。					
		(1) 子どもに共感し、受容する態度を修得する。					
		(2) 発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。					
		3. 援助計画を立案し、実際に実践する。					
		(1) 援助計画を立案し、指導担当職員の元で実践する。					
		4. 家族支援の内容を具体的に修得する。					
		(1) 保護者との関わりを通してコミュニケーションの方法を学ぶ。					
		5. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。					
		(1) 地域の子育て支援のニーズを理解し、施設の役割について学ぶ。					
		(2) 地域の社会資源との連携について理解する。					
		6. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。					
		(1) 子どもの権利擁護の実際について学ぶ。					
	(2) 保育士の援助の方法や対応から、その姿勢を学ぶ。						
	7. 保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ。						
	(1) 守秘義務の遵守について、実際に理解する。						
	(2) 保育士の具体的な職業倫理について学ぶ。						
	8. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質、能力、技術に照らし合わせ自己の課題を明確化する。						
	(1) 施設保育士に必要な専門性について理解する。						
	(2) 実習を通して得た問題や課題を確認し、それらを実現させる具体的な方法について検討する。						
	※上記について、保育実習実施基準に基づき、指定された施設において概ね10日間程度の実習を行う。						

実施については、実習生受け入れ施設の実習指導計画に基づき実施する。

授
業
計
画
等

DPとの関連	学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること
3	5)	保育実習指導Ⅰ及び保育実習Ⅰが履修済みであること。	既習科目の振り返り、特に社会的養護Ⅰ及び社会的養護Ⅱに関する振り返りをしておくこと。
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性	
各教員のオフィスアワーを確認すること。		各教員の実務業績を確認すること。	
その他（特記事項等）			
<p>※再掲：実習前後に別途時間を設け事前に必要な指導及び事後に個々へのフィードバックと全体での実習報告会を行う。</p>			

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
29	保育・教職実践演習 (幼稚園)	田中 山藤 米窪 高橋 黒田 齋藤(博)	2	30	演習	2年後期	必修
科目概要(講義目的)		保育・教職に関する学修内容を確認し、それを基に実践力を充実させるためにグループワークにより模擬授業等を行い学び合う。地域や幼稚園との連携を図り、学生の主体的な計画により保育の実践力を高める。					
到達目標		1) 保育に必要な専門知識及び技術、総合的な判断力、倫理観等の習得・形成の状況と、自己課題を説明できる。 2) 保育実践に求められる基礎的資質・能力を身につけている。					
学習方法		授業テーマに応じて資料を配布する。指導計画に基づく模擬保育、グループワーク、ロールプレイ、園児との交流や実践に対する評価を行う。					
課題のフィードバック		事後学習における疑問点等は、授業内において解説する。事前学習における課題は翌授業回にコメントを付し返却する。最終課題は定期試験日に返却する。					
教員からのメッセージ		実践的な学びを通じて、保育者として求められる資質・能力を理解し、習得しましょう。					
テキスト		なし					
参考書		幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					

成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準
	定期試験	55%	レポート課題
	事前・事後学習課題	30%	自己学習で得た知識、疑問点の記載内容(2点×15回)
	リアクションペーパー	15%	各授業回のリアクションペーパー(1点×15回)
	他()	0%	—
	他()	0%	—
	他()	0%	—
合計		100%	—

授業計画等	回	項目	内容		
	1	オリエンテーション	事前	2年間分の教職履修カルテをもとに、保育・教職課程の履修内容を振り返り、まとめておく。	90分
概要			授業のねらい及び内容について確認する。	担当 全担当教員	
事後			概要を理解し、解決できていない自己課題を明確化しておく作業を行う。	150分	
2		自己課題の発見	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	履修カルテ、実習日誌を振り返り、自己の課題を明確にする。	担当 全担当教員
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分
3	模擬保育の準備1	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	活動内容の選定及び指導案の作成を行う。	担当 全担当教員	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分	
4	模擬保育の準備2	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	グループごとに模擬保育に向けての役割分担を行う。	担当 全担当教員	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分	
5	模擬保育の準備3	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	グループごとに役割に添って模擬保育の準備を行う。	担当 全担当教員	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分	
6	模擬保育の準備4	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	グループごとに役割に添って模擬保育の準備を行う。	担当 全担当教員	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分	

授 業 計 画 等	7	模擬保育の準備 5	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	グループごとに役割に添って模擬保育の準備を行う。	担当 全担当教員
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分
	8	模擬保育の準備 6	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	グループごと、各自に分担された作業を進める。	担当 全担当教員
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分
	9	模擬保育の準備 7	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	グループごと、各自に分担された作業を進める。	担当 全担当教員
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分
	10	模擬保育の準備 8	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	グループごと、各自に分担された作業を進める。	担当 全担当教員
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分
	11	模擬保育の準備 9	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
			概要	グループごと、各自に分担された作業を進める。	担当 全担当教員
			事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分
	12	模擬保育の準備 10	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分
概要			グループごとに指導案と準備の確認を行う。	担当 全担当教員	
事後			配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分	
13	模擬保育 1	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	園児との交流を通し、保育者に求められる表現力について学ぶ。	担当 全担当教員	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分	
14	模擬保育 2	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	園児との交流を通し、自己の指導力・表現力について考察する。	担当 全担当教員	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分	
15	まとめ	事前	授業内容とキーワードを予告するので、それについて事前に調べておくこと。	90分	
		概要	模擬保育の反省と2年間の学びの振り返りを行う。	担当 全担当教員	
		事後	配布したプリントを読み返し、不明な点があれば、自分で調べること。各グループ学習の教員の指示に従い、各自行う。	150分	
16	定期試験	レポート課題	担当 全担当教員		
DPとの関連		学習成果との関連	履修条件	受講前に学習すること	
3		5)	なし	なし	
オフィスアワー		実務経験と授業科目との関連性			
各教員のオフィスアワーを確認すること。		それぞれの勤務・活動経験を踏まえ、実践的な授業を展開する。			
その他（特記事項等）					
事後学習のミニレポートは、得た知識の内容や疑問点を列記するだけでなく、保育実践と関係づけてまとめるとなお良い。 (A 4用紙、横書き、手書きでも可)					

No.	科目名	担当教員	単位数	時間数	授業形態	開講時期	必修・選択別
30	応用ゼミナール	山田・生田・永石・田中山藤・米窪・高橋・黒田田岡・斎藤	2	60	演習	2年通年	必修
科目概要（講義目的）		各ゼミごとに卒業研究のテーマを設定し、問題を深く掘り下げ、解決する態度を養う。					
到達目標		1) 卒業研究テーマについて、課題を探求することができる。 2) 主体的・能動的に研究し、まとめ、発表することができる。					
学習方法		ゼミナールで、ディスカッション、体験、実験学習を行う。 ゼミナールにて、研究課題について調べる。					
課題のフィードバック		事前学習、事後学習における課題は翌授業開始前にコメントを付し返却する。 最終課題のコメントは翌週に研究室にて返却する。					
教員からのメッセージ		各ゼミナールで、ディスカッション、体験学習、実験学習をおこないましょう。					
テキスト		各ゼミナールで選択する。					
参考書		各ゼミナールで選択する。					
成績評価方法	評価項目	配分%	評価基準				
	定期試験	100%	ゼミ活動内容（50%）、研究計画（50%）				
	事前・事後学習課題	0%	—				
	授業内小テスト	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	他（ ）	0%	—				
	合計	100%	—				
授業計画等	回	項目	内容				
	1	ゼミナールオリエンテーション	事前	卒業研究のテーマを確認する。			30分
			概要	卒業研究の進め方、内容について確認する。	担当	*ゼミ担当教員	
			事後	各自の研究のテーマを確認する。			30分
	2	研究テーマの設定①	事前	研究テーマ①を考える。			30分
			概要	研究テーマ①の検討。	担当	*ゼミ担当教員	
			事後	研究テーマ①の検討の修正。			30分
	3	研究テーマの設定②	事前	研究テーマの決め方から、再考察する。			30分
			概要	研究テーマ②の再確認。	担当	*ゼミ担当教員	
			事後	研究テーマ②の内容を深める。			30分
	4	研究テーマの設定③	事前	研究テーマの決定③の準備。			30分
			概要	研究テーマの設定③	担当	*ゼミ担当教員	
			事後	研究テーマの再確認③			30分
	5	研究目的・方法①	事前	研究目的・方法を明確にする。			30分
			概要	研究目的・方法を明確にする①	担当	*ゼミ担当教員	
			事後	研究目的・方法①の修正。			30分
	6	研究目的・方法②	事前	研究目的・方法の修正②			30分
			概要	研究目的・方法②	担当	*ゼミ担当教員	
			事後	研究目的・方法を整理する②			30分

授 業 計 画 等	7	情報収集①	事前	情報収集①の準備。		30分
			概要	情報収集①	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	情報収集①の修正。		30分
	8	情報収集②	事前	情報収集データ化する準備②		30分
			概要	情報収集データの再確認②	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	情報収集データの確認②		30分
	9	研究課題①	事前	研究課題に関する情報収集①		30分
			概要	研究課題の検討①	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	研究課題を明確にする①		30分
	10	研究課題②	事前	研究課題に関する情報の再収集②		30分
			概要	情報課題の再収集②	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	情報課題の再収集の整理②		30分
	11	教材研究・創作活動①	事前	教材の準備、創作の準備①		30分
			概要	教材研究、製作活動①	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教育研究、製作活動の整理①		30分
	12	教材研究・創作活動②	事前	教材研究、製作活動の準備②		30分
概要			教材研究、創作活動②	担当	*ゼミ担当 教員	
事後			教材研究、創作活動の整理②		30分	
13	教材研究・創作活動③	事前	教材研究、創作活動の準備③		30分	
		概要	教材研究、創作活動③	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	教材研究、創作活動③		30分	
14	教材研究・創作活動④	事前	教材研究、創作活動の準備④		30分	
		概要	教材研究、創作活動の準備④	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	教材研究、創作活動の準備④		30分	
15	前期・まとめ	事前	前期まとめの準備。		30分	
		概要	前期活動の総括。	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	前期活動の整理。		30分	
16	前期のゼミ内成果発表	事前	ゼミ内発表（中間）準備。		30分	
		概要	ゼミ内発表（中間）	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	ゼミ内発表（中間）の振り返り		30分	

授 業 計 画 等	17	オリエンテーション（後期）	事前	後期の卒業研究準備		30分
			概要	後期のオリエンテーション 卒業研究の計画	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	卒業研究計画の検討		30分
	18	教材研究・創作活動①	事前	教材研究・創作活動①準備 研究計画書の修正		30分
			概要	教材研究・創作活動① 研究計画書	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動①の修正		30分
	19	教材研究・創作活動②	事前	教材研究・創作活動②準備		30分
			概要	教材研究・創作活動②	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動②の修正		30分
	20	教材研究・創作活動③	事前	教材研究・創作活動③準備		30分
			概要	教材研究・創作活動③	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動③修正		30分
	21	教材研究・創作活動④	事前	教材研究・創作活動④準備		30分
			概要	教材研究・創作活動④	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	教材研究・創作活動④修正		30分
	22	卒業研究草案①	事前	卒業研究草案①準備		30分
			概要	卒業研究草案①	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	卒業研究草案①の修正		30分
	23	卒業研究草案②	事前	卒業研究草案②準備		30分
			概要	卒業研究草案②	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	卒業研究草案②修正		30分
	24	卒業研究草案③	事前	卒業研究草案③準備		30分
			概要	卒業研究草案③	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	卒業研究草案③修正		30分
25	卒業研究修正案①	事前	卒業研究修正案①準備		30分	
		概要	卒業研究修正案①	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	卒業研究修正案①見直し		30分	
26	卒業研究修正案②	事前	卒業研究修正案②準備		30分	
		概要	卒業研究修正案②	担当	*ゼミ担当 教員	
		事後	卒業研究修正案②見直し		30分	

授 業 計 画 等	27	卒業研究修正③	事前	卒業研究修正③準備		30分
			概要	卒業研究修正③	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	卒業研究修正③の見直し		30分
	28	卒業研究、修正④	事前	卒業研究修正④準備		30分
			概要	卒業研究修正④	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	卒業研究修正④見直し		30分
	29	卒業研究発表準備①	事前	卒業研究発表準備①		30分
			概要	卒業研究発表準備①	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	卒業研究発表準備①見直し		30分
	30	卒業研究発表準備②	事前	卒業研究発表準備②		30分
			概要	卒業研究発表準備②	担当	*ゼミ担当 教員
			事後	卒業研究発表準備②見直し		60分
31	定期試験			担当	*ゼミ担当 教員	
D Pとの関連		学習成果との関連	履修条件		受講前に学習すること	
1～5		1)～10)	なし		なし	
オフィスアワー			実務経験と授業科目との関連性			
日時：各ゼミごと 場所：各ゼミごと			各ゼミ担当			
その他（特記事項）等						
1) 各ゼミ担当作成のシラバスが別途（各ゼミのシラバス）を必読のこと。						
2) *応用ゼミナール教員：山田、生田、永石、田中、山藤、米窪、高橋、黒田、齋藤						

V. 教員担当科目一覧

令和7年度 幼児保育学科 専任教員担当科目一覧

氏 名	担 当 科 目
山 田 真 治	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 子どもと音楽表現 子どもと身体表現 子どもの音楽Ⅰ 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
生 田 恵津子	保育原理 保育内容 総論 子どもと絵本 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅱ 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 応用ゼミナール
永 石 喜代子	子どもの保健 子どもと健康と安全 生命倫理 子ども家庭支援論 特別な支援を必要とする子どもの理解と方法 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
田 中 秀 明	保育・教育の心理学 子ども家庭支援論の心理学 子どもの理解と援助 保育・教育相談 こころの科学 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
古 屋 顕 一	健康と運動Ⅰ 健康と運動Ⅱ 保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 子どもと健康 子どもと運動遊び 生涯スポーツⅠ 生涯スポーツⅡ 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール
山 藤 宏 子	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係) 子どもと人間関係 ことばと表現 保育内容の指導法Ⅲ(言葉) 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
米 窪 洋 介	地域交流実践 保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現) 子どもと造形表現 いのちと環境 子どもと造形表現論 保育・教職実践演習(幼稚園) 幼児保育特講 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
高 橋 典 子	乳児保育Ⅰ 乳児保育Ⅱ 子どもと環境 教育実習指導 教育実習 保育実習指導Ⅰ 保育実習指導Ⅱ 保育実習ⅠⅡⅢ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
黒 田 和 子	教育原理 保育者論 教育課程の編成と評価 幼児教育の方法 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 保育・教職実践演習(幼稚園) 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
田 岡 紀美子	社会福祉 社会的養護Ⅰ 社会的養護Ⅱ 子ども家庭福祉 保育実習指導Ⅰ 子育て支援 保育実習指導Ⅲ 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール
齋 藤 博 紀	英語表現 キャリア形成Ⅰ キャリア形成Ⅱ 保育・教職実践演習(幼稚園) 教育実習指導 教育実習 保育実習ⅠⅡⅢ 基礎ゼミナール 応用ゼミナール 子どもの音楽Ⅰ 子どもの音楽Ⅱ

令和7年度 幼児保育学科 兼任講師担当科目一覧

氏 名	授 業 科 目
高 下 梓	情 報 処 理 演 習

令和7年度 幼児保育学科 兼任講師担当科目一覧

氏 名	授 業 科 目
飯 田 しのぶ	子 ど も の 音 楽 I
伊 東 和 広	暮 ら し の 中 の 数 学
金 枝 真佐尋	暮 ら し の 中 の 憲 法
鎌 倉 哲 子	子 ど も の 音 楽 I
小 池 由 美	子 ど も の 音 楽 I
中 島 弘 毅	子どもと健康 子どもと運動遊び 保育内容の指導法 I (健康・表現)
野 田 あゆ子	子 ど も の 音 楽 I
水 野 尚 子	子 ど も の 食 と 栄 養
山 口 真 理	子 ど も の 音 楽 I